令和元年度

自己点検・評価報告書

根拠資料編　第 2 分冊（基準 2）

令和 2 年 3 月

独立行政法人国立高等専門学校機構

岐阜工業高等専門学校

根拠資料一覧

基準	観点	資料番号	資料名称
基準2	2-1-①	資料2-1-1-(1)-01	本校の学科の構成が明示された規程
基準2	2-1-②	資料2-1-2-(1)-01	本校の専攻科の構成が明示された規程
基準2	2-1-③	資料2-1-3-(1)-01	教育活動に携わる運営体制が明示された資料（委員会活動）
基準2	2-1-③	資料2-1-3-(1)-02	運営体制を規定した規則
基準2	2-1-③	資料2-1-3-(2)-01	運営体制に必要な活動が行われていることがわかる資料
基準2	2-2-②	資料2-2-2-(3)-01	適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当していることがわかる資料
基準2	2-2-③	資料2-2-3-(1)-01	教員の年齢構成が明示されている資料
基準2	2-2-③	資料2-2-3-(2)-01	教育研究水準の維持向上・教育経歴・男女比への配慮の取組や公募制がわかる資料
基準2	2-2-③	資料2-2-3-(2)-02	本校教員の男女比が明示されている資料
基準2	2-2-③	資料2-2-3-(3)-01	学位取得支援（負担軽減）の導入がわかる資料
基準2	2-2-③	資料2-2-3-(3)-02	任期制の導入がわかる資料（グローバル教員）
基準2	2-2-③	資料2-2-3-(3)-03	公募制の導入がわかる資料
基準2	2-2-③	資料2-2-3-(3)-04	教員表彰制度の導入がわかる資料
基準2	2-2-③	資料2-2-3-(3)-06	他の教育機関との人事交流支援がわかる資料
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(1)-01	校長との教員面談通知メール（4/12に総務・企画係からメール配信）
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(1)-02	特別功労者表彰規程
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(1)-03	論文掲載料支援実施要項
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(1)-04	校長裁量経費（専攻科生担当教員への補助）
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(1)-05	国立高等専門学校教員顕彰実施要項等
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(2)-02	特別功労者一覧
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(2)-04	校長裁量経費配分資料（特別研究主査）
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(4)-01	岐阜工業高等専門学校学習評価フォローアップワーキンググループ内規
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(4)-02	授業参観実施要項
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(4)-03	授業アンケート依頼文書
基準2	2-3-①	資料2-3-1-(4)-04	授業参観報告書サンプル（非常勤講師分）
基準2	2-3-②	資料2-3-2-(1)-01	岐阜工業高等専門学校教員選考手続細則
基準2	2-3-②	資料2-3-2-(1)-02	岐阜工業高等専門学校人事委員会規程
基準2	2-3-②	資料2-3-2-(1)-03	岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等
基準2	2-3-②	資料2-3-2-(4)-01	岐阜工業高等専門学校非常勤講師の選考に関する規程
基準2	2-4-①	資料2-4-1-(1)-01	FD活動の趣旨が明示された規程
基準2	2-4-①	資料2-4-1-(1)-02	FD活動の位置付けが明示された資料
基準2	2-4-①	資料2-4-1-(2)-01	FD活動の実施状況がわかる資料
基準2	2-4-①	資料2-4-1-(2)-02	年間を通したFD活動の状況がわかる資料
基準2	2-4-②	資料2-4-2-(1)-01	教育支援者（図書館の専門的職員含む）の配置状況がわかる資料
基準2	2-4-③	資料2-4-3-(1)-01	教育支援者等の資質向上の取組状況がわかる資料

本校の学科の構成が明示された規程

岐 阜 工 業 高 等 専 門 学 校 学 則

学　校　規　則　第　１　号
制定　昭和３８年４月１日

第１章　総則

（目的）

第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，有為の人材を育成することを目的とする。

２　本校は，前項の目的を実現するための教育，及びその内容を学術と技術の進展に即応させるための研究を行い，これを通して，地域と社会の持続的発展に貢献するものとする。

（自己評価等）

第２条　本校は，教育水準の向上を図り，高等専門学校の目的及び社会的使命を達成するため，教育研究活動等の状況について点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価の結果については，本校職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

３　第１項の点検及び評価についての必要な事項は，別に定める。

第２章　修業年限，学年，学期，休業日及び授業終始の時刻

（修業年限）

第３条　修業年限は５年とする。

（学年）

第４条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月３１日に終わる。

（学期）

第４条の２　学年を分けて，次の２学期とする。

前期　　４月１日から９月３０日まで
後期　　１０月１日から３月３１日まで

（休業日）

第５条　休業日は，次のとおりとする。ただし，特別の必要があるときは，校長は，これらの休業日を授業日に振り替えることがある。

一　国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日
二　日曜日及び土曜日
三　主管会議の議を経て定められた春季，夏季，冬季及び学年末休業日

２　前項に規定する休業日のほか，臨時の休業日は，校長がそのつど定める。

（授業終始の時刻）

第６条　授業終始の時刻は，校長が別に定める。

第３章　学科，学級数，入学定員，学科ごとの教育目的及び教職員組織

（学科，学級数，入学定員，学科ごとの教育目的及び履修コース）

第７条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとし，学科ごとの教育目的は別に定めるところによる。

学　科	学級数	入学定員
機械工学科	１	４０人
電気情報工学科	１	４０人
電子制御工学科	１	４０人

学　科	学級数	入学定員
環境都市工学科	１	４０人
建築学科	１	４０人

２　電気情報工学科に，次の履修コースを設ける。
電気電子工学コース

出典　岐阜工業高等専門学校学則

本校の専攻科の構成が明示された規程

（目的）
第３８条　専攻科は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

（専攻及び入学定員）
第３９条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。
先端融合開発専攻　２０人

（入学資格）
第４０条　専攻科に入学できる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。
一　高等専門学校を卒業した者
二　高等学校の専攻科の課程を修了した者のうち学校教育法第５８条の２の規定により大学に編入学することができる者
三　短期大学を卒業した者
四　専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第１３２条の規定により大学に編入学することができる者
五　外国において，学校教育における１４年の課程を修了した者
六　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１４年の課程を修了した者
七　我が国において，外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１４年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
八　その他専攻科において，高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学者の選考及び入学許可）
第４１条　校長は，入学志望者に対して，別に定めるところにより選考のうえ，入学を許可する。

（修業年限及び在学年限）
第４２条　専攻科の修業年限は，２年とする。ただし，４年を超えて在学することはできない。

（休学の期間）
第４３条　専攻科学生の休学期間は，１年以内とする。ただし，特別の理由がある場合は，１年を限度として，休学期間の延長を認めることがある。
２　休学期間は，通算して２年を超えることができない。
３　休学の期間は，前条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

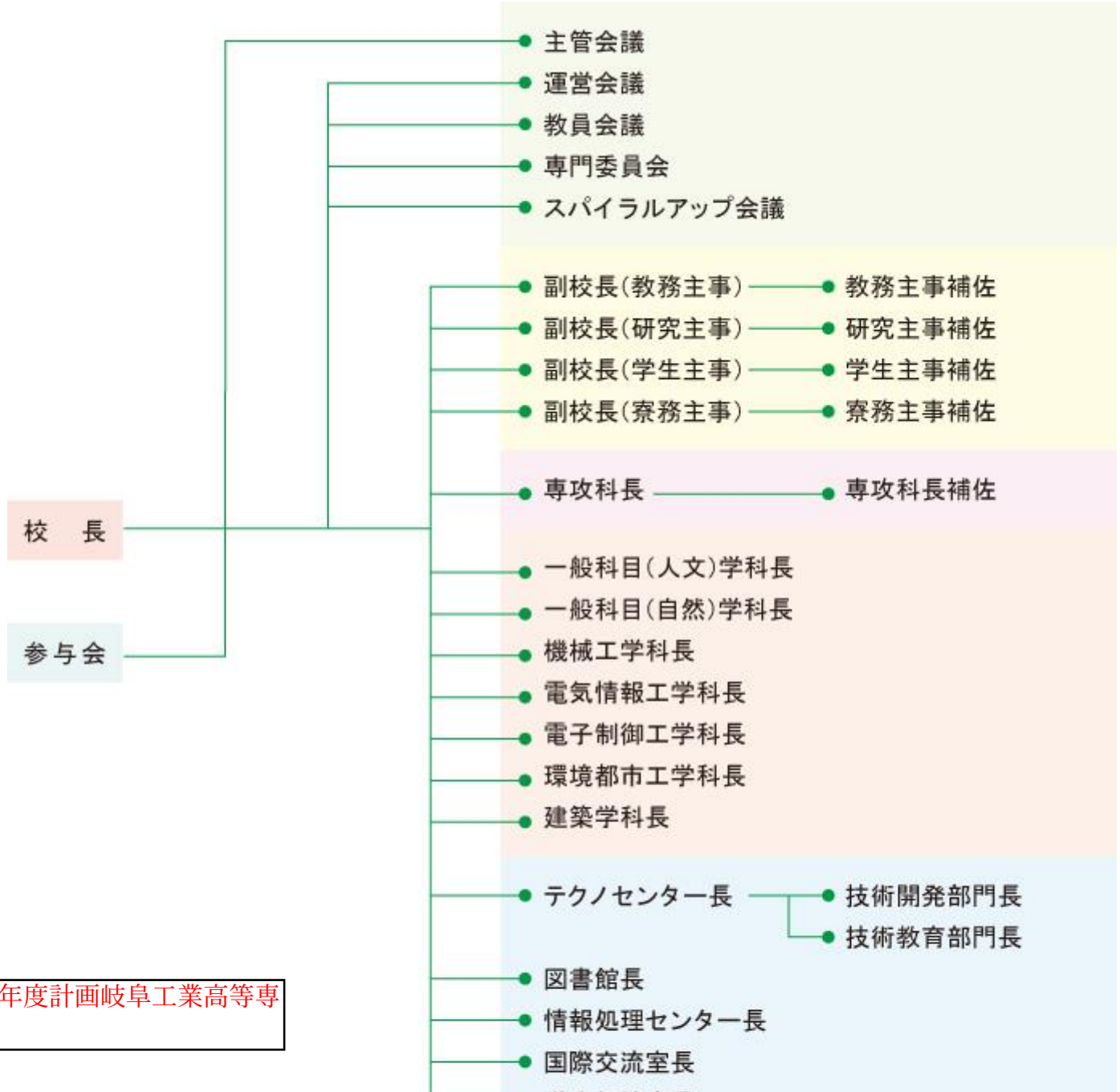
（教育課程）
第４４条　開設する授業科目及びその単位数は，別表第３のとおりとする。
２　授業科目の単位計算は，１単位の学修時間を教室内授業・課題学修等及び教室外学修を合わせて４５時間とし，次の各号の基準によるものとする。
一 講義については，授業等毎週１時間１５週をもって１単位とする。
二 演習については，授業等毎週２時間１５週をもって１単位とする。
三 実験，実習については，授業等毎週３時間１５週をもって１単位とする。
３　前項の規定にかかわらず，特別実習については，教室外４０時間の実習と教室内５時間の課題学修をもって１単位とする。
４　前２項に規定するもののほか，専攻科の授業科目の単位計算に関し必要な事項は，別に定める。

（修了）
第４５条　専攻科に２年以上在学し，所定の授業科目を履修し，６２単位以上を修得した者については，修了を認定する。
２　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。
３　第１項に規定する単位の修得については，別に定める。

（準用規定）
第４６条　専攻科学生については，第４条から第６条，第１２条，第１３条の３第１項，第１３条の４第１項，第１９条，第２１条，第２２条から第２５条の２第１項，第２７条から第３４

出典　岐阜工業高等専門学校学則

教育活動に携わる運営体制が明示された資料（機構



出典　令和元年度の年度計画岐阜工業高等専門学校学則学校要覧

運営体制を規定した規則

岐阜工業高等専門学校組織及び運営規程

学校規則　第１０８号
制定　昭和 49 年 9 月 18 日

（目的）
第１条　この規程は，岐阜工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第１１条の規定に基づき，岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織を定め，校務の円滑な運営を図ることを目的とする。
（校長）
第２条　校長は，校務を掌り，所属教職員を監督する。
（主事）
第３条　本校に，副校長として，教務主事，研究主事，学生主事及び寮務主事を置き，校長の職務を補佐する。
２　教務主事は，校長の命を受け，教学の総括等に関することを掌理する。
３　研究主事は，校長の命を受け，専攻科の総括，研究及び地域社会との連携総括等に関することを掌理する。
４　学生主事は，校長の命を受け，学生指導の総括等に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
５　寮務主事は，校長の命を受け，寄宿舎における学生指導等に関することを掌理する。
６　教務主事は教授をもって，学生主事及び寮務主事は教授又は准教授をもって充てる。
７　研究主事は教授をもって充て，校長が任命する。
（校長補佐）
第４条　本校に，学校運営に係る特命事項について校長を補佐するため，校長補佐を置くことができる。
２　校長補佐は，本校の教授をもって充て，校長が任命する。
（主事補佐）
第５条　本校に，主事を補佐するため，教務主事，学生主事及び寮務主事にあってはそれぞれ主事補佐を各１名，研究主事にあっては主事補佐（テクノ担当及びメディア担当）を各１名置くことができる。
２　主事補佐は，本校の教授，准教授又は講師のうちから校長が任命する。
（テクノセンター）
第６条　本校にテクノセンターを置く。
２　テクノセンターに，センター長及び副センター長を置き，本校の教授，准教授又は講師のうちから校長が任命する。
３　センター長は，主事補佐（テクノ担当）を充てる。
４　センター長は，テクノセンターの運営及び地域技術開発・教育に関する専門的事項を掌理する。
５　テクノセンターの運営については，別に定める
（図書館）
第７条　本校に，図書館を置く。
２　図書館に，館長を置き，本校の教授，准教授又は講師のうちから校長が任命する。
３　館長は，図書館の運営及び図書等の資料に関する専門的事項を掌理する。
４　図書館の運営については，別に定める。
（情報処理センター）
第８条　本校に情報処理センターを置く。
２　情報処理センターに，センター長を置き，本校の教授，准教授又は講師のうちから校長が任命する。
３　センター長は，情報処理センターの運営及び情報処理に関する専門的事項を掌理する。
４　情報処理センターの運営については，別に定める。
（国際交流室）
第９条　本校に，国際交流室を置く。

２　国際交流室に，室長を置き，本校の教授，准教授又は講師のうちから校長が任命する。
３　室長は，国際交流室の運営及び国際交流に関する専門的事項を掌理する。
４　国際交流室の運営については，別に定める。
（学生相談室）
第１０条　本校に，学生相談室を置く。
２　学生相談室に，室長を置き，本校の教授又は准教授のうちから校長が任命する。
３　室長は，学生相談室の運営，学生相談及びいじめの防止等に関する専門的事項を掌理する。
４　学生相談室の運営については，別に定める。
（男女共同参画推進室）
第１１条　本校に，男女共同参画推進室を置く。
２　男女共同参画推進室に，室長を置き，本校の教授，准教授又は講師のうちから校長が任命する。
３　室長は，男女共同参画推進室の運営及び男女共同参画に関する専門的事項を掌理する。
４　男女共同参画推進室の運営については，別に定める。
（キャリア支援室）
第１２条　本校に，キャリア支援室を置く。
２　キャリア支援室に，室長を置き，本校の教務主事をもって充てる。
３　室長は，学生のキャリア支援等に関する専門的事項を掌理する。
４　キャリア支援室の運営については，別に定める。
（専攻科）
第１３条　専攻科に，専攻科長を置き，本校の教授又は准教授のうちから校長が任命する。
２　専攻科長は，専攻科の総括に関し，研究主事を補佐する。
３　専攻科の運営については別に定める。
（学科長）
第１４条　学則第７条第１項に規定する学科及び一般科目（以下「学科等」という。）に学科長各１名を置く。ただし，一般科目にあっては２名とする。
２　学科長は，当該学科等の教授のうちから当該学科等の推薦により，校長が任命する。ただし，校長が必要と認めるときは当該学科等の准教授をもって充てることができる。
３　学科長は，当該学科等の教育研究活動及び学生指導の充実を図り，当該学科等内の連絡調整に当たる。
（学級担任）
第１５条　本校の学級に，学級担任各１名を置き，本校の教授，准教授，講師又は助教のうちから学科長の指名により，校長が任命する。
２　学級担任は，当該学級の運営及び学生指導等に関することを所掌する。
（学年主任）
第１６条　本校の学年に，学年主任各１名を置き，学級担任のうちから教務主事の推薦により，校長が任命する。
２　学年主任は，当該学年の学級担任との連絡調整に当たる。
（顧問）
第１７条　本校の学生会のクラブ及び同好会に，それぞれ顧問を置く。
２　顧問は，学生会のクラブ及び同好会の指導に当たる。
３　顧問は，教員をもって充てる。
（会議）
第１８条　本校に次の会議を置く。
一　主管会議
二　運営会議
三　教員会議
四　学科会議
五　教務会議
六　専攻科会議
七　学生会議
八　寮務会議

九　　学級担任会議
十　　クラブ顧問連絡会議
十一　スパイラルアップ会議
十二　キャリア支援室会議
２　会議の組織及び運営については,別に定める。
（専門委員会）
第１９条　本校に，校長が必要と認めたときは，専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会の組織及び運営等については,別に定める。
（事務組織及び分掌）
第２０条　本校の事務組織及び事務分掌については,別に定める。
附　則
１　この規程は，昭和 49 年 9 月 18 日から施行し，昭和 49 年 4 月 1 日から適用する。
２　本校委員会規程及び本校会議運営要項は、廃止する。
附　則（昭和 54 年学校規則第 1 号）
この規程は,平成 54 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（昭和 63 年学校規則第 6 号）
この規程は,昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 4 年学校規則第 3 号）
この規程は,平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 5 年学校規則第 19 号）
この規程は,平成 5 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 7 年学校規則第 15 号）
この規程は,平成 7 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 10 年学校規則第 3 号）
この規程は,平成 10 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 13 年学校規則第 1 号）
この規程は,平成 13 年 1 月 6 日から施行する。
附　則（平成 13 年学校規則第 3 号）
この規程は,平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 16 年学校規則第 26 号）
この規程は,平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 18 年学校規則第 4 号）
この規程は，平成 18 年 5 月 31 日から施行し，平成 18 年 4 月 1 日から適用する。
附　則（平成 18 年学校規則第 13 号）
この規程は，平成 18 年 9 月 6 日から施行し，平成 19 年 4 月 1 日以後の校務分掌について適用する。
附　則（平成 19 年学校規則第 3 号）
この規程は,平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 22 年学校規則第 12 号）
この規程は，平成 22 年 5 月 24 日から施行し，平成 22 年 4 月 2 日から適用する。
附　則（平成 23 年学校規則第 5 号）
この規程は，平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 25 年学校規則第 9 号）
この規程は，平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 26 年学校規則第 2 号）
この規程は，平成 26 年 1 月 6 日から施行する。
附　則（平成 26 年学校規則第 7 号）
この規程は，平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 29 年学校規則第 1 号）
この規程は，平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（令和 2 年学校規則第 5 号）
この規程は，令和 2 年 1 月 22 日から施行する。

運営体制に必要な活動が行われていることがわかる資料（委員会活動）

平成30年度　会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
1	主管会議	校長	総務・企画係	適切に審議され実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A		17	定例会議15回、臨時会議を2回開催し、適切に審議され実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。 また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	清水教授	良好である。	A	
2	運営会議	校長	総務・企画係	適切に協議され実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A		19	定例会議15回、臨時会議を4回開催し、適切に協議され実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、全教職員に会議資料を共有することができ、共通理解を得ることができた。 また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	清水教授	良好である。	A	
3	スパイラルアップ会議	校長	総務・企画係	適切に審議され実施できた。	特になし	活動状況は良好である。	A		1	適切に審議され実施できた。	特になし	所教授	活動状況は良好である。	A	
4	教務会議	教務主事	教務係	入学志願者数の確保、Webシラバスの導入、MCC対応に向けた教育課程表の変更、帰国子女特別選抜実施方法等に対し検討を行ってきた。2年連続原級留置となった場合、退学とする規定を復活させた。一時的に退学者は増える可能性はあるが、長期的には対象学生に緊張感を持たせることが有効と考えられる。また、1～3年の原級留置の学生に対して評価8以上の科目の履修を不要とし、不得意科目の克服に時間を充てられるように内規の一部改正を行った。	積立金の廃止に伴う研修旅行の見直しや退学率や原級留置率の減少に向けた具体的な対策の検討と実施が必要である懸念がある。特に2年連続留年での退学が復活するため、高専の高度化・国際化とMCC対応などで、学修内容がレベルアップすると、その対策は直ちに実施すべきであると懸念する。	④にある退学率・原級留め置き率の減少に向けた具体的な対策の検討と実施が必要である懸念がある。特に2年連続留年での退学が復活するため、高専の高度化・国際化とMCC対応などで、学修内容がレベルアップすると、その対策は直ちに実施すべきであると懸念する。	A	検討するだけで無く、直ちに行動に移し、全教職員と学生で意識共有することが望まれる。	34	Webシラバスの運用やMCCに対応したカリキュラムの検討、Office365を活用した授業時間割の作成、オープンキャンパスや中学校訪問など入学志願者の確保に向けた広報活動等を中心に行った。仮進級学生の単位取得状況を担任にも提供し情報の共有を図るとともに、該当学生に対する指導や追認試験に関する申合せを策定した。また、平成31年度版から教職員用と保護者用の二種類の年間行事予定表を作成し、学外HPには保護者用を掲載する方向で進めている。	現行の成績処理システムCampus Assistのシステム更新及び学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての対応を並行して行っていく状況下で教職員の負担軽減を図りながら公正な処理を維持していく必要がある。	吉村教授	学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての進展状況、今後の学内対応等について学内周知が望まれる。	C	・学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての学内周知 ・平成31年度：新規に教職員用と保護者用の二種類の年間行事予定表が作成されており、学外HPに保護者用が掲載予定であるので、その評価が必要
4	−1 FD活動推進会議	教務主事	教務係	授業参観週間（前後期に1週間）の設置、FD講演会2回（前期テーマ：「授業を設計・構成する力　−教科教育学の知見を踏まえて−」、後期テーマ：「アクティブ・ラーニングの4つの視点」）を実施した。講演会資料や公開可能なものに対しては、教務掲示板上で提供した。	結果として、授業参観やFD講演会への教員の参加率等は前年度とほぼ同様であり、改善を継続していく必要があるが、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	取組の更なる可視化で、実のある活動となることが期待できる。	A	教育改革の流れの「教育APと連動した可視化」を是非進めて頂きたい。	各2	授業参観やFD講演会に対する教員参加率は増加していないものの、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	授業参観やFD講演会に対する教員参加率は増加していないものの、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	吉村教授	活動は良好である	A	特になし
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、JABEE継続の検討、特例変更届への対応等を実施した。 検討予定であった特別研究1英語発表についても、詳細な実施方法を検討し、実施要綱を作成した。	活動状況は良好である。 次年度については、これまでの活動を継続するとともに、新たに大学との共同教育について検討する予定である。	前回課題として示された特別研究1英語発表に関する実績が示されており、活動状況は良好である。	A		12	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、JABEE継続の検討、特例変更届への対応、特別研究1英語発表等を実施した。 検討予定であった大学との共同教育（連携教育プログラム）についても、豊橋技術科学大学との打ち合わせを重ね、入学者募集要項案を作成した。	活動状況は良好である。 次年度については、これまでの活動を継続するとともに、引き続き連携教育プログラムの詳細を検討し、決定する。	山本学生主事	活動状況は良好である	A	
6	学生会議	学生主事	学生係	予定された学生会行事の実施に加え、各方面から提起された案件に審議のうえ対応した。窓ガラス破は28年度33件から29年度7件と大幅減、交通事故は28年度35件から28件と微減、紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となり、特に紛失は学生会議による4時限の1号館3階巡回や伊吹出入口に防犯カメラ設置等の対応を実施した。	会議は良好に行われている。学生指導の基準・方法に関しては概ね学内の合意を得て見直しを済ませた。今後は主に教務会議と連携して、単位追認試験で不正行為が発生した際の統一的な対応の合意に向け検討する予定がある。学生会費の先細りが指摘されており、高専祭開催とクラブ関係の双方を検討する予定がある。	活動状況は良好である。	A		31	予定された学生会行事の実施や、各種活躍した学生達への表彰を実施、学生の懲戒に関する事案について審議のうえ対応した。窓ガラス破は28年度33件から29年度7件30年度は4件（5人）と減少傾向であった。交通事故は28年度35件から29年度28件、30年度も28件と同数となった。紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となったが、30年度は8件と減少できた。防犯や盗難への抑止となるよう、伊吹出入口防犯カメラ設置に続き、第1体育館入口、6号館女子トイレ付近にもカメラの設置をした。	会議は良好に実施できた。30年度は年間約30件発生する交通事故が気になった。自転車・原付バイク・自動車運転について、更なる安全指導をする必要性を感じている。課外活動や各種コンテストで活躍する学生達が増えてきており、非常に喜ばしいことではあるが、その支援の方法が今後の課題となってくる。また、それに伴う教員の業務負担の増加についても対策を考える予定である。	麻草前寮務主事	活動状況は良好である。交通安全指導のさらなる充実、課外活動支援と教員の業務負担軽減についての継続した検討が期待される。	A	
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	寮務会議、寮生会行事は予定通り行われた。退寮指導を3名、停寮指導を11名に対して行なった。男子1年生と指導寮生との関わり方を見直した。昨年度に続き温水洗浄器付便座設置個所を増やし、全寮棟の全階に1つは温水洗浄器付便座が設置されるに至った。夏季休業期間に男子浴室内装改修工事を行なった。試行ではあるが、学生からの要望が強かったウォーターサーバーを全談話室に設置した。	男子1年生と指導寮生との関わり方を見直した結果か、入寮後早い時期（前期間）での退寮者が出なかった。飲酒に関わる指導件数が多かったため、それを防ぐ指導が必要である。寮生数が増加の傾向にあり、定員超過時の対応や受入数の拡大に向けての検討が必要である。	活動状況は良好である。	A		29	寮務会議、寮生会行事は予定通り行われた。退寮指導を4名、停寮指導を15名に対して行なった。女子寮の居室配置の見直し(同学年での相部屋)、アンケート調査実施など、女子寮快適性の向上を図った。温水洗浄器付便座は全洋式便座に設置され、試行であったウォーターサーバーも本設置となり、男子寮乾燥機使用を無料とした。インフルエンザ予防接種を学内で実施し、利用者は前年比約1.5倍となった。定員超過が予想された女子寮において、退寮対象者への早めの情報提供に努めた。また、寮務会議委員の業務負担軽減のため、寮棟巡回を朝のみとした。	飲酒、寝坊に関する指導件数に改善が見られず、更なる指導上の工夫が必要である。	山本学生主事	活動状況は良好である	A	
8	将来計画委員会	教務主事	総務・企画係	計画通り開催され、外部評価の実施方法、参与会との関連付け等を中心に検討を行った。	機構本部から教員定員削減検討の指示があるなど、中長期的な展望が難しい状況にある。	展望が困難な状況において比較的、活動状況は良好である。	A		4	計画通り開催され、外部評価の実施方法、会議・委員会等における教員の負担軽減等についての検討が行われた。具体的には専攻科運営規程をはじめとする関連規程において、一般科目からの選出委員を2名から1名に変更することが承認された。	機構本部から教員定員削減の指示がある状況下で、学校単独での方針の決定や中長期的な展望は行うには、難しい状況にある。	麻草前寮務主事	活動状況は良好である。	A	
9	財務・施設委員会	校長	財務係・施設係	財務・施設委員会の主な活動内容（開催回数5回） ●第1回①「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」の策定について②平成29年度実施事業（施設整備費補助金事業、営繕事業）について ●第2回①平成28年度決算について②平成28年度校長裁量経費の決算について③平成29年度予算配分（案）について ●第3回①平成30年度予算配分方針（案）等について②平成30年度概算要求事業について③平成30年度営繕要求事業について ●第4回①平成30年度予算配分審査（要求ヒアリング）②平成30年度施設整備実施予定事業について③平成31年度施設整備費補助金の概算要求事業について ●第5回①平成30年度予算配分について②平成30年度　教員室等の継続使用（不動産使用許可）及び冷暖房機器の継続使用について③設備整備マスタープランの策定について	適切に審議され、実施された。	十分な審議が行われ、各事業が実施された。	A		4	財務・施設委員会の主な活動内容（開催回数4回） ●第1回①平成29年度決算について②平成29年度校長裁量経費の決算について③平成30年度予算配分（案）について④平成31年度概算要求事業（施設整備費関係）について⑤平成30年度実施事業（施設整備費補助金事業・営繕事業）について⑥建築学科棟改修工事期間中の居室等について⑦その他（高専教育充実設備費について） ●第2回①平成31年度予算配分方針（案）等について②平成30年度施設整備費補助金事業・営繕事業進捗状況及び平成30年度追加予算事業について③その他（①平成30年度高専と大学の共同教育プログラムの構築支援校の採択結果について②暖房期間について） ●第3回①平成31年度予算配分審査（要求ヒアリング）②平成31年度施設整備補助金実施予定事業について③2020年度施設整備費概算要求事業について ●第4回①平成31年度予算配分について②設備整備マスタープランの策定について③2019年度教員室等の継続使用（不動産使用許可）及び冷暖房機器の継続使用について	適切に審議され、実施された。	麻草前寮務主事	適切に審議され、各事業が実施された。	A	
10	入試運営委員会	教務主事	教務係	臨時会議を1回開催したものの、ほぼ当初の計画通り、開催された。主な審議事項は、専攻科入試方法（TOEICスコア換算方法など）の変更、帰国子女特別選抜の実施方法、学外検査場（名古屋会場）の廃止等である。	従来から実施の推薦選抜、学力選抜に加え、帰国子女特別選抜の実施要項が確立された。	新たな取り組みとして、帰国子女特別選抜を導入するなど活動状況は良好である。	A		5	当初の計画通り、開催された。主な審議事項は、専攻科学力検査による選抜方法の変更である。具体的には、判定項目として従来から実施している数学、英語に加え、高専4年次に相当する専門科目の評価を反映した調査書を追加した。また、英語点数の換算方法として従来から採用しているTOEICスコアに加え、TOEFL iBTスコアの選択も可能にした。以上の変更は2020年度専攻科入試から適用される。	専攻科学力選抜方法の変更により、数学、英語だけでなく、専門分野の能力も加味されることになり、よりバランスの取れた選抜が実施できる見通しである。	麻草前寮務主事	専攻科学力選抜方法について、よりバランスの取れた選抜が実施できる見通しであるなど、活動状況は良好である。	A	
11	広報委員会	学生主事	総務・企画係	前後期2回の対面会議に加え、必要が生じるたびにメール審議形式で意見を集約したうえで対応した。	教育AP事業、グローバル高専拠点事業、デザコン開催など、本校が関連する各種事業を中心に、HP並びに冊子を利用した広報活動を展開した。HP更新や掲載内容に関する各種意見が寄せられるたび、全学科・全事務部局から構成される委員にメール審議形式で情報共有し、合理的な対応を実施している。	対面会議に加えて適宜メール審議が行われ、活動状況は良好である。	A	教育・研究・社会連携活動に関する各種の事業が実施されており、委員会として広報活動が展開されている。今後は、学校全体として、本校の強みおよび弱みの補強策などを整理分析し、広報活動に繋げることが望まれる。	2	H30年度も前年度同様、前後期2回の対面会議を実施した。確認事項等必要が生じたとき、メール審議にて確認した。また、本校の強み及び弱みの補強策について、今年度HPを更新した。内容として、トップページに・KOSEN(高専)4.0イニシアティブ事業・教育AP事業・グローバル高専拠点事業・についてバナーを開設し、各事業についての情報を発信した。	KOSEN（高専）4.0イニシアティブ事業、教育AP事業、グローバル高専拠点事業、全国高専フォーラム開催など、本校が関連する各種事業を中心に、HP並びに冊子を利用した広報活動を展開した。HP更新や掲載内容に関する各種意見が寄せられるたび、全学科・全事務部局から構成される委員にメール審議形式で情報共有し、合理的な対応を実施している。	吉村教授	2回の対面会議に加えて適宜メール審議が行われ、活動状況は良好である。 また、昨年度指摘された改善事項については、強みがHP等で情報発信された。	A	
12	人事委員会	校長	総務・企画係	10回の委員会を開催し適切に審議され実施された。	適切に審議され、実施した。	適切に実施されている。	A	引き続き適切な実施を継続して下さい。	11	採用・昇任等の審議を実施した。	適切に審議され、実施した。	所教授	適切に実施されている。	A	
13	安全衛生委員会	校長	総務・企画係 契約係 施設係	年間安全衛生活動計画により、次の事項について12回審議した。 ・安全衛生管理体制の確立 ・職場の安全衛生と作業環境の確保（職場の安全・衛生巡視等） ・健康管理（熱中症の予防講習会）・健康増進の実施 ・安全衛生教育の実施（救急法講習会等） ・設備・備品の転倒防止対策 ・ストレスチェックの実施（外部委託） 【防災対策関係】・防災訓練、防災備蓄備品関係について1回審議した。	適切に審議され実施した。	適切に実施されている。	A	ストレスチェックの実施後の、その改善へ向けた活動が可視化されると尚良い。	安全衛生12 防災関係1	毎月の衛生に関する事項と、9月に防災に関する次の事項を審議した。 ・職場の安全衛生と作業環境の確保（職場の安全・衛生巡視等） ・健康管理（熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起） ・健康増進の実施 ・安全衛生教育の実施（救急法講習会等） ・防災備品の充実 ・ストレスチェックの実施（外部委託）	適切に審議され、実施した。	所教授	適切に実施されている。	A	

平成30年度　会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
14	点検評価・フォローアップ委員会	委員長	総務・企画係	①H29年度年度計画の達成状況を点検評価（中期計画WG） ②H29年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定（学習評価フォローアップWG） ③H29年度授業アンケート結果の分析（学習評価フォローアップWG） ④H29年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査（学習評価フォローアップWG）	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	4	①H30年度年度計画の達成状況を点検評価（中期計画WG） ②H30年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定（学習評価フォローアップWG） ③H30年度授業アンケート結果の分析（学習評価フォローアップWG） ④H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査（学習評価フォローアップWG） ⑤点検評価・フォローアップ委員会の学内向け掲示板のレイアウトを刷新した。 http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/followup/followup.html	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-1 中期計画WG	委員長	総務・企画係	①親委員会の①で実施した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	3	①親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の①に示すように実施した。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-2 自己点検・評価実施WG	委員長	総務・企画係	①スパイラルアップ会議における教育点検システム（概略図）の確認を行った。 ②H26～28年度の学校独自の計画及び実施報告をまとめ、外部評価としての評価を参与会に依頼した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	3	①『内部質保証システム構築』の観点から岐阜高専独自の自己点検・評価規程(案)及び同基準と項目についての内規(案)を策定し、主管会議・運営会議に提案し成案された。 http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-2.pdf http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-3.pdf ②H29・H30年度の参与会による外部評価の方法（実施は平成31年度5月）を策定した。主管会議・運営会議に提案し了解された。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-3 学習評価フォローアップWG	委員長	総務・企画係	①親委員会の②で策定した方針を基に、新しい実施要領を定め、WGで具体的な作業を実施した。 ②H29年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会で④（H29年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査）を実施した。 ④5年ごとに行われる就職先アンケート（本科・専攻科）の取りまとめをWGで実施した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	4	①親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の②で策定した方針に準じてWGで具体的な作業を実施した。 ②H30年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の④に示す『H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査』を実施した。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
15	国際交流室会議	[redacted]	教務係	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシアエ科大学から2名、バンドンエ科大学から2名、トリノエ科大学(タケント校)から2名、そして今年度から新たに中部エ木大学から2名、ハノイ建設大学から2名、ハノイエ科大学短期部から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行なった。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシアエ科大学に3名、バンドンエ科大学に3名、トリノエ科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitted に2名を派遣し3週間の実習をなった。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若鮎基金からの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター 等の懇談会、校長との懇談会など)、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームスティなど)の各種イベントを実施した。 ■高専に在籍する長期留学生を対象とした東海地区外国人留学生交流会を豊橋青少年交流の家にて行い11名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール リパブリックポリテクニックの学部生2名を5か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にIUTリールAの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■海外大学との学術交流の一環として(ESDPR&EE: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction、Engineering Education)に関する共同セミナーを開催した。交流協定大学を含めて5ヶ国、7大学（計17名）の参加があり、本校、福井高専、明石高専などからの口頭発表、ポスター展示があった。交流協定締結以来、毎年開催しているものであるが、今年度はバンドンエ科大学以外の協定校に拡大して実施し学術交流の深化に大きく貢献した。	■教職員の業務のバランス調整 国際交流室には専任教員が配置されていないことから、専任教員を置くなど他の業務とのバランス調整が必要である。また、担当事務が学生課か総務課なのかはっきりしていない業務があり、調整に時間がかかり非効率であり改善を要する。 ■本科生を対象とした語学研修および本校学生と短期留学生との交流 JASSO(日本学生支援機構)支援による短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。多くの学生が携われるような仕組みを考え、「留学生サポーター」を結成し実施した。国際連携実習の時間数を超えて活動することは難しく、単位化には結びつかなかった。次年度の課題としたい。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドンエ科大学(ITB)、マレーシアエ科大学(UTM)、ハノーバー大学、アイオワ大学、トリノエ科大学タシケント校、中国鎮江パイテックに加え、ベトナムの提携校、およびIUTを加えて募集をかけている。継続的な取組みとするためには同人数の双方向交流が望まれる。そのためにJASSOによる派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。トビタテ留学JAPANプログラムも活用しているが、まだ採択に至っていないため、活用するようさらなる働きかけをしたい。 ■海外渡航時の危機管理 学生のみならず教職員の海外渡航時の危機管理を目的に本年度、民間の危機管理会社との契約を行い、不測の事態に対応できるよう制度ならびに組織整備を行った。次年度以降もこれらを継続するとともに、短期留学では必ず加入するよう徹底させる。 ■海外大学との学術交流 交流協定を締結した大学との双方向交流、特にマレーシアエ科大学における研究者間との交流に努める。	適切に実施されている。ただし、④にあるとおり他の業務との、また、他の教員とのバランス調整が必要な時期に来ている懸念がある。	A	高専機構による重点項目である。ただし、過度な負担、もしくはこの事への負担が、本来の本校学生への支援を妨げるものとならない様、担当事務職員の業務分担を含めて改善することが望まれる。	9	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシアエ科大学から2名、バンドンエ科大学から2名、トリノエ科大学(タケント校)から2名、ハノイ建設大学から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行なった。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシアエ科大学に3名、バンドンエ科大学に3名、トリノエ科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitted に2名を派遣し3週間の実習をなった。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若鮎基金からの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター 等の懇談会、校長との懇談会など)、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームスティなど)の各種イベントを実施した。 ■高専に在籍する長期留学生を対象の東海地区外国人留学生交流会(豊田高専主管)として豊田市近郊の文化体験・工場見学を行い、3名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■トビタテ留学ジャパンへの応募を検討している学生に対し、応募申請のサポートを行ない、高校生コースに4名、大学コースに3名の応募があった。なお、高校コース4名のうち3名が書類審査を通過した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール リパブリックポリテクニックの学部生4名を5か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にIUTリールAの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■昨年度実施した共同セミナーESDPR&EE: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction、Engineering Educationの第二回を開催した。交流協定6大学から計12名の参加があった。また、本校専攻科生3名の口頭発表、本校専攻科生2年生全員のポスター発表も行われた。	特になし	麻草前寮務主事	活動状況は良好である。	A	
16	人権委員会	事務部長	総務・企画係	ハラスメント対策としてDVDを購入し、教員会議の際に視聴した。また、新任教員研修時に視聴することとしている。 外部相談窓口として、顧問弁護士と継続契約した。 「学生支援に関する講演会」を、学生相談室と共同で開催した。	ハラスメントの可視化について、具体的な検討をする必要がある。	現在はハラスメントが表立って問題となっているとの認識は無いが、④でハラスメントの可視化について具体的な検討をする必要があるとのことなので、なにがしかの懸念があるのではと判断しますが、表だった情報からは特に問題ありません。	A	もし、ハラスメントの可視化につい、なにがしかの懸念があるのであれば、改善を期待します。	2	特に問題はあがってきていない。	適切に審議され、実施した。	清水教授	活動状況は良好である。	A	
17	情報セキュリティ管理委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)情報セキュリティ推進委員会の活動内容を確認した。 2)情報セキュリティトップセミナーの案内を周知した。	活動は良好である。	適切に実施されている。	A	ネットワーク認証関係でのトラブルが長引いていますが、セキュリティ関係には最大限の活動の継続をお願いします。	0	1)情報セキュリティトップセミナーの案内を周知した。	適切に実施されている。なお、毎年年度末に開催していた情報セキュリティ推進委員会の活動報告を、翌年度の年度初めに移行したため、今年度は会議を開催していない。	和田教務主事	情報セキュリティ管理委員会は、一般的管理業務であり、主管会議、運営会議、メディア委員会などを通じて、情報セキュリティ推進委員会の活動状況、情報セキュリティ監査等の対応が適切に把握されている。	A	引き続き、情報セキュリティ推進委員会の活動を把握し、情報セキュリティ強化を進めていただきたい。
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)教職員向情報セキュリティ教育の実施 1-1)情報セキュリティに関するe-Learing教育（全教職員が受講） 1-2)標的型メール訓練 2)情報セキュリティインシデントへの対応 4/13に事務職員PCがマルウェアに感染するインシデントが発生した。機構本部CSIRTや文科省への報告を適切に処理した。 3)情報セキュリティ人材育成事業について 3-1)学生向け情報セキュリティ講演会の実施 3-2)専攻科棟教室改修によるAL対応化 3-3)LMSによる情報セキュリティコンテンツ展開のための準備 3-4)高専キャラバン隊による情報セキュリティ演習の実施 3-5)ブロック拠点校（石川高専）開催の学生向け情報セキュリティイベントへの学生派遣 3-6)情報セキュリティに関する研修への教職員の派遣	IT資産管理調査については、機構本部から実施指示がなかったため、今年度は実施していない。高専全体で利用しているIT資産管理システムが更新されたため、今後各教職員管理PCのIT資産管理ソフトウェアの入れ替えを予定している。	適切に実施されている。	A	IT資産管理調査はシステムにより自動的に実施されると教職員の負担が減って良いと思います。	5	1)教職員向情報セキュリティ教育の実施 1-1)情報セキュリティに関するe-Learing教育（ほぼ全教職員が受講） 1-2)情報セキュリティ講習会の実施(1/31) 1-3)高専機構による標的型メール訓練 2)情報セキュリティ監査について 監査において指摘が2項目、注意が10項目あった。次年度対応を協議する。 3)情報セキュリティインシデントへの対応 11/2に本校学生による情報セキュリティインシデントが発生した。機構本部CSIRTへの報告を適切に処理した。 4)新IT資産管理システムによるIT資産管理調査の実施 5)情報セキュリティ人材育成事業について 年度当初に各専門学科で情報セキュリティ教育実施計画を策定し、計画に基づき実施した。	適切に実施されている。	和田教務主事	情報セキュリティ教育、情報セキュリティ監査、情報セキュリティインシデント、IT資産管理等への対応が適切に実施されている。	A	昨年度、情報セキュリティ監査に指摘された事項を改善していただきたい、また、4月上旬に発生した個人情報に関するニューマンエラーについて、情報セキュリティ強化の観点から、留意点等を全教職員に周知していただきたい。
19	テクノセンター運営委員会	研究主事	研究協力係	■テクノセンター全般 ・外部資金の獲得等について、科研費、共同研究、受託研究、寄附金などの情報を提供し、全国あるいは第3ブロック内における本校の強みと弱みを明確にしながら、講習会等の実施、各種財団、研究助成の募集情報を周知した（科研費：26件、共同研究：23件、受託研究：3件（NEDOを含む）、寄附金：31件）。 ・学校として取り組む大型プロジェクト（教育AP、KOSEN4.0イニシアティブなど）について、関係機関（岐阜県・岐阜市・本巣市等）と調整して実施した。 ・地域連携協力会の運営委員会や総会などを通じて、研究プロジェクト（成果報告や研究シーズ紹介など）や人材育成事業を推進した。 ・シニアOBによる中核人材育成塾は、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、有料開講依頼、延べ3072名が受講した。 ■技術開発部門：良好である。 ・外部組織との連携（岐阜県商工労働部、岐阜県工業会など） ・IAMASとの連携（IoT関連の共同セミナーなど） ・高専連携クラウド推進室（オープンCAE・ものづくりミニワーキング） ■技術教育部門：良好である。 ・インターンシップ関連（本科＋専攻科：国内199名、海外23名） ー文科省へのインターンシップの届出制度申請予定 ・ものづくり/科学技術リテラシー教育実習 （単位認定者：本科70名、専攻科12名） ・自治体や各種団体から依頼されたイベントやリテラシー活動（43件）	活動は良好である。 ■テクノセンター全般：良好である。 ■技術開発部門：良好である。 外部金議参加に関しては、必要に応じてCDCに代理出席を依頼し、情報収集を行った。 ■技術教育部門：良好である。 特に、小中学生を対象とした多くの講座依頼があり、近隣の小中学校向けに数多くの教育活動を実施している。 昨年度の指摘事項、学校として取り組む事業については、運営金議、教員金議等で研究主事から報告している（AP事業、KOSEN4.。0イニシアティブ事業等）。また、具体的な地域連携活動については、テクノセンター委員会等で検討し、重要度や継続性に応じて取捨選択した。一方、教員の自己評価書における教育・研究・社会貢献等のエフォートについては、具体的な貢献度のエビデンス、エフォート等が申請されている。また、ホームページによる教育研究業績の公開、research mapなどにより教員の研究シーズが可視化されている。また、重要な案件については、既存の部門や推進室が中心となってプロジェクト方式で進めている。 これらの教育・研究・地域連携活動のバランスについては、引き続き優先順位などを考慮しながら、学校全体や学科、教員などの関連性を配慮してテクノセンターとして調整する。	活動は良好である	A	特になし	8	■テクノセンター全般 ・外部資金の獲得等について、科研費、共同研究、受託研究、寄附金などの情報を提供し、過去最高額（総額1.1億円）に達した（第三ブロックで2番目）。 ・学校として取り組む大型プロジェクト（教育AP、KOSEN4.。0イニシアティブなど）について、関係機関（岐阜県・岐阜市・本巣市等）と調整して実施した。 ・地域連携協力会の運営委員会や総会などを通じて、研究プロジェクト（成果報告や研究シーズ紹介など）や人材育成事業を推進した。 ・シニアOBによる中核人材育成塾は、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、有料開講依頼、延べ約3500名が受講した。2019年度は中核人材育成事業開始から10年目を迎える。 ■技術開発部門： ・外部組織との連携（岐阜県商工労働部、岐阜県工業会など） ・IAMASとの連携（IoT関連の共同セミナーなど） ・高専連携クラウド推進室は2018年度で廃止されるが、オープンCAEなどの地域連携活動は継続・推進した。 ■技術教育部門： ・インターンシップ関連（本科＋専攻科：国内201名、海外49名） ・ものづくり/科学技術リテラシー教育実習 （単位認定者：本科49名、専攻科4名）（昨年度：計82名） ・自治体や各種団体から依頼されたイベントやリテラシー活動	活動は良好である。 ■テクノセンター全般：良好である。 KOSEN4。0イニシアティブ事業で掲げた評価指標：技術相談件数30以上などを達成し、第4期に向けて本校の強みをさらに伸ばす工夫と克服する課題を検討する必要がある。 ■技術開発部門：良好である。 ■技術教育部門：良好である。 ー昨年度の指摘事項、学校として取り組む事業については、テクノセンター委員会等で検討し、重要度や継続性に応じて取捨選択した。重要な案件については、既存の部門や推進室が中心となってプロジェクト方式で進めた。これらの教育・研究・地域連携活動のバランスについては、引き続き優先順位などを考慮しながら、学校全体や学科、教員などの関連性を配慮してテクノセンターとして調整する。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし

平成30年度　会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
19	-1 高専連携クラウド推進室	[redacted]	研究協力係	大規模解析システムの活用技術を蓄積は行うことができたが、学内全体を対象とした利用講習会の準備として、今年度は研究室単位および授業単位での活用推進に方針を変更して活動を行った。 ・建築学科1研究室＋機械工学科1研究室での卒業研究や特別研究での有効利用ができた。 ・専攻科先端融合開発専攻での実習系科目において、本システムを活用した演習を行った。 ・航空宇宙研究グループとしては、特命教員2名と連携して、計算機活用の支援システムを開発した。 （室員とはメールでの情報交換で活動を進め会議は開催していない） ・航空宇宙研究グループの学科横断的な活動としては、数値解析技術に対して特命教員と連携し、機械工学科と建築学科の研究室間協力や、電気情報工学科の卒業研究支援などを実現し	数値解析を活用した研究開発を支援するために、来年度は学内全体を対象とした利用講習会を年2回程度は開催する。このための準備会議を2回実施する。 利用技術をまとめた情報発信用のウエブページを充実させることによって、学生や初心者の利用を支援する。	・目標であった「大規模解析システムの利用講習会」年4会の開催が未開催であるにもかかわらず、「室員とはメールでの情報交換で活動を進め会議は開催していない」との報告で推進室会議が一度も開催されておらず、室員間の情報共有が十分に行われているのか懸念がある。	C	・室員間の情報共有を十分にはかり、「大規模解析システムの利用講習会」を目標2回程度の開催が望まれる。	クラウド推進室講習会準備会議2 イニシャル連携講習会準備会議2	教職員および学生を対象に、大規模解析システムの利用を促進するために、以下の活動を行う。 1：専攻科の特別実験において、システムを活用した演習を行う。 　数値流体力学の大規模解析 2：研究開発の活用を促進するために、システム利用者講習会を行う。 　流体解析プリケーションの活用講座2回 　大規模並列数値解析の基礎演習2回 今年度は、イニシアティブの外部人材育成の活動と連携して、人工知能に関する基礎講座を開催する。 3：ニューラルネットワークの基礎講座2回	左の活動内容においては、以下の通り実施した。 1：　10/10、17、24、31の4回の授業において、専攻科学生6グループが、システムを活用した大規模流体解析演習を行なった。 2：　大規模解析システムの利用講習会を、以下の通り実施した。 前期分　7/31 6名参加　8/7 4名参加 後期分　11/13 11名参加　11/27 9名参加 3：　ニューラルネットワークの基礎演習を、以下の通り実施した。 12/11 11名参加　1/12 12名参加 以上より、昨年度の改善事項に対応できた。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	H31.3.31をもって高専連携クラウド推進室は廃止された。
19	-2 科学技術リテラシー教育推進室	[redacted]	技術室	本科の募集テーマ数11、実施テーマ数9、専攻科テーマ数4（本科と合同）にて実施された。また、本科受講者数79名のうち単位認定者数70名、専攻科受講者数12名のうち単位認定者数12名であった。昨年度に引き続き、単位認定書類の様式や提出方法の整備を図り、教員・学生に負担がないようにした。また、報告会は口頭発表からポスター発表に変更し、発表の時間的な制約がないようにした。また、ポスター前で交代で発表できるようにしたため、多数の学生が参加しているグループでもプレゼンテーションが十分行えるようになった。	リテラシー教育実習に参加する学生は増えてきており、活動は良好である。一方で、担当する教員はほぼ同じである。今後はテーマを提案する教員が増えることが望ましい。	活動は良好である	A	特になし	1	すべての学科からリテラシーのテーマが提案され、募集テーマ数は11であった。そのうち本科に8テーマ49名、専攻科テーマ数2（本科と合同）4人の応募があった。そして、本科15名に1単位、3名に2単位、専攻科4名に2単位を認定した。 ・5月22日に受講者に対しガイダンスを行なった。 ・ぎふ・サイエンスフェスティバルには岐阜高専としてブース出展し、活動の成果を発表した。 ・1月30日に成果発表会を行い、テーマごとにポスター発表をした。	活動は良好である。 応募者数は昨年度に比べ減少したものの、テーマ数は昨年度と同様であり、また全学科としての取り組みが行なわれている。 応募学生を増やすためには低学年へのリテラシー活動の周知と複数年にわたる活動の継続が必要である。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19	-3 若鮎連携推進室	研究主事	総務・企画係	同窓会若鮎会設立50周年記念式典とレセプションが行われた（9/9）。 ・同窓会若鮎会設立50周年記念実行委員会（25名）が組織された。式典に先立ち、予算・実施計画等を若鮎会役員会に諮りながら進められた。チラシ作成や配布、報道機関への取材・広報、当日のパネル展示の準備など、卒業生が中心となり実施した。 ・式典終了後は、同窓会若鮎会設立50周年記念事業として、卒業生・教員等が講師となる公開講座を後期に計5回実施した。この事業は、次年度も引き継がれる予定である。 ・さらに、以前から実施している中核人材育成塾は、今年度、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、卒業生が講師として参画している。今年度、有料開講に延べ3072名が受講し、3000名を超えた。	活動は良好である。 ・若鮎会設立50年を経過し。世代間を繋ぐ人材活用について、各学科の同窓会組織と連携しながら、効果的に実践する必要がある。	活動は良好である	A	特になし	20 （メール会議を含む）	テクノセンターの若鮎連携推進室は、全学同窓会「若鮎会」および中核人材育成塾の「若鮎連携事業室」、建設技術士有志会などと連携して事業を推進している。 1)若鮎会設立50周年記念事業として開始された公開講座は、卒業生・教員等が講師となり3回実施した（岐阜大学教授、大野町長、山梨大学准教授）。 2)2019年度で10年目を迎える「中核人材育成塾は、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、企業経験をもつシニアOBが講師として参画している。今年度で有料開講に延べ約3500名に達した。 3)東海地域に在住する建設技術士有志会（約60名）と連携し、環境都市工学科の導入教育（1年生）、キャリア教育支援（4年生）などを実施し、国家資格：技術士1次試験合格者を表彰している。	活動は良好である。 ・若鮎会設立50年を経過し、世代間を繋ぐ人材活用について、各学科の同窓会組織と連携しながら、効果的に実践する必要がある。2019年度は建築学科が設立50周年を迎える。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19	-4 知的財産委員会	研究主事	研究協力係	平成29年度の知財申請は、機構承継（3）、学校承継一個人帰属（1）となっている。学校敷量（本校あるいは個人）が可能となり、特許出願に関しては、新規性などに加えて市場性、実用化の見通しなどがあることも重要である。企業との共同出願であればほぼ承継されるものの、単独出願の場合は承継は困難である。	活動は発明等届が申請されてから対応している。 提出された発明等届、発明評価書に基づいて学内審査手続きを進めており、発明評価書の新規性、市場性、活用性などについては、申請者と知財委員会メンバーとの間で差異が出る場合があり、CDなどの意見を参考にして最終的な判断を行っている。	活動は良好である	A	特になし	9 （メール審議を含む）	平成30年度の知財申請は、企業との共同出願（承継）の他に、特許を受ける権利の持ち分譲渡及び出願名義人変更手続きに係る同意書の提出、審査請求、外国出願などであった。	活動は良好である（新規＋審査請求対応＋外国出願など）。 提出された発明等届、発明評価書に基づいて学内審査手続きを進めており、発明評価書の新規性、市場性、活用性などについては、CDや機構本部などの意見を参考にして判断を行っている。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19	-5 機器分析室運営委員会	[redacted]	研究協力係	■（機器設備の管理に関する事項）機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理した。今年度はSEMの保守点検を行った。 ■（利用に関する事項）利用状況は前期449時間、後期873時間となった（集計はH28年度）	活動は良好である。 ・機器を導入して次年度5年が経過するため、メンナンス経費を確保する必要がある。 ・専攻科の授業「材料分析工学」で分析室の機器を使用した実習を行い、学生の分析に関する学習にも役立てた。	活動は良好である	A	特になし	1	■（機器設備の管理に関する事項） ・機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理している。今年度は、錠前取替、Arガスの交換、FT-IRの光源交換をおこなった。 ■（利用に関する事項） ・利用状況は前期488時間、後期657時間となった（集計はH29年度） ・専攻科の授業「材料分析工学」で分析室の機器を使用した実習を行い、学生の分析に関する学習に役立てた。	活動は良好である。 ・機器を導入して次年度6年が経過するため、メンナンス経費を確保する必要がある。 ・本塚先生が抜けるので新しい委員を入れる検討をする。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	■図書館部門 1)利用者講習会の実施、2)ブックハンティングの実施 2)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施 3)高専祭企画展、各種イベントの開催 4)iPad、ノートPC貸出（延べ計199台） 5)図書館だより、紀要の編集・発行 ■情報処理センター部門 (1) 第1学年情報処理センターガイダンスの実施 情報リテラシー教育の実施（1回）、セキュリティー講習会実施（2回） (2) 校内LANシステム定例打ち合わせ（2回） (3) 高専統一ネットワークの更新 (4) 高専統一ネットワークに外れる部分の更新 (5) IT資産管理調査の実施 今年度は実施通知がなく未実施 (6) 研修会等 (7)「情報処理教育・研究報告第 45 号」の発行 （平成 27 年度より、紀要と同時収録により電子化） (8) 無線 LAN の試験運用 (4 月より、全学生を対象に実施。600アカウント登録）	活動は良好である。 ■図書館部門 1)利用者数は広報活動等により微増した （昨年度より、貸出冊数は7。3%増、利用者数は8。1%増）。 2)OPACの利用促進を図る 新高専統一認証システムへの接続を行い、MyOPACにより図書リクエストや予約の電子化を進める。 3)電子ジャーナル利用促進を図る ■情報処理センター部門 1)平成31年度の高専統一学情ネットワーク導入に向けた支援準備 2)認証環境の整備とID管理のさらなる効率化 3)Office365の利用促進 4)演習室及び情報機器の管理と運用 （AP事業終了後を踏まえた検討）	両部門で多様な取組がなされており、活動状況は良好である。	A		6	■図書館部門 1)利用者講習会の実施 2)ブックハンティングの実施 3)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施 4)高専祭企画展、各種イベントの開催 5)iPad、ノートPC貸出（延べ計128台） 6)図書館だより、紀要の編集・発行 ■情報処理センター部門 1) 第1学年情報処理センターガイダンスの実施 2) 高専統一ネットワークの運用 3) 高専統一ネットワークに外れる部分の更新（web、メールサーバー） 4) IT資産管理調査の実施（AssetBase登録情報） 5) 研修会等（高専フォーラム、IT人材育成、情報担当者研修ほか） 6)「情報処理教育・研究報告第 46 号」の発行（紀要と同時収録） 7) 無線 LAN の試験運用（A科3、5年生対象）	活動は良好である。 ■図書館部門 1)利用者数はほぼ横ばいで推移した。今年度に引き続いて、無線LANの受付窓口をする、コーナーの展示頻度を上げるなどの対策を行う。 2)効率的に図書検索ができるように、OPACの利用説明を実施する（今年度は2年生全員）。 3)学生の電子ジャーナル利用促進を図る（今年度は5年生に簡易利用マニュアルを配付）。 ■情報処理センター部門 1)図書館棟改修に伴う対応（臨時図書館、サーバー室移動・演習室移動などの対応） 2)高専統一学情ネットワーク導入に向けた支援準備 （本格運用：2020年度） 3)認証環境の整備とID管理のさらなる効率化 4)Office365の利用促進 5)演習室及び情報機器の管理と運用 （AP事業終了後を踏まえた検討）	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	

平成30年度　会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	1)高専統一ネットワークの更新について 1-1)導入業者との打合せの実施 1-2)実施計画の策定 2)高専統一ネットワークから外れたサーバ群(Webサーバ・教職員メールサーバ・外部DNS)の更新について 2-1)サーバ更新(案)の策定 2-2)仕様の策定	活動は良好である。	各サーバー群の更新日程は遅れているが、外因によるものであり、本校の活動状況は概して良好である。	A		1	1)高専統一ネットワークの仕様から外れたサーバ群(Webサーバ・教職員メールサーバ・外部DNS)の更新について 高専統一ネットワークの認証サーバとの認証連携不具合への対策案を策定した。	活動は良好である。	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	
20	-2 アクティブラーニング推進WG	情報処理センター長	図書・情報係	各科の教務委員を通じて、Webシラバスの全科目導入が行われた。 アクティブラーニングに関わるFDを実施した。	活動は良好である。	教育AP推進委員会との連携により、設備基盤の充実も図られ活動状況は良好である。	A		3	・授業参観週間に合わせ、授業力向上のためのFD研修を実施した(実施回数:2回)。	活動は良好である。	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	
21	学生相談室会議	[redacted]	学生係	・自殺予防といじめ対策として、こころと体の健康調査(前期)と学校生活アンケート(後期)を実施し、LMS方式により集計作業を改善した。 ・毎月1回の相談室会議にカウンセラーが参加し、相談室運営の協議と、気になる学生に関する情報交換会を実施した。 ・相談室(カウンセリング、キャリア支援室(OB教員や相談室員による学習・進路)の利用案内、伊吹食堂と多目的室(休憩場所や勉強場所)の開放をポスターとホームページで周知した。 ・カウンセラー週5日待機によるカウンセリングを実施した。 ・OB教員や室員による進路・学習相談を実施した。 ・クレペリン検査(1、3年生のみ)に実施し、学生の自己理解と学級担任の学生指導に活用いただいた。 ・相談室員のスキルアップと学生相談の情報収集として、障害学生支援や東海北陸地区高専、全国高専の各研修会に参加した。 ・教職員向けの学生支援の学内講演会を1回実施した。 ・問題を抱えた学生をカウンセラー、室員、学級担任および関係教員と連携し、チーム支援を実施した。また、外部機関(社会福祉協議会、就労支援)、校医(精神科医)とも連携した。	・適切に審議され、実施された。 ・問題を抱えた学生のチーム支援の強化を目指したい。	多様な施策がなされ、かつ取組みの見える化も図られており活動状況は良好である。	A		11	・自殺予防、いじめ及びハラスメント対策として、前期に学生生活アンケートをLMS方式で実施し、学級担任と連携して学生のカウンセリングに繋げた。後期は、前期のアンケート結果を基に、更なる追跡調査を行い、担任と連携してカウンセリングに繋げた。 ・後期から、相談室として学習サポートルームを開設し、主に数学と物理の補習授業に対応した。 ・相談室、キャリア支援室、学習サポートルームなどを、ポスター掲示やホームページ等により学生への周知に努めた。 ・カウンセラーを2名増員したことにより、月曜と水曜が2名体制となり、学生や教員の面談希望に素早く対応できた。 ・学級担任による学生指導の一助とするため、クレペリン検査を1、3年生に実施した。 ・教職員のFD研修として、教員会議開始前の20分程度、カウンセラーによる全体研修会を4回実施した。さらに、個別案件についても、各学科会議にカウンセラーを派遣し、個別研修会を延べ7回実施した。 ・1、2年生の特活で、メンタルヘルスと称して、全10クラスにカウンセラーを派遣し、学生参加型のワークショップを行った。	・適切に審議され、実施された。 ・今後増えると予想される合理的配慮を必要とする学生に対し、継続的なチーム支援の強化が求められる。 ・カウンセラー間の支援方針に齟齬があり、相談室として対応に苦慮したが、次年度以降、カウンセラーには、カウンセリングの基本方針として、誓約書を提出させることで改善を図ることになった。	熊崎前教務主事	良好である。	A	
22	教員会議	校長	総務・企画係	適切に報告等が実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	年度最終の会議でタブレットを試行するなど、会議での進行の効率化、経費節減へ向け、活動は良好である。	A		8	定例会議7回、臨時会議を1回開催し、適切に報告等が実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。 また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	麻草前寮務主事	経費削減、進行の効率化への取り組みなど、活動状況は良好である。	A	
23	学級担任会議	教務主事	教務係	学生指導や定期試験の会場準備等について周知する場として、計画通り、開催された。専門学科間教員との意見交換、情報共有の場としても活用されている。	活動は良好である。		A		5	計画通り開催され、担任業務の周知や課題等について検討された。また、学科別で担任間の情報交換の場としても機能した。	教職員から学生への連絡および周知方法として学内メールを積極的に使用する試みがされる。少しでも、担任業務の負担軽減につながることが期待される。	清水教授	良好である。	A	
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	例年通り3回の対面連絡会議を実施した。	29年度から各クラブの部費を本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用する措置を始め、大きな混乱をきたすことなく年度を終えることができた。	良好である。	A		3	例年通り年間3回のクラブ顧問連絡会議を実施した。30年度はクラブ活動で各種大会やコンテストでの活躍が目立ち、経費負担が増えた。今後の対応として、32年度より学生会費を値上げする事を学生会総会で決定した。	昨年度に続き30年度も各クラブの預り金(部費)を本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用することができた。今後各種大会やコンテストへの出場学生への支援として、経費の使用について適正な使用について見直していく必要があるため、学生会や教育後援会と協力して検討していく予定である。また、教員の業務負担軽減が今後の課題となっており、改善できるよう検討したいと考えている。	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	
25	若鮎奨学基金運用委員会	校長	総務・企画係	主管会議メンバー及び若鮎会事務局教員により2月22日に委員会を開催し、表彰関係79件と助成関係39件を決定した。	活動は良好である。	表彰と助成が所定の手続きにより着実に実現され、活動状況は良好である。	A		1	主管会議メンバー及び若鮎会事務局教員により2月21日に委員会を開催し、表彰関係61件と助成関係34件を決定した。	活動は良好である。	麻草前寮務主事	表彰と助成が所定の手続きにより着実に実現され、活動状況は良好である。	A	
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	年度当初に2名の学生を対象に、異なる構成員による会議を各1回実施し、その後は必要に応じてメール審議形式で情報を共有して日常の支援体制を維持した(メール送受においては学生の個人名は明記していない)。なお個人情報保護の観点からHP上での議事録公開は行なっていないが、必要に応じて関係者は閲覧可能である。	聴力障がいを有する学生への対応は年度を通じて実施し、該当学生は第2学年に進級する。歩行に支障のある学生は年度途中に本人の事情で休学し、30年度に第1学年に復学予定であり、再度必要な支援を実施する予定がある。	良好である。支援経緯等の記録内容を共有し、活用していけるとよい。	A		0	平成29年度入学生で、聴力障がいを有する学生への対応を引き続き実施した。該当学生は第2学年に問題なく進級し、クラブ活動(卓球部)も活発に活動している。改めて委員会を開催することはなく、聴力障碍に関する配慮事項の纏めを担任や各教科担当者へ伝達する方法で継続的な支援のお願いを行なった。次年度第3学年に進級するため、既に新担任との面談を終えている。	聴力障がいを有する学生については、第2学年でも問題なく学校生活を送ることができた。第3学年に進級するが、改めて委員会を開催する必要はないと思われ、保護者からも同意を得ており、これまで同様配慮事項の引継ぎを行う事で継続して支援していくつもりである。	所教授	活動状況は良好である。	A	
27	男女共同参画推進室	[redacted]	総務・企画係	・高専機構主催の「男女共同参画推進意識啓発講演会」が、GI-netにより配信され、推進室活動の一環として、室員も参加した。 ・本科第2学年の特活を利用して、男女間に関わる重大な人権問題の1つであるDVをテーマに、推進室の意識啓発活動の一環として、室長兼学年主任が講演を行った。 ・今年度の「第3ブロック男女共同参画推進担当者協議会」を、本校が担当校として、3月15日にじゅうろくプラザで実施した。	・教員募集の際、ポジティブアクションを継続し、女性教員の各学科1名配置を早期に実現する必要がある。 ・女性教員が不安なく働ける職場環境を実現するため、推進室が主体となって、女性教員の不安解消に努める必要がある。	男女共同参画推進に向けた各種の取組が行われており、活動は良好である。	A	女性教員のポジティブアクション等については、学校全体としての配慮が必要である。女子学生に対しては、社会で活躍する卒業生や関連分野の女性技術者等のキャリアパスが見渡せる教育を、引き続き継続する必要がある。	1 メール会議(審議)4	1。男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備の一環として、岐阜県が運営する人材バンクに加名登録するとともに、第3ブロック協議会で情報提供し、若鮎金女子部に登録依頼を行った。 2。本校および他高専の女子トイレ盗撮をおよびその対策の実態を把握するとともに、盗撮防止対策のための改修工事の追加予算要求を行った。 3。全教員対象に「男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備」に関する意向調査を実施した。	アンケート調査結果より判明した男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備に関する課題(制度周知が不徹底、制度改善)は把握できたので、それらの課題改善に向けた取り組み(情報周知方法の検討と整備、機構等への制度改善要求、OBとの連携等)が必要がある。また、女子トイレ、更衣室の盗撮防止に向けた取り組みが引き続き必要である。さらに、多様な立場の視点からの意見を踏まえて取り組むために、性別、年齢層に配慮した室員の構成(増員)が必要である。	麻草前寮務主事	アンケート調査の実施など、男女共同参画推進に向けた各種の取組が行われており、活動は良好である。今後、多様な立場の委員で構成されることが期待される。	A	
28	教育AP推進室	研究主事	総務課長補佐	主な活動内容は以下のようである。 ・本校のALとFDの実状と展望(ICT活用教育のスパイラルアップ、ブログ解析結果とLMSの活用状況) ・授業参観週間等のAL授業実践、各授業のAL展開事例、LMS上の学修支援教材コンテンツ ・シニアOBと連携した企業技術者イチ押し課題のCBT作成 ・実践技術単位制度の全学展開と学修成果可視化へ向けた活用 ・専門学科のサイエンスコモンズ活用 ・AP事業による講演会の実施、研究発表、ICT環境改善等 これらのAP事業については、3月に公開報告会が開催され、本校の事例紹介のみではなく、先進事例の招待講演、ポスター発表等が行われた。	活動は良好である。 AP事業4年目の成果として、ALの実践と学修成果の可視化についての外部意見を反映させ、全国高専フォーラム2018などを活用して、次年度以降の選定取組をさらに充実・発展する必要がある。	活動状況は良好である。	A		9	主な活動内容は、昨年度に引き続いて以下のようである。 ・本校のALとFDの実状と展望 (ICT活用教育のスパイラルアップ、ブログ解析結果とLMSの活用) ・授業参観週間等のAL授業実践、各授業のAL展開事例、LMS上の学修支援教材コンテンツ ・シニアOBと連携した企業技術者イチ押し課題のCBT作成 ・実践技術単位制度の全学展開と学修成果可視化へ向けた活用 ・専門学科のラーニングコモンズの活用 ・AP事業による講演会の実施、研究発表、ICT環境改善等 これらのAP事業については、報告書に取り纏めるとともに、3月に公開報告会、ポスター発表等が実施され、同時に、事業終了年度を迎えたKOSEN4、0イニシアティブ事業(2課題)、グローバル事業などの報告会も行われた。	活動は良好である。 2019年度はAP事業6年目の最終年度として、ALの実践と学修成果の可視化について取り纏めるとともに、第4期における取組の継続、さらなる充実・発展策を検討する必要がある。	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	

適正な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当していることがわかる資料

教員研究活動の概要（平成29年4月1日～平成30年3月31日）（2017. 4. 1 - 2018. 3. 31）

1　著書

・シャーロック　忌まわしき花嫁（スクリーンプレイ・シリーズ）	井土康仁・樗木勇作・亀山太一・久米和代・山田千聡	フォーイン　スクリーンプレイ事業部 (2017.12)
・専門基礎ライブラリー　機械設計	柳田秀記・兼重明宏・西村太志・山田　実・他10名	実教出版社（2017.11）
・Professional Engineer Library　環境工学	山崎慎一（編著）・青木　哲・角野晴彦・他10名	実教出版, 2017
・Building a Smarter College: Best Educational Practices and Faculty Development	Nobuyuki Ogawa, Akira Shimizu	Springer, Smart Universities, pp.129-160, ISBN975-3-319-59453-8（2017年）
・発想し想像する建築設計製図	清水隆宏（分担執筆）	理工図書, pp.109-121（2017.7）

2　学術雑誌に掲載の論文

・アルミニウム合金押出形材防護柵の最適形状に関する研究	伊藤義人・勝田裕仁・佐藤遼一	土木学会論文集A 1 , Vol.73, No. 2 , 2017年, pp.376-386
・単ボルト接合実験によるハンドレイアップGFRP部材の接合部耐力評価	茗荷将浩・M. A. Kader・北根安雄・伊藤義人・日比英輝	土木学会論文集A 1 , Vol.73, No. 5 , 2017年, pp.II_62-73
・56年経過したアルミニウム合金橋梁「金慶橋」の現状と耐久性	伊藤義人・守屋　進・長澤大介・兼子　彬・川畑達哉	橋梁と基礎　2017- 9 , 2017年 9 月, pp.35-40
・Corrosion of Aluminium Alloy A6061-T 6 Members Embedded in Alkaline Materials	M. Emmanuel, Y. Itoh, A. Kaneko, M. Hirohata	Corrosion Engineering, Science and Technology, December, 2017 1743-2782（Online）Journal homepage: http://www.tandfonline.com/loi/ycst20
・モルタル埋設直後におけるアルミニウム合金の腐食挙動	兼子　彬・長澤大介・伊藤義人	構造工学論文集Vol.64A, 2018年 3 月
・TOJIC（日本語版TOEIC）の試作とその効用の検討	亀山太一	全国高等専門学校英語教育学会研究論集, 第37号, pp.243-280（2018.3）
・学校教育におけるESD実践にむけた考察―環境・経済・社会のバランスに着目して―	阪上弘彬・空　健太・久保田圭司	『岐阜工業高等専門学校紀要』第53号, pp. 1 - 6（2018年 3 月）
・社会システムの改革を担う子どもを育成する社会実験学習の提案：子どもの社会システム認識とその変革提案の分析から	福田正弘・空　健太	『長崎大学教育学部紀要』Vol. 4 , pp.169-185（2018年 2 月）
・民主主義社会の市民の育成を目指した世界史の授業	空　健太	愛知県世界史教育研究会『世界史教育研究』第 4 号, pp.57-64（2018年 3 月）
・Reexamining demotivation reduction through goal setting and improving the self-study materials	Naoki Satake	Tsukuba Review of English Language Teaching 39 97-119 2018年
・日本の英語授業における英文法指導の在り方を再考する：「授業は英語で行うことを基本とする」上での文法指導	佐竹直喜	言語文化学会論集　50　121-138　2018年
・教科書の和文英訳問題の日本語を英語翻訳機に―Vision Questに焦点を当てて―	佐竹直喜・森　和憲・ジョンストン　ロバート	全国高等専門学校英語教育学会研究論集　37　67-73　2018年
・フィットネスクラブにおける低頻度のパーソナルトレーニングがチェストプレスおよびレッグプレスの挙上重量に及ぼす影響	山本貴大・久保田浩史・滝優里花・山本浩貴・麻草　淳・松本香奈・石川美久・横山喬之・生田秀和	教育医学　2018.2.　第63巻　第 3 号　pp.280-285
・Examples of genus two fibrations with no sections on rational surfaces	Shinya Kitagawa	Proc. Japan Acad. Ser. A Math. Sci. 93, no. 9 pp.93-98,（2017.11）
・車両ホイールリムのバルブ用座面のかえりなし穴抜きに関する実験的検討	加藤浩三・近藤一義・柿田　亨・余郷時康	塑性と加工Vol.59　No.685　pp.21-26.（2018年 2 月）
・非定常強制熱対流場の形状設計問題の解法	片峯英次・岡田直也	日本機械学会論文集, 83巻855号, 15pages,（2017.11）, 17-00407.

・Influence of the location of nasal polyps on olfactory airflow and olfaction	H. Nishijima, K. Kondo, T. Yamamoto, T. Nomura	Int. Forum Allegy Rhinol. DOI: 10.1002/alr.22089 (2018)
・Flow visualization for Nasal Cavity Flow in Aerosol Exhalation Through the Nose Treatment	T. Yamamoto, Y. Kobayashi, M. Takeyama, M. Asako, K. Tomoda	Proc. Int. Conf. on Biomechanics, 61, 53-59 (2017)
・Mechanisms Underlying Improvement in Obstructive Sleep Apnea Syndrome by Uvulopalatopharyngoplasty	T. Yamamoto, N. Fujii, Y. Nishimura, S. Nakata	Case Reports in Otolaryngology, DOI: 10.1155/2017/2120165 (2017)
・Replacement of SFC-DPI with SFC-MDI exhaled through the nose improves eosinophilic chronic rhinosinusitis in patients with bronchial asthma.	Y. Kobayashi, M. Asako, T. Yamamoto, H. Yasuba, K. Tomoda	International journal of clinical pharmacology and therapeutics, DOI: 10.5414/CP202633 (2017)
・宇宙人材教育のための連動型「モデルロケット講座・モデルロケット大会」の実施成果	梶村好宏・高田　拓・篠原　学・若林　誠・中谷　淳・今井一雅	工学教育, 2017, 65巻, 3号, p. 3_26-3_30 (2017年5月)
・LED光センサを利用した力学実験装置を用いた教育実践	河野託也	工学教育　66(1)　79-83　2018年1月
・Mechanochemical surface modification of carbon fibers using a simple rubbing method	S. Motozuka, M. Tagaya, K. Hayashi, T. Kameyama, H. Oguri, Z. Xu	Journal of composite materials DOI: 10.1177/0021998316687030
・An investigation into photofunctional interfaces of 8-hydroxyquinoline/hydroxyapatite hybrids	M. Tagaya, S. Motozuka	Optical Materials, 66, 392-398, 2017
・Surface-engineered mesoporous silica particles with luminescent, cytocompatible and targeting properties for cancer cell imaging	M. Tagaya, S. Abe, S. Motozuka, K. Shiba, T. Takemura, I. Hayashi, Y. Sakaguchif	RSC advances, 7, 13643-13652, 2017
・Tensile Properties of Bi A l loys and a Case Study for A l loy Design in Their Application to lttigh Temperature Solders	M. Yu, Z. Xu, Y. B Choi, T. Konishi, K. Matsugi, J. Yu, S. Motozuka, K. Suetsugu	Materials Transactions, 58, (2), 140-147, 2017
・Dependence of Reflection Wavelength Shift of Resin-embedded Grating Fiber on Resin Material	Hironori Kumazaki, Takato Sugiyama, Hisakazu Oguri,	Sensors and Materials, Vol.30, No.1, 111-118. (2018.1)
・Deterministic annealing, A variant of simulated annealing and its application to fuzzy clustering	M. Yasuda	Computational Optimization in Engineering-Paradigms and Applications, 53005, INTECH, 1-23, (2017.4)
・On utilization of k-means for determination of q-parameter for Tsallis-entropy-maximized-FCM	M. Yasuda	Journal of Software Engineering and Applications, Vol.10, No.7, 605-624, (2017.6)

・Approximate determination of q-parameter for FCM with Tsallis entropy maximization," Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics	M. Yasuda	Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics, Vol.21, No. 6 , 1152-1160, (2017.11)
・Fabrication of Nitrogen-Containing DLC Film by Filtered Arc Deposition as Conductive Hard-Coating Film	Y. Iijima, T. Harigai, R. Isono, T. Imai, Y. Suda, H. Takikawa, M. Kamiya, M.Taki, Y. Hasegawa, N. Tsuji, S. Kaneko, S. Kunitsugu, H. Habuchi, S. Kiyohara, M. Ito, S. Yick, A. Bendavid, P. Martin	Japanese Journal of Applied Physics 57, 01AE07 (5 pages), 2018.
・Random telegraph noise by resonant tunneling at low temperatures	Z. Li, M. Sotto, F. Liu, M. K. Husain, H. Yoshimoto, Y. Sasago, D. Hisamoto, I. Tomita, Y. Tsuchiya S. Saito	Nature Scientific Reports 8 , p.250 (9 pages) (2018, January)
・訓点資料の構造化記述方式と計算機を用いた基礎計量	堤　智昭・田島孝治・小助川貞次・高田智和	情報処理学会論文誌, Vol.59, No. 2 , pp.278-287 (2018.2)
・A Novel Automated Construction Method of Signal Fingerprint Database for Mobile Robot Wireless Positioning System	A. H. Ismail, Y. Mizushiri, R. Tasaki, H. Kitagawa, T. Miyoshi, K. Terashima	International Journal of Automation Technology, Vol.11, No. 3 , pp.459-471 (2017)
・全方向歩行追従および床反力の制御に着目した新型移動式免荷歩行訓練器の提案と解析	水尻雄貴・鈴木裕一・田崎良佑・三好孝典・北川秀夫・寺嶋一彦	看護理工学会誌, Vol. 4 , No. 2 , pp.121-132 (2017)
・Integral of Non Positive Functions	Noboru Endou	Formalized Mathematics, Vol.25, No. 3 , pp.227-240 (2017.10)
・PLCによるサーボ同期制御を用いた非接触搬送教材開発―変位センサ内包型電磁石を用いた自律同定実験効果の検証―	三谷祐一郎･田中椋祐･小林義光	計測自動制御学会中部支部　教育工学研究委員会教育工学論文集, Vol.40, pp.32-34 (2017.12)
・２自由度制御を用いた磁気浮上搬送系の伝達関数指定による追従・制振性の改善	加藤留偉・小林義光	計測自動制御学会中部支部　教育工学研究委員会教育工学論文集, Vol.40, pp.35-37 (2017.12)
・反力提示を用いたツアーガイドロボット操作の評価	田中誠也・小林義光	計測自動制御学会中部支部　教育工学研究委員会教育工学論文集, Vol.40, pp.38-40 (2017.12)
・減速比に着目した低重心型二輪移動ロボットの改良	藤高圭介・小林義光	計測自動制御学会中部支部　教育工学研究委員会教育工学論文集,Vol.40, pp.41-43 (2017.12)
・平成29年度科学技術（ものづくり）リテラシー教育実習「ロボットの仕組みを知ろう！」活動報告	小林義光	岐阜工業高等専門学校　情報処理教育・研究報告, 第45号, pp.26-31 (2018.3)

・エンジン音の影響を抑制するタイヤ音パワースペクトルの車上計測	黒山喬允	日本機械学会論文集, Vol.83, No.855, 17-00222（11pages）（2017年11月）.
・間伐材や林地残材などの未利用木質破砕材を活用した新しい木質舗装の特徴とその評価	吉村優治・遠藤一美・笹田哲夫・長田剛和・河村邦基	第12回環境地盤工学シンポジウム発表論文集, pp.213～220, 地盤工学会, 2017.9/25-26.（査読付）
・Part 3 教育機関における建設技術者人材育成　高等専門学校でのICT教育―岐阜高専環境都市工学科での取組事例―	吉村優治・菊　雅美	JACIC情 報, Vol.32, No. 2 , 117号, pp.41～44, 一般財団法人日本建設情報総合センター 2018.2/ 1 .
・改良した電極によるシラン系表面含浸材の撥水層厚の推定法	岩瀬裕之	コンクリート工学会, コンクリート工学年次論文集, 39巻 1 号, 1639-1644, 2017.7
・河川における多段式落差工のエネルギー減勢効果とその評価	和田　清･藤田裕一郎･大坪幹弘	土木学会河川技術論文集, Vol.23, pp.139-144, 2017.6.
・山地河川における河床変動と魚道の流入土砂量の制御に関する研究	和田　清・橋口喬太	環境システム研究論文集, Vol.45, pp.341-346, 2017.10.
・既設インフラを利用した地域主体の小水力発電導入プロセスに関する研究	和田　清・大坪幹弘	環境システム研究論文集, Vol.45, pp.361-366, 2017.10.
・スマートフォン向け岐阜県防災情報システムのアプリ開発と有用性	廣瀬康之・西中智樹・田島孝治・浅井博次・藤井勝敏・棚橋英樹	情報処理学会, 第16回情報科学技術フォーラム, CO-011, 2017.9.
・擁壁の地震時主働土圧に関する解析的考察	水野和憲・前田宗春・大塚　悟・小林俊一	土木学会論文集A 2 （応用力学), Vol.73, No. 2 (応用力学論文集Vol.20), I_313-I_320, 2017.3
・ICTを用いた打合せと共同実験による複数校型のPBLの試み	角野晴彦・青木　舞・山田剛史・川上周司・山口剛士・高橋利幸・山田真義	土木学会論文集H（教育), Vol.73, No. 1 , p.34-42, 2017
・Evaluation of the process performance of a down-flow hanging sponge reactor for direct treatment of domestic wastewater in Bangkok, Thailand	Miyaoka, Y., Yoochatchaval, W., Sumino, H., Banjongproo, P., Yamaguchi, T., Onodera, T., Okadera, T., Syutsubo, K.	Journal of Environmental Science and Health PartA, 52（10), p.956-970, 2017
・酸素DHS法による産業排水処理［特集］	近田有希子･角野晴彦･川上周司・珠坪一晃	環境浄化技術Vol.17, No. 1 , p.29-33, 2018
・剛体折紙モデルの特異状態における可折条件	渡邉尚彦	日本応用数理学会論文誌28巻 1 号, pp.54-71, 2018.2.
・Singular Behaviour on Folding Path Characterised by Rigid Foldability Analysis	N. Watanabe	“Origami 7 ”, The proceedings from the 7 th international meeting on Origami in science, mathematics, and education, vol. 4 , pp.1027-1042, 2018.10.
・画像解析を用いた七里御浜井田海岸における海浜地形の変化特性に関する研究	渡邉博之・趙　容桓・菊　雅美・中村友昭・水谷法美	土木学会論文集B 2 （海岸工学), Vol.73, No. 2 , pp.I_673-I_678（2017.10）

・UAVによる七里御浜海岸の空撮画像を用いた礫粒形の算定に関する研究	菊　雅美・中村友昭・水谷法美	土木学会論文集B３（海洋開発）, Vol.73, No.２, I_588-I_593（2017.8）
・LMSを利用した効果的な水理実験実施のための教材開発に関する研究	菊　雅美・渡邉和也	土木学会論文集H（教育）, Vol.73, No.１, pp.43-52（2017.7）
・人口低密度地域におけるライドシェアに対する受容意識―原子力災害発生時の避難手段としての活用性を踏まえて―	川端光昭・中井満輝	都市計画学会都市計画報告集, No.16, pp.367-370, 2018.2
・フライアッシュを活性フィラーとしたジオポリマーモルタルの圧縮強さ特性とフロー値の経時変化に関する研究	Batsuuri Ashidmaa・犬飼利嗣・関谷有紗加	コンクリート工学年次論文集, Vol.39, No.１, pp.2065-2070, 2017
・構造物の耐久性向上のためのブリーディング制御に関する研究委員会	十河茂幸・加藤佳孝・福留和人・陣内　浩・中田善久・伊代田岳史・犬飼利嗣・桜井邦昭・大塚秀三	コンクリート工学年次論文集, Vol.39, No.１, pp.19-28, 2017
・フレッシュモルタルの透水係数と硬化モルタル表層の透気性の関係に及ぼす使用材料と空気量による影響	関谷有紗加・Batsuuri Ashidmaa・澤田　陽・犬飼利嗣	コンクリート構造物の補修, 補強, アップグレード論文報告集, 第17巻, pp.429-434, 2017.10
・フレッシュコンクリートの透水係数と透水モデルに関する研究	関谷有紗加・Batsuuri Ashidmaa・犬飼利嗣	次世代プレキャスト施工技術研究会第１回シンポジウム論文集, CD-ROM, PCT-１-３, 2017.12
・オレゴン州ポートランド市の土地利用審査制度における住民参加プロセスに関わる住民組織の役割と活動実態―ネイバーフッド・アソシエーションを事例として―	鶴田佳子・坂本　淳・海道清信・西芝雅美	日本都市計画学会学術研究論文集, 52-３, 544-551,（2017.10）
・人口減少時代における中山間地域の居住地としての持続可能性からみた地域類型化―岐阜県郡上市におけるケーススタディ―	岩下和弘・鶴田佳子・坂本　淳	日本都市計画学会学術研究論文集, 52-３, 435-442,（2017.10）
・PRACTICE OF ORGANISATIONAL STRATEGIES OF IMPROVING COMPUTER ROOMS FOR PROMOTING SMART EDUCATION USING ICT EQUIPMENT	Nobuyuki Ogawa, Akira Shimizu	E-LEARNING 2017, pp.121-129, ISBN: 978-989-8533-63-０（2017年７月）
・Learning Materials Made from Senior Graduates' Viewpoint and the Practical Engineering Credit Point System	Nobuyuki Ogawa, Akira Shimizu	ELSEVIER, Procedia Computer Science, Volume 112, 2017, Pages 1801-1808,（2017年９月）
・Skype Discussion for PBL Between Two Laboratories and Students Biological/Psychological Responses	Hideyuki Kanematsu, Nobuyuki Ogawa, Akira Shimizu, Tasuya Shirai, Masashi Kawaguchi, Toshiro Kobayashi, Katsuko T.Nakahira, Dana M. Barry	ELSEVIER, Procedia Computer Science, Volume 112, 2017, Pages 1730-1736,（2017年９月）

・Virtual STEM activity for renewable energy	Barry, D.M., Kanematsu, H., Lawson, M., Nakahira, K., Ogawa, N	ELSEVIER, Procedia Computer Science, Volume 112, 2017, Pages 946-955,（2017年 9 月）
・ACCELERATION OF ACTIVE LEARNING IN NIT, GIFU COLLEGE	N. Ogawa, T. Tokoro, A. Shimizu, Y. Itoh	ISATE 2017, SHAPING COMPETENCIES FOR THE FUTURE: PRACTICE-ORIENTED EDUCATION IN THE 21st CENTURY, 11th International Symposium on Advances in Technology Education, 19-22 Sep 2017 Ngee Ann Polytechnic, Singapore（2017年 9 月）
・Visualizing extracurricular activities by all faculty members and developing educational materials in collaboration with senior graduates	Nobuyuki Ogawa, Tetsuro Tokoro, Akira Shimizu, Yoshito Itoh	Proceedings of the 6 th International GIGAKU Conference in Nagaoka（IGCN 2017), GE-001, p. 1 ,（2017年）
・Promotion of active learning by all faculty members	Nobuyuki Ogawa, Tetsuro Tokoro, Akira Shimizu, Yoshito Itoh	ITEC 2017, Volume 2 , pp.158-166（2017年）
・Efforts for Upward Spirals Based on Both Teacher and Student Feedback on Smart Education	Nobuyuki Ogawa, Akira Shimizu	Springer International Publishing AG 2018, Smart Education and e-Learning 2017, Smart Innovation, Systems and Technologies 75, pp.28-37.（2017）
・Creative, Productive Collaboration between Companies and Students	Nobuyuki Ogawa, Akira Shimizu, Shinya Nakamura, Aina Yamaguchi, Koji Yosikawa, Yoshihiro Ito, Yuki Furugori, Kenichi Inagaki, Takushi Akiyama	IRSPBL 2017, Social Progress and Sustainability PP.123-135, ISBN: 978-87-7112-637- 2 ,（2017）
・Introduction of Problem-Based Learning Utilizing Regional Characteristicsg	Nobuyuki Ogawa, Akira Shimizu, Takahiro Shimizu, Taichiro Imada	IRSPBL 2017, Social Progress and Sustainability pp.31-41, ISBN: 978-87-7112-637- 2 ,（2017）
・岐阜地域の幼稚園における冬季の保育室内温湿度環境の実態と改善に関する研究	青木　哲・水谷章夫	日本建築学会環境系論文集, Vol.82, No.739, pp.821-830（2017.9）
・Vertical distribution of reflected solar radiation and re-radiation on buildings	Kengo Kawasaki, Tetsu Aoki	Proceedings 12th Conference on Advanced Building Skins, Bern, Switzerland, pp.253-257（2017.10）

専任教員の年齢構成（平成31年4月1日現在）

所属	系	29歳以下	30～39歳以下	40～49歳以下	50～59歳以下	60～65歳以下	合計
一般教科（人文）	教授			1	3	1	5
	准教授		2	1			3
	講師		2				2
	助教		1				1
一般教科（自然）	教授			1	3		4
	准教授			3			3
	講師		2				2
	助教						0
機械工学科	教授			1	3	1	5
	准教授			4			4
	講師		1				1
	助教		1				1
電気情報工学科	教授			1	3	2	6
	准教授		3	2			5
	講師		1				1
	助教	1					1
電子制御工学科	教授				5		5
	准教授		2	1			3
	講師		1				1
	助教	1					1
環境都市工学科	教授			1	2	2	5
	准教授		2	2	1		5
	講師						0
	助教		1				1
建築学科	教授			1	4		5
	准教授			2	1		3
	講師						0
	助教	1					1
合計	教授	0	0	6	23	6	35
	准教授	0	9	15	2	0	26
	講師	0	7	0	0	0	7
	助教	3	3	0	0	0	6

岐阜工業高等専門学校機械工学科教員募集要領

１．　職名・人員　准教授または講師・助教　1名
２．　所　　属　機械工学科
３．　勤務形態　常勤
（助教について採用時に博士の学位が取得見込みの場合は，５年間の任期付助教として採用します。）
４．　専門分野　機械工学全般，特に設計工学，材料力学，又は材料加工
５．　担当科目　当面は，ものづくり入門，機械設計製図I，機械設計製図II，及び創生工学実習の実習系科目と卒業研究。なお，機械設計系の科目ではCADを扱います。また，将来的には研究分野に適合した科目を担当頂く可能性もあります。
６．　採用予定日　令和２年４月１日
７．　応募資格　（１）博士の学位を有する方，もしくは着任後５年の間に取得可能な方
（２）心身ともに健康で，高等専門学校における教育内容を十分に理解し，学生指導および研究に熱意のある方
（３）研究分野が広く機械工学である方。ただし研究分野の主体が設計工学，材料力学又は材料加工である方が望ましい。
（４）大学院，大学，又は高専で機械工学分野の課程を修了・卒業され，機械設計に関わる実習系科目の単位取得歴のある方，又は企業で機械設計の実務経験のある方で，いずれも機械設計製図（CAD）に関わる実習系科目を担当可能な方
８．　提出書類　（１）エントリーシート（本人自筆，写真貼付，E-mailアドレスを記載のこと）（様式2）
（２）研究業績一覧（学会等の口頭発表を含む。企業からの応募者は各部門における実績の記録および特許・資格等）（様式３）
（３）主要論文・著書等の別刷り(コピー可)
（４）着任後の教育・研究および学生指導についての抱負（2000字程度）（様式４）
（５）教育指導歴（非常勤講師などの教育指導歴がある場合，担当した講義のシラバス等)
（６）指導教員または所属長の推薦書（推薦者の方には，応募に関する参考意見を伺うことがあるので，推薦者の連絡先を添えて下さい。なお「学位取得見込み」の資格で応募される場合は，学位取得の見込みに対する推薦者の所見を推薦書に記載してください。）（別封･親展）
９．　応募締切日　令和２年１月３１日必着
10.　選考方法　第１次選考　書類審査
第２次選考　第１次選考合格者を対象に面接による審査
（面接にともなう旅費，宿泊費等は応募者の負担とします。）
11.　書類提出先　〒501-0495　岐阜県本巣市上真桑２２３６番２
岐阜工業高等専門学校　総務課　総務･企画係
※封筒に「機械工学科教員応募書類」と朱書し，簡易書留で郵送のこと
なお，応募書類は原則として返却しません。返却を希望される場合は，住所・氏名を記載した宅配便の伝票（着払用）を同封してください。
応募書類の個人情報については，選考以外の目的には使用いたしません。
12.　待　　遇　（１）給与：独立行政法人国立高等専門学校機構教職員給与規則に基づき決定します。
（２）勤務時間：原則月～金8：30～17：00（1日7時間45分）。ただし，学校行事やクラブ活動等に応じた変形労働時間制を採用しています。
（３）社会保険：文部科学省共済組合に加入。労働保険：雇用保険・労働保険加入
13.　問い合せ先　（１）教育および研究に関すること
岐阜工業高等専門学校　機械工学科長 [redacted]
[redacted]
（２）その他事務的なこと
岐阜工業高等専門学校　総務課　専門職員
T[redacted]
14.　そ　の　他　※本校では男女共同参画に配慮しており，教育・研究業績や面接審査等において，同等と認められた場合には，女性を積極的に採用します。
※カリキュラム等の詳細については，本校のHP（以下のURLを参照）をご覧下さい。
http://www.gifu-nct.ac.jp/

本校教員の男女比が明示されている資料

岐阜高専教員学科別男女構成表

令和２年３月３１日現在

	男女別	教授	准教授	講師	助教	小計	学科合計	男女比
一般科目（人文）	男	5	2	1	1	9	11	81.82%
	女	0	1	1	0	2		18.18%
一般科目（自然）	男	3	3	2	0	8	9	88.89%
	女	0	1	0	0	1		11.11%
機械工学科	男	5	5	0	1	11	12	91.67%
	女	0	0	1	0	1		8.33%
電気情報工学科	男	6	5	1	0	12	13	92.31%
	女	0	0	0	1	1		7.69%
電子制御工学科	男	5	3	1	1	10	10	100%
	女	0	0	0	0	0		0%
環境都市工学科	男	5	4	0	1	10	11	90.91%
	女	0	1	0	0	1		9.09%
建築学科	男	4	3	0	0	7	9	77.78%
	女	1	0	0	1	2		22.22%
全　　体	男	33	25	5	4	67	75	89.33%
	女	1	3	2	2	8		10.67%

学位取得候補教員の業務負荷配分の取扱い

平成２３年１１月２９日
校　　長　　裁　　定

岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学位取得候補教員の業務負荷配分の取扱いについては，この扱いの定めるところによる。

１　博士の学位を取得するため，業務の重点を一定期間，研究活動に置くことを希望する教員は，この取扱いの適用を希望する前年度の 9 月末日までに，「学位取得候補教員の業務負荷配分の取扱い申請書」（別紙様式１）により，所属学科長等を通じて校長に申請する。

２　この取扱いの適用を受けることができる教員は，原則として，次の各号に該当する者とする。

一　博士の学位取得の可能性が顕著な者

二　この取扱いの適用年度以前に，本校における教員としての勤務歴が３年以上の者

三　この取扱いの適用年度の職位が，准教授，講師，助教，または助手の者

四　この取扱いの適用年度当初において満年齢が 50 歳未満の者

３　この取扱いが適用される教員については，次の各号のいずれかの措置（複数可）が適用される。

一　適用年度について，本校の校務分掌が免除される。

二　適用年度について，クラブ顧問が免除される。

三　当該学科からの非常勤講師雇用枠申請に基づき，当該教員の担当授業を最大４単位まで，非常勤講師に委託することができる。

４　この取扱いの承認手続きは次の各号の順とする。

一　申請者の所属学科における面接を実施する。

二　所属学科の推薦を受けて，校長が面接を行う。

三　校長の面接により，内諾された場合には，これ以降は通常の主管会議における審議事項と同様の扱いとする。

５　この取扱いの適用に関わる制約等は原則として，以下の各号による。

一　この取扱いの継続年限を当該教員当たり最長２年までとする。

二　同一年度内にこの取扱いが適用される教員数上限は，学則第７条第１項に規定する学科においては各１名，一般科目においては２名とし，本校全体では３名とする。

６　この取扱いの事務は総務課において処理する。

７　この取扱いに定めるもののほか，必要な事項は，主管会議の議を経てその都度，定めるものとする。

付　記

この取扱いは，平成２３年１１月２９日から実施する。

付　記

この取扱いは，平成２５年４月１日から実施する。

別紙様式１

平成　年　月　日

岐阜工業高等専門学校長殿

学位取得候補教員の業務負荷配分の取扱い申請書

申請者　所属　　学科

職位　　准教授，講師，助教，助手

氏名　　印

生年月日　　年　月　日生　　申請時の年齢　　満　　歳

私こと，博士の学位取得のため平成　年度にこの取扱いの適用を頂くことを，お願い申し上げます。

	要望する適用年度　平成　年度
適用を希望する３条の項目	□ 一　□ 二　□ 三　（複数可）
岐阜高専における勤務歴	年

博士の学位取得見込みについての状況（申請者記載）

（関連の投稿論文の複写（Ａ４サイズ）を添付し博士の学位の取得見込みを簡潔に記載してください。）

推薦理由（所属学科長記載）

氏名　　印
（推薦の理由を簡潔に御記載ください）

校長面接所見（校長記載）

氏名　　印
□ 主管会議に諮る　□ 今回は見合わせる（該当する□にレ点）

岐阜工業高等専門学校 教員募集要領

本校におけるグローバルエンジニア育成事業の実施にあたり，この事業の担当者の一人として下記のとおり，教員を公募します。

１．　職名・人員　　特命准教授または特命助教　１名

２．　所　　属　　岐阜工業高等専門学校　全学科

３．　勤務形態　　有期雇用教員

４．　専門分野　　理工系分野

５．　担当科目（主な担当）　　グローバルエンジニア基礎力養成プログラム（主に本科低学年次向け）
・理数系基礎科目の英語による授業の実施
・海外教育機関等との国際交流プログラムの開発・実施など

６．　採用予定日　　令和2（2020）年 4月 1日
※本事業は最長令和6年（2024年）3月31年までであり，雇用は年度更新となります。

７．　応募資格
（1）外国籍または元外国籍の方で，英語による教育経験の豊富な方
（2）博士の学位を取得している方，または取得見込みの方
（3）心身ともに健康で，高等専門学校における教育内容を十分に理解し，学生指導及び研究に熱意のある方
（4）日本語を母語としない方にあっては、日本語での業務が可能であること。

８．　提出書類
（1）エントリーシート（本人自筆，写真貼付，E-mailアドレスを記載のこと）【様式2】
（2）著書･論文等一覧（学会等の口頭発表を含む。企業からの応募者は各部門における実績の記録及び特許・資格等）【様式3】
（3）主要論文・著書等の別刷り（コピー可）
（4）（3）の概要（論文毎にA4用紙１枚程度・様式自由）
（5）教育及び研究に関する抱負（非常勤講師などの教育指導歴がある場合，担当した講義のシラバス等）（2000字程度）【様式4】
（6）英語力を示すもの（留学経験がある場合には留学先とその期間、TOEIC・ TOEFL・英検等の結果のコピー）
（7）日本語を母語としない者にあっては、日本語力を証明する書類（日本語能力試験等の証明書のコピー）の提出が望ましい
（8）照会に対応可能な方2名の氏名，連絡先，応募者との関係を記載したもの。
（選考過程において，上記の方に当方より応募者について照会させて頂くことがあります。）
※提出書類に含まれる個人情報は，選考および採用以外の目的に使用しません。
※上記(1),(2),(5)については所定の様式によること。

９．　応募締切日　　令和2（2020）年2月7日（金）必着

10.　選考方法　　第1次選考　書類審査
第2次選考　第1次選考合格者を対象に面接による審査
（面接にともなう旅費，宿泊費等は応募者の負担とします。）

11.　書類提出先　　〒501-0495 [redacted]
独立行政法人国立高等専門学校機構
岐阜工業高等専門学校　総務課　総務･企画係
※封筒に「グローバルエンジニア育成事業・教員応募書類」と朱書し，簡易書留で郵送のこと。なお，応募書類は原則として返却しません。返却を希望される場合は，住所・氏名を記載した宅配便の伝票（着払用）を同封してください。

12.　待　遇
（1）給与：独立行政法人国立高等専門学校機構有期雇用教職員給与規則に基づき決定します。
（2）勤務時間：原則月～金曜日，8：30～17：00（1日7時間45分）。
ただし，学校行事等に応じた変形労働時間制を採用しており，土日祝日が勤務日となる場合があります。
（3）社会保険：文部科学省共済組合に加入，労働保険：雇用保険・労働保険加入

13. 問合先

（1）教育及び研究に関すること

岐阜工業高等専門学校　副校長（教務主事）　[redacted]

Phone: [redacted] E－mail: [redacted]

（2）その他事務的なこと

岐阜工業高等専門学校　総務課　専門職員　[redacted]

Phone: [redacted] E－mail: [redacted]

14. その他

（1）本校は男女共同参画を推進しており，業績（教育・研究業績，人物を含む）の評価において同等と認められる場合には，女性を優先的に採用します

（2）本校の概要はHP（以下のURLを参照）をご参照ください。

http://www.gifu-nct.ac.jp/

岐阜工業高等専門学校教員選考手続細則

制定　平成１８年２月８日
校　　長　　裁　　定

（趣旨）
第１条　この細則は，岐阜工業高等専門学校の教授，准教授，講師，助教及び助手（以下「教員」という。）の選考並びに専攻科の授業を担当する教員（以下「専攻科授業担当教員」という。）の認定に係る審査を適正，かつ，円滑に行うために必要な手続について定める。
（選考又は審査の時期）
第２条　教員の選考は，原則として，公募を基本とし，選考の時期は採用又は昇任させようとする日の２月前までに行うものとする。
２　専攻科授業担当教員の認定に係る審査は，その必要が生じたとき速やかに行うものとする。
（教員配置の要望等）
第３条　校長は，教員の選考及び専攻科授業担当教員の認定に係る審査（以下「教員の選考等」という。）に関し，学科長等から意見を聴取することができる。
２　学科長等は，教員の選考等に関し要望があるときは，別記様式の教員配置要望・募集計画書を校長に提出するものとする。
（選考開始）
第４条　校長は，前条第２項の提出があり，教員の選考等を開始する必要があると認めたときは，主管会議の議を経て決定するものとする。
（選考）
第５条　校長は，人事委員会において「岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等」に定める書類審査及び面接の上，教員候補者を決定する。
２　人事委員会は，必要に応じて，前項に規定する書類審査及び面接を当該学科長等に委任することができるものとする。
（選考制限）
第６条　人事委員会において，教員候補者として不適格と判定された者は，その日から１年を経過しなければ，同一職名による選考の対象とすることができない。
（その他）
第７条　この細則に定めるもののほか，教員選考手続に関し必要な事項は，人事委員会の議を経て校長が別に定める。

附　則

この細則は，平成１８年４月２日から施行する。

附　則

この細則は，平成２０年４月１日から施行する。

別記様式（第３条関係）

教員配置要望・募集計画書

平成　　年　　月　　日

岐阜工業高等専門学校長　殿

学科名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学科長氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　印

下記のとおり教員の配置について要望します。

記

学　科　等　名			
配　置　種　別　等		□採用　　□昇任（現職名：　　）	
配　置　後　の　職　名		□教授　　□准教授　　□講師　　□助教	
発　令　希　望　年　月　日		平成　　年　　月　　日	
担当予定の授業科目名	学　　科		
	専　攻　科		
専　門　分　野			
配　置　理　由			
配　置　方　法		□公募（公募条件） 応募資格： 締切日：平成　　年　　月　　日 提出書類： 書類提出先： 問い合わせ先： その他：	□その他（公募によらない理由）

（参考例）

配置理由
・平成●年●月●日付け定年退職予定の○○○○教授の関連異動により助教を配置する。
・平成●年●月●日付けで定年退職した○○○○教授の関連異動を実施することに伴い、　助教を配置する。
・平成●年●月●日付け辞職予定の○○○○准教授の後任として助教を配置する。
・平成●年●月●日付けで准教授に昇任予定の○○○○講師の後任として講師を配置する。
・平成●年●月●日付けで辞職した○○○○教授の関連異動のため、平成●年●月●日付　けで講師の教員公募を行ったが、●月●日の公募締切期日までに応募者がないため、再　度、講師又は助教の教員公募を行う。
・平成●年●月●日から●月●日まで○○○○講師が育児休業のため、その期間中の代替　教員として助教を配置する。

その他（公募によらない理由）
・平成●年●月●日付け定年退職予定の○○○○教授の関連異動により、本学科の助教が　講師に必要な教育面及び研究面に係る評価基準等の累計ポイント数が達することにより　昇任させる。
・平成●年●月●日付けで准教授の教員公募を行ったが、応募者の研究分野等が配置する　職種に適合しないため、内部の教員を昇任させる。

国立高等専門学校教員顕彰実施要項

理事長裁定
平成２２年１０月１９日制定
平成２３年　９月３０日一部改正
平成２７年１０月　７日一部改正
平成２８年１０月１３日一部改正
平成３０年１１月１２日一部改正

１．顕彰要項

（１）趣旨

高等専門学校教員は主として教育者の面を持つが，一方で研究者の面を持つとともに高等専門学校の管理運営にも果たすべき役割がある。また，それぞれの地域に立地する高等教育機関の教員として，教育や研究を通じた地域社会への貢献も期待されている。高等専門学校教員個々に対する業績評価は，これらを総合して行われるべきものであるが，現状においては，ともすれば専門の研究業績のみが重視され，学生教育や管理運営及び地域社会への貢献に係る業績が適正に評価されていないおそれがある。このような観点から，管理運営，地域社会への貢献を含み，学生教育を中心とする分野において顕著な功績を挙げている教員を顕彰するとともに，顕彰を通じて国立高等専門学校における教育の充実及び向上を目指すものである。

（２）顕彰部門

顕彰部門として，一般部門と若手部門を設ける。

（３）賞

国立高等専門学校教育業績賞とし，下表の賞を設ける。

賞の名称	受賞対象者	受賞者数
文部科学大臣賞	両顕彰部門を通じて，最も優秀な業績を挙げている教員	両顕彰部門を通じて１名
国立高等専門学校機構理事長賞	各顕彰部門において，文部科学大臣賞に次ぐ業績を挙げている教員	各顕彰部門から若干名
優秀賞	各顕彰部門において，国立高等専門学校機構理事長賞に次ぐ業績を挙げている教員	各顕彰部門から若干名
分野別優秀賞	各顕彰部門において，教育活動，学生生活指導，教育・研究を通じた社会への貢献の各分野で特に優れた業績を上げている教員	各顕彰部門から若干名

（４）顕彰基準

国立高等専門学校における次に掲げる活動分野において顕著な功績があったと認められる者とする。若手部門では特に，今後一層の功績を挙げることが期待される者を重視する。

① 教育活動
② 学生生活指導
③ 教育・研究を通じた社会への貢献
④ 管理運営（一般部門の顕彰基準に限る。）

（５）候補者の推薦

下記２の候補者推薦要領により，各国立高等専門学校長が行う。

（６）推薦の条件

① 一般部門

当該年度の１０月１日現在で国立高等専門学校における勤務年数が５年を超える教員

② 若手部門

当該年度の１０月１日現在で国立高等専門学校における勤務年数が５年を超え，かつ，当該年度の３月３１日における年齢が４０歳以下の教員

（７）顕彰対象者の決定

（５）によって推薦された候補者の中から，下記３の顕彰対象者選考要領に基づいて顕彰対象者及び各賞の受賞者の選考及び決定を行う。

２．候補者推薦要領

（１）推薦基準

教員の自己点検評価，教員による相互評価，学生による授業評価等に基づいて，当該国立高等専門学校の校長が推薦する。教員の自己点検評価，教員による相互評価及び学生による授業評価は，各国立高等専門学校において実施している評価法又は「参考資料０１：教員の教育業績等評価」によるものとする。なお，これらの評価は顕彰対象者の採点及び審査並びに顕彰対象者及び各賞の受賞候補者の選考には用いない。

（２）推薦人員

各国立高等専門学校から各顕彰部門にそれぞれ１名を推薦することができる。ただし，同一の教員を両顕彰部門に推薦することはできない。

（３）再推薦の条件

過去にこの顕彰により文部科学大臣賞又は国立高等専門学校機構理事長賞（独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞を含む。）を受賞したことのある教員を推薦することはできない。ただし，若手部門の顕彰対象者としてこの顕彰により文部科学大臣賞又は国立高等専門学校機構理事長賞を受賞したことのある教員を一般部門の候補者として推薦する場合で，当該受賞の日から５年を経過している場合はこの限りではない。

なお，再推薦された候補者は，候補者調書にこの顕彰による受賞歴を記載し，自己申告書の作成にあっては，その受賞以後に追加された業績を明確にすることとする。

（４）提出書類

提出書類は，下表に掲げるとおりとする。

提出書類名	摘要
推 薦 書	・ 様式１（Ａ４判１ページ） ・ 校長が記入 ・ 資料の添付は不可
候補者調書	・ 様式２（Ａ４判４ページ） ・ 当該教員が記入 ・ 資料の添付は不可 ・ 顕彰題目，顕彰内容，及び自己申告書の記載内容は，受賞後に公表されることを前提に記入
自己申告書	・ 様式３（Ａ４判４ページ（一般部門），Ａ４判３ページ（若手部門）） ・ 当該教員が記入 ・ 資料の添付は不可

３．顕彰対象者選考要領

（１）選考委員会

① 各顕彰部門の候補者の採点及び審査並びに顕彰対象者及び各賞の受賞候補者の選考を行うために，国立高等専門学校教員顕彰（一般部門）選考委員会及び国立高等専門学校教員顕彰（若手部門）選考委員会を設ける。

② 各選考委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

イ 独立行政法人国立高等専門学校機構企画委員会委員（以下「企画委員会委員」という。） ２名

ロ 企画委員会委員以外の国立高等専門学校長 ２名

ハ 国立大学法人長岡技術科学大学又は国立大学法人豊橋技術科学大学の役員又は教授（以下「技科大役職員」という。） １名

③ 各選考委員会に委員長を置き，②イの委員の中から，理事長が指名する。

（２）選考方法

① 各選考委員会委員は，各顕彰部門の候補者の候補者調書及び自己申告書の採点を行う。

② 各選考委員会は，①の採点結果を踏まえ，提出書類を総合的に審査し，顕彰対象者及び各賞の受賞候補者を選考する。

③ ①の採点及び②の審査においては，選考委員会委員の所属する国立高等専門学校の候補者がいる場合は，当該委員は当該候補者の採点及び審査には加わらない。

（３）決定方法

① （２）②の選考結果に基づいて，独立行政法人国立高等専門学校機構企画委員会委員長（以下「企画委員会委員長」と言う。），各選考委員会委員長及び技科大役職員の合議により，顕彰対象者及び各賞の受賞者を決定する。

② 企画委員会委員長は，①の合議に，各選考委員会委員長以外の選考委員会委員の出席を求めることができる。

③ 企画委員会委員長は，①の決定をするに当たり，独立行政法人国立高等専門学校機構企画委員会の承認を受けなければならない。

４．顕彰業績の発表等

各賞の受賞者は，理事長の指名があった場合は，全国高専フォーラムにおける発表，高等専門学校教職員を対象とする各種研修における発表，高等専門学校の教育，研究又は管理運営に関する事例に係る資料集への掲載，高等専門学校の教育に係る教材集への登録その他の理事長が指定する方法により，顕彰業績を発表するものとする。

５．日程

１０月上旬：候補者募集
１１月中旬：候補者締め切り
１月下旬：選考委員会開催
顕彰対象者及び各賞の受賞者の決定

附　記（平成２３年９月３０日一部改正）

（高度化再編校の推薦者数の特例）

１．仙台高等専門学校，富山高等専門学校，香川高等専門学校及び熊本高等専門学校においては，旧学科が存続する平成２５年度までの間の経過措置として，２（２）中「それぞれ１名」とあるのを「それぞれ２名（各キャンパスにつき１名ずつ）」と読み替えて教員顕彰候補者を推薦できるものとする。

附　記（平成２７年１０年７日一部改正）

附　記（平成２８年１０年１３日一部改正）

附　記（平成３０年１１年１２日一部改正）

平成30年度　校長裁量経費決算書

（単位：円）

（予算額）	教育改善充実経費	3,900,000
	教育改善充実経費（インセンティブ経費）（10/26追加配分）	10,803,000
	教育改善充実経費（高専間教員活動支援経費）（10/26追加配分）	1,200,000
	教育改善充実経費（学生活動支援経費）（11/28追加配分）	100,000
	教育改善充実経費（インセンティブ経費）（12/25追加配分）	4,200,000
	教育改善充実経費（1/28追加配分）	1,600,000
	重点特別経費	4,960,000
	施設維持管理費	11,000,000
	前年度執行超過学科の精算分	500,000
	科学研究費補助金間接経費（50%）	3,259,500
	産学連携間接経費（50%）	1,365,672
	教員研究費の欠員留保分	0
計　（A）		42,888,172

（支出額）	重点特別経費（プロジェクトB）	3,600,000
	緊急性の高い施設修繕等	11,000,000
	インセンティブ経費配分（技術職員）	275,000
	大型外部資金獲得に係る研究費助成	0
	出前授業促進経費	140,000
	間接経費拠出分	1,158,000
	高専間教員活動支援経費（職員人件費へ充当）	1,200,000
	高専ロボコン挑戦機に係る製作補助費	1,150,000
	6号館空調改修工事	6,237,000
	百葉箱	433,800
	建築学科改修に伴う物品購入費	4,200,000
	厚生補導設備充実費（コースロープ等）	1,600,000
	HPの改修（ImageMagick脆弱性対応）	345,600
	学生活動支援経費	100,000
	大会議室イス更新	1,000,000
	大型プリンター更新	506,104
	実習工場機器修繕・更新	900,000
	事務用PC更新	800,000
	建築学科改修に伴う物品購入（什器類）	1,000,000
	公募関係（別紙のとおり）	7,242,668
計　（B）		42,888,172

残額　（A－B）	0

別紙

校長裁量経費　公募分

	件名	申請者	金額
1	環境都市工学科１～５年教室の壁掛け黒板	学生課長	147,800
2	キャンパスアシスト新元号対応及びサーバ更新	学生課長	937,872
3	プールサイドのマット	学生課長	185,760
4	ホームページのレスポンシブル対応	広報委員長([redacted]	264,600
5	高専道路「徐行」標識設置	学生主事	266,760
6	短期留学生の研究室配分の経費	国際交流室長	300,000
7	保健・体育授業用品	[redacted]先生	217,944
8	英語プレゼンテーションコンテスト旅費	[redacted]先生	83,500
9	平行定規	建築学科長	1,749,600
10	建築学科における音響シミュレーション技術の教育・研究環境整備	建築学科長	300,000
11	環境都市工学科オフィスの整備	環境都市工学科長	335,232
12	吹奏楽部部室庇防水改修整備	[redacted]先生	378,000
13	5号館1階計測制御実験室　室内環境整備	電子制御工学科長	400,000
14	公開講座申込専用サイト改修	テクノセンター長	75,600
15	サンドコート改修工事	[redacted]先生	1,600,000
			7,242,668

３０高機人第４３号
平成３０年７月２６日

各国立高等専門学校長
長岡技術科学大学長　　殿
豊橋技術科学大学長

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長 [redacted]
（公印省略）

高専・両技科大間教員交流制度の実施について（通知）

平成３１年度新規派遣者に係る標記について，高専・両技科大間教員交流制度実施要項に基づき，下記スケジュールのとおり実施いたします。

ついては，本制度の趣旨をご理解いただき，教員の派遣及び受入についてご検討くださるようお願いいたします。

記

平成３０年８月２４日	派遣候補者推薦書締め切り
平成３０年９月３０日まで	派遣者の決定
平成３１年４月１日	派遣開始

担当
独立行政法人国立高等専門学校機構
本部事務局人事課人事係 [redacted]
〒193-0834　東京都八王子市東浅川町 701-2
TEL [redacted]
FAX [redacted]
E-mail [redacted]

資料2-3-1-(1)-01

【5/7～5/22】校長との教員面談について

発信者 総務・企画係長

宛先 [redacted]

写し(Cc) s[redacted], '総務・企画係（若原）', '総務・企画係（杉原）'

日付 2019/04/12 15:12

H31教員面談割振り表（配布用）...

教員　各位

本年度も、伊藤校長との面談を下記のとおり実施いたしますので、
ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

５月７日（火）～５月２２日（水）までの期間で日程を計画いたしましたので、
ご確認くださいますようお願いいたします。

なお、面談日程に不都合のある場合は、それぞれ学科内で交替を
調整いただきますよう、よろしくお願いいたします。
交替をされた場合は、その旨を総務課　服部までメールでご報告願います。

また、予備の枠をご希望される場合も、空き状況をご照会願います。

連絡先メールアドレス　　総務・企画係[redacted]
nct.ac.jp

①面談の時間は、１人３０分を目安にしております。
②面談は、研究室で行いますが、午前・午後の最初の先生は、
ご足労をおかけしますが、校長室までお迎えをお願いします。
③面談が終わられましたら、次の研究室まで伊藤校長をご案内ください。
④面談の進み具合によって、１５分から３０分ほど予定より早まる可能性があります。

お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

岐阜工業高等専門学校特別功労者表彰規程

制定　平成 14 年 9 月 11 日
学 校 規 則 第 １５ 号

（趣旨）
第１条　この規程は，岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育，研究及び学校運営に関し，また地域社会とのかかわりで特に顕著な功績等を挙げた者を「特別功労者」として表彰するため定めるものである。
（表彰を受ける者）
第２条　特別功労者の表彰は，次に掲げる各号の一に該当する者について行う。
一　講義，演習，実験・実習及びクラス運営等において新たな方法を創案し，その実践を行い，教育効果を高めた者
二　クラブ運営を通して学生の徳育・体育教育に功績のあった者
三　高等専門学校生向けの教科書を編纂し，教育効果を上げた者
四　各種委員会等において，学校運営に功績のあった者
五　技術指導，公開講座，共同研究及び学会活動等において，社会に貢献し，本校の名を高めた者
六　その他特に顕著な功績等を挙げた者
（特別功労者の選考）
第３条　校長は，前条に掲げる特別功労者を選考するため，本校に特別功労者選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（組織）
第４条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織し，教務主事を委員長とする。
一　教務主事
二　研究主事
三　学生主事
四　寮務主事
五　事務部長
六　その他校長が必要と認めた者
（推薦の方法）
第５条　推薦者（各主事，各学科長，各種委員会委員長，教育研究施設の長及び事務部長）は，別紙様式１及び２により，候補者を委員会に推薦するものとする。ただし，自薦によることができる。
（表彰を受ける者の決定）
第６条　表彰を受ける者は，委員会の推薦により，校長がこれを決定する。
（表彰の方法）
第７条　表彰は，校長が表彰状を授与して行う。
２　前項の表彰に併せて，記念品を贈与することができる。
３　表彰は年１回行う。ただし，特に必要があると認められるときは，この限りでない。
（庶務）
第８条　委員会に関する庶務は，総務課において処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか，必要な事項は，校長が別に定める。

附　則

この規程は，平成 14 年 10 月 1 日から施行する。

附　則（平成 16 年学校規則第 14 号）

この規程は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 19 年学校規則第 45 号）

この規程は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

（別紙様式１）

平成　　年　　月　　日

岐阜工業高等専門学校長　殿

推薦者所属氏名

印

岐阜工業高等専門学校「特別功労者」の推薦について

標記のことについて，下記の者を岐阜工業高等専門学校特別功労者の候補者として推薦いたします。

記

所属・氏名

（別紙様式２）

岐阜工業高等専門学校「特別功労者」推薦書

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>氏　名</td><td colspan="2"></td><td>生年月日</td><td>年　月　日
（　歳）</td></tr>
<tr><td>所　属</td><td colspan="2"></td><td>職　名</td><td></td></tr>
<tr><td>規程第２条の該当項目（いずれかに○印）</td><td colspan="5">一　二　三　四　五　六</td></tr>
<tr><td rowspan="7">略　歴</td><td>年　月</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>年　月</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>年　月</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>年　月</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>年　月</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>年　月</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>年　月</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>推薦理由</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

※該当項目の欄には１つの項目のみ○印を記入願います。

令和元年９月２７日

教員　各位

校　　長

令和元年度論文掲載料の支援について（通知）

このことについて，本校の研究業績向上を目的として，論文掲載料を支援します。支援を希望する方は，下記及び別紙実施要項を参照の上，手続してください。

記

1. 論文掲載料支援手続要項
   別紙のとおり
   【申請フォーム】
   [redacted]
   ※当該申請フォームは電子事務書類 BOX＞研究協力係関係にも追加しております。

2. QandA
   初年度のため，当該申請につき質問等がある場合は以下 URL にて受付します。
   [redacted]u
   【受付期間】通知日～令和元年１０月９日

3. 受付期間

（通　知　日）　～ 令和元年１２月２７日

※期間内に予算上限に達した場合は，その時点で受付を停止します。

※受付期間後または受付停止後の論文掲載料支援は次年度予算にて対応します。

４．備考

本通知に係る要項，申請フォーム URL を電子事務書類ボックス（研究協力係関係）に掲載しております。

令和元年９月２７日

令和元年度論文掲載料支援　実施要項

１．趣旨

各教職員の論文掲載料の支援を行うことにより，岐阜高専の研究実績を増加させる。

２．支援の条件

以下要件を全て満たすこと

① 査読付の論文であること。

② 出版社からの請求日が 2019 年 4 月 1 日以降であること。

③ 論文の筆頭著者が次の（ア）または（イ）のいずれかに該当すること。

(ア) 申請者本人。

(イ) 指導学生。ただし，申請者が共著者であること。

④ 科研費や助成金等の外部資金に論文掲載料が予算計上されていないこと。

３．支援額

令和元年度申請１件目　　：掲載料の半額

令和元年度申請２件目以降　　：掲載料全額

※振込手数料も支援対象に含みます。

※一人当たりの支援件数に上限はありません

４．財源

校長裁量経費

５．支援の方法

【原則】

事前に申請・承認された論文について，出版社からの請求書または教員の立替払請求書の支払財源を校長裁量経費とする。

※以下例外措置を除き，事前に申請されていない掲載料の支援は行いません。

【例外】

募集通知日時点で支払完了または支払手続に係った場合のみ，支出済掲載料を校長裁量経費に振替

６．受付期間

通知日　～　令和元年 12 月 27 日

※期間中であっても予算上限に達した段階で募集を停止します。

７．申請

掲載**決定後**に申請フォームから手続してください。

【申請フォーム】

【添付書類】

１．掲載料，査読の有無などが分かる書類（募集要項など）

２．掲載決定のわかるもの

提出方法　以下回収フォルダにアップロード（学内のみ）

※ファイル名：申込日西暦 8 桁＋氏名　例：20190901 高専太郎

※ファイルが複数になる場合は zip ファイルに圧縮し 1 ファイルとしてください。

※手元に紙媒体がある場合は紙媒体（写）の提出でもかまいません。

８．支援決定

毎月末締めで審査を行い，申請の翌月上旬に支援可否を通知します。

９．支払手続方法

【原則】

以下書類を契約係へ提出

（ア）出版社等からの請求書　または　教員の立替払請求書（証憑類添付）

（イ）掲載論文（写）

【例外】

募集開始前に支払手続きが開始または完了している場合のみ，支出済予算を校長裁量経費に振替します。

１０．　備考

・　募集開始の通知後に当該支援申請を経ず支出を完了した論文に対し，予算振替による遡及支援を行いません（注：通知日時点で支払完了または支払手続きに係った

ものは支援対象）

- 移行措置として 10 月 31 日までは申請と支払が前後しても支援を検討します。
- 投稿言語による支援額の増減は行いません。
- 受付期間終了（停止）後から次年度募集開始までに支払が発生するものについては，次年度の募集開始後に申請してください。次年度追加予算配分または支出済予算振替により支援します。
- 初年度のため，QandA 対応を行います。質問がある場合は，以下フォームより入力願います。

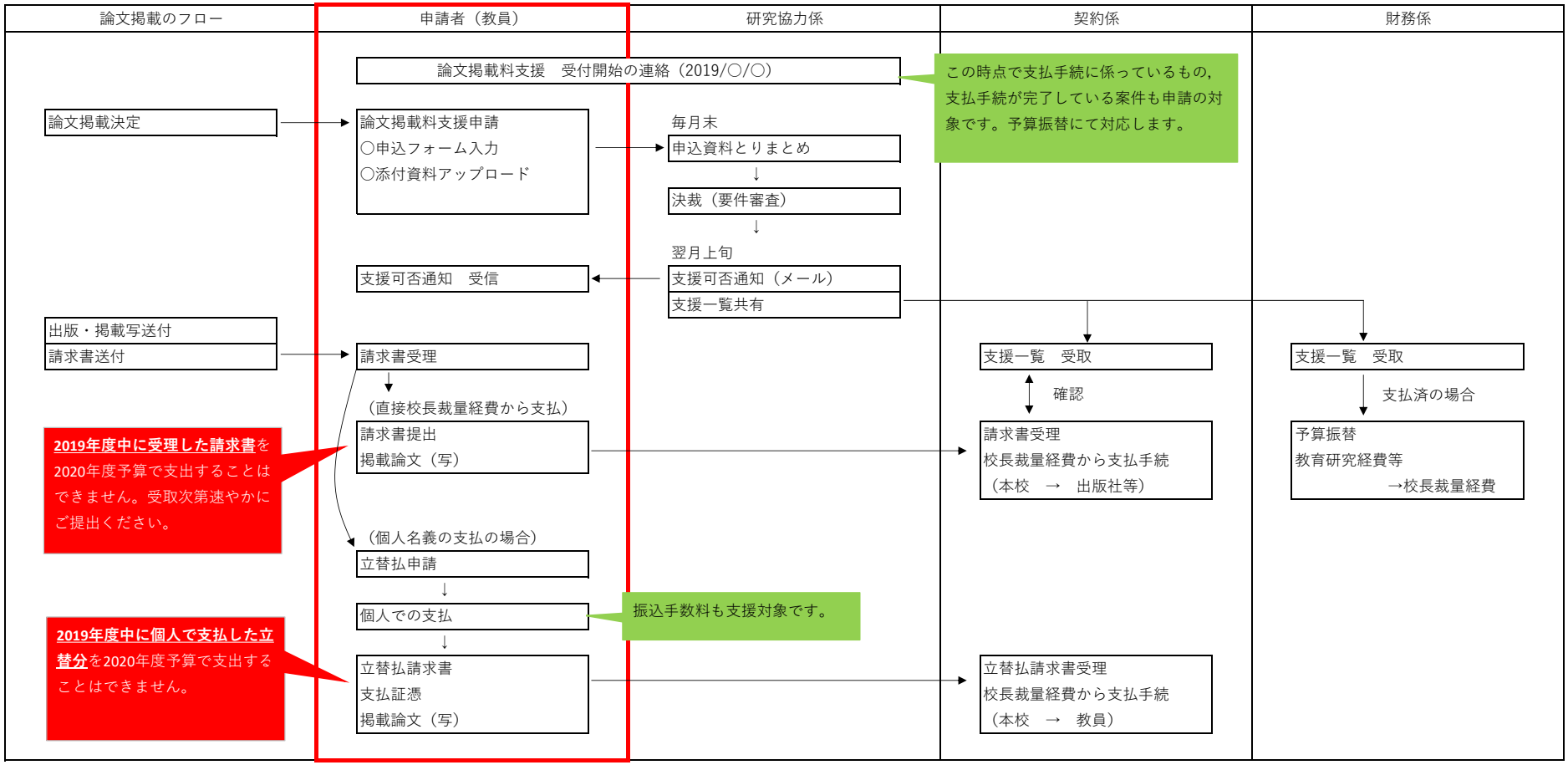
【受付期間】通知日～令和元年 9 月 30 日

１１．本件担当

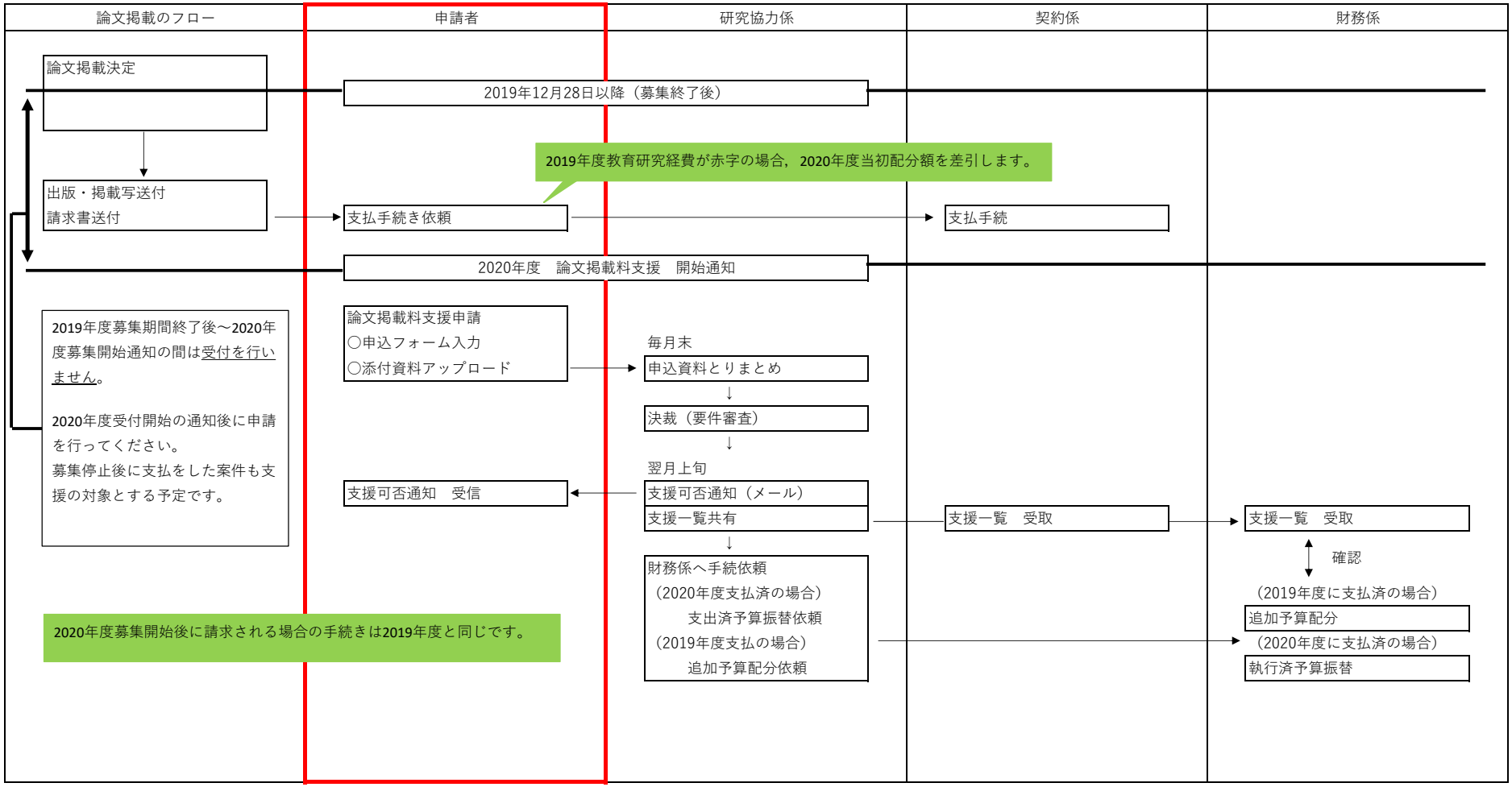
総務課研究協力係

内線：213

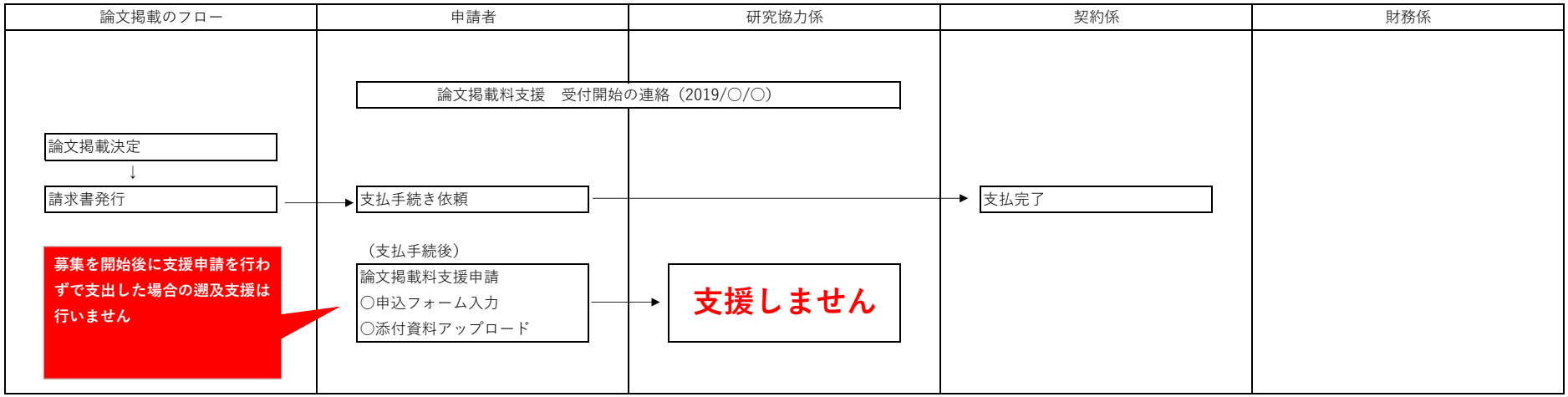
論文掲載料支援申請　手続きフロー　【通常の手続】



論文掲載料支援申請　手続きフロー　【2019/12/28以降（受付終了後）※次回募集開始までに支払があった場合】



論文掲載料支援申請　【支援対象外：募集開始後に支払を完了し，その後に申請を行った場合】



資料2-3-1-(1)-04

Subject: 【財務係】重点特別経費（プロジェクトB)の予算配分について
From: 総務課財務係長 <[redacted]>
Date: 2019/07/09 13:39
To: [redacted]

電子制御工学科 [redacted]先生

いつもお世話になっております。
財務係 [redacted]です。

標記のことにつきまして、配分予定金額を以下のとおり
お知らせいたします。

重点特別経費（プロジェクトＢ）
専攻科生３名×５０千円=１５０千円

現在決裁中でございますので決裁完了後に財会システムに
登録させていただきます。

登録後は改めてご連絡いたします。

以上、よろしくお願い致します。

****
岐阜工業高等専門学校
総務課財務係長
[redacted]氏
〒501-0495 [redacted]
[redacted]
[redacted]
****

国立高等専門学校教員顕彰実施要項

理事長裁定
平成２２年１０月１９日制定
平成２３年　９月３０日一部改正
平成２７年１０月　７日一部改正
平成２８年１０月１３日一部改正
平成３０年１１月１２日一部改正

１．顕彰要項

（１）趣旨

高等専門学校教員は主として教育者の面を持つが，一方で研究者の面を持つとともに高等専門学校の管理運営にも果たすべき役割がある。また，それぞれの地域に立地する高等教育機関の教員として，教育や研究を通じた地域社会への貢献も期待されている。高等専門学校教員個々に対する業績評価は，これらを総合して行われるべきものであるが，現状においては，ともすれば専門の研究業績のみが重視され，学生教育や管理運営及び地域社会への貢献に係る業績が適正に評価されていないおそれがある。このような観点から，管理運営，地域社会への貢献を含み，学生教育を中心とする分野において顕著な功績を挙げている教員を顕彰するとともに，顕彰を通じて国立高等専門学校における教育の充実及び向上を目指すものである。

（２）顕彰部門

顕彰部門として，一般部門と若手部門を設ける。

（３）賞

国立高等専門学校教育業績賞とし，下表の賞を設ける。

賞の名称	受賞対象者	受賞者数
文部科学大臣賞	両顕彰部門を通じて，最も優秀な業績を挙げている教員	両顕彰部門を通じて１名
国立高等専門学校機構理事長賞	各顕彰部門において，文部科学大臣賞に次ぐ業績を挙げている教員	各顕彰部門から若干名
優秀賞	各顕彰部門において，国立高等専門学校機構理事長賞に次ぐ業績を挙げている教員	各顕彰部門から若干名
分野別優秀賞	各顕彰部門において，教育活動，学生生活指導，教育・研究を通じた社会への貢献の各分野で特に優れた業績を上げている教員	各顕彰部門から若干名

（４）顕彰基準

国立高等専門学校における次に掲げる活動分野において顕著な功績があったと認められる者とする。若手部門では特に，今後一層の功績を挙げることが期待される者を重視する。

① 教育活動
② 学生生活指導
③ 教育・研究を通じた社会への貢献
④ 管理運営（一般部門の顕彰基準に限る。）

（５）候補者の推薦

下記２の候補者推薦要領により，各国立高等専門学校長が行う。

（６）推薦の条件

① 一般部門

当該年度の１０月１日現在で国立高等専門学校における勤務年数が５年を超える教員

② 若手部門

当該年度の１０月１日現在で国立高等専門学校における勤務年数が５年を超え，かつ，当該年度の３月３１日における年齢が４０歳以下の教員

（７）顕彰対象者の決定

（５）によって推薦された候補者の中から，下記３の顕彰対象者選考要領に基づいて顕彰対象者及び各賞の受賞者の選考及び決定を行う。

２．候補者推薦要領

（１）推薦基準

教員の自己点検評価，教員による相互評価，学生による授業評価等に基づいて，当該国立高等専門学校の校長が推薦する。教員の自己点検評価，教員による相互評価及び学生による授業評価は，各国立高等専門学校において実施している評価法又は「参考資料０１：教員の教育業績等評価」によるものとする。なお，これらの評価は顕彰対象者の採点及び審査並びに顕彰対象者及び各賞の受賞候補者の選考には用いない。

（２）推薦人員

各国立高等専門学校から各顕彰部門にそれぞれ１名を推薦することができる。ただし，同一の教員を両顕彰部門に推薦することはできない。

（３）再推薦の条件

過去にこの顕彰により文部科学大臣賞又は国立高等専門学校機構理事長賞（独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞を含む。）を受賞したことのある教員を推薦することはできない。ただし，若手部門の顕彰対象者としてこの顕彰により文部科学大臣賞又は国立高等専門学校機構理事長賞を受賞したことのある教員を一般部門の候補者として推薦する場合で，当該受賞の日から５年を経過している場合はこの限りではない。

なお，再推薦された候補者は，候補者調書にこの顕彰による受賞歴を記載し，自己申告書の作成にあっては，その受賞以後に追加された業績を明確にすることとする。

（４）提出書類

提出書類は，下表に掲げるとおりとする。

提出書類名	摘要
推 薦 書	・ 様式１（Ａ４判１ページ） ・ 校長が記入 ・ 資料の添付は不可
候補者調書	・ 様式２（Ａ４判４ページ） ・ 当該教員が記入 ・ 資料の添付は不可 ・ 顕彰題目，顕彰内容，及び自己申告書の記載内容は，受賞後に公表されることを前提に記入
自己申告書	・ 様式３（Ａ４判４ページ（一般部門），Ａ４判３ページ（若手部門）） ・ 当該教員が記入 ・ 資料の添付は不可

３．顕彰対象者選考要領

（１）選考委員会

① 各顕彰部門の候補者の採点及び審査並びに顕彰対象者及び各賞の受賞候補者の選考を行うために，国立高等専門学校教員顕彰（一般部門）選考委員会及び国立高等専門学校教員顕彰（若手部門）選考委員会を設ける。

② 各選考委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

イ 独立行政法人国立高等専門学校機構企画委員会委員（以下「企画委員会委員」という。） ２名

ロ 企画委員会委員以外の国立高等専門学校長 ２名

ハ 国立大学法人長岡技術科学大学又は国立大学法人豊橋技術科学大学の役員又は教授（以下「技科大役職員」という。） １名

③ 各選考委員会に委員長を置き，②イの委員の中から，理事長が指名する。

（２）選考方法

① 各選考委員会委員は，各顕彰部門の候補者の候補者調書及び自己申告書の採点を行う。

② 各選考委員会は，①の採点結果を踏まえ，提出書類を総合的に審査し，顕彰対象者及び各賞の受賞候補者を選考する。

③ ①の採点及び②の審査においては，選考委員会委員の所属する国立高等専門学校の候補者がいる場合は，当該委員は当該候補者の採点及び審査には加わらない。

（３）決定方法

① （２）②の選考結果に基づいて，独立行政法人国立高等専門学校機構企画委員会委員長（以下「企画委員会委員長」と言う。），各選考委員会委員長及び技科大役職員の合議により，顕彰対象者及び各賞の受賞者を決定する。

② 企画委員会委員長は，①の合議に，各選考委員会委員長以外の選考委員会委員の出席を求めることができる。

③ 企画委員会委員長は，①の決定をするに当たり，独立行政法人国立高等専門学校機構企画委員会の承認を受けなければならない。

４．顕彰業績の発表等

各賞の受賞者は，理事長の指名があった場合は，全国高専フォーラムにおける発表，高等専門学校教職員を対象とする各種研修における発表，高等専門学校の教育，研究又は管理運営に関する事例に係る資料集への掲載，高等専門学校の教育に係る教材集への登録その他の理事長が指定する方法により，顕彰業績を発表するものとする。

５．日程

１０月上旬：候補者募集
１１月中旬：候補者締め切り
１月下旬：選考委員会開催
顕彰対象者及び各賞の受賞者の決定

附　記（平成２３年９月３０日一部改正）

（高度化再編校の推薦者数の特例）

１．仙台高等専門学校，富山高等専門学校，香川高等専門学校及び熊本高等専門学校においては，旧学科が存続する平成２５年度までの間の経過措置として，２（２）中「それぞれ１名」とあるのを「それぞれ２名（各キャンパスにつき１名ずつ）」と読み替えて教員顕彰候補者を推薦できるものとする。

附　記（平成２７年１０年７日一部改正）

附　記（平成２８年１０年１３日一部改正）

附　記（平成３０年１１年１２日一部改正）

過去の「特別功労者」選考結果

年度	候　補　者	選考結果	該当項目	備考（表彰日）
１４	一般科（自然）[redacted]	○	クラブ運営	１５．４．２６
〃	寮父[redacted]	○	寮生指導	〃
〃	非常勤講師[redacted]	○	非常勤講師	〃
〃	非常勤講師[redacted]	○	非常勤講師	〃
〃	電気情報工学科[redacted]	△保留	→H17 年度の表彰	
〃	学生課[redacted]	否		
〃	電子制御工学科[redacted]	否		
〃	岐阜工業高等専門学校教育後援会	○	各種団体	１５．４．２６
〃	若鮎会	○	各種団体	〃
１５	一般科（自然）[redacted]	○	クラブ運営	１６．６．２３
〃	電気情報工学科[redacted]	△延期	→H17 年度の表彰	
〃	建築学科[redacted]	○	社会貢献	１６．６．２３
１６	機械工学科[redacted]	○	管理運営	１７．２．２２
１７	校長[redacted]	△再度推薦	→H18 年度の表彰	
〃	機械工学科[redacted]	○	技術指導	１８．２．２４
〃	電気情報工学科[redacted]	○	管理運営	〃
〃	電気情報工学科[redacted]	○	JABEE	〃
〃	株式会社ＴＹＫ会長[redacted]	○	教育支援	１８．３．１
１８	一般（人文）[redacted]	○	講義演習等	１９．２．６
〃	環境都市工学科[redacted]	○	クラブ運営	〃
〃	前校長[redacted]	○	学校運営	〃
〃	機械工学科[redacted]	○	資格取得教育	〃
〃	学生課[redacted]	○	事務貢献	〃
１９	電子制御工学科[redacted]	○	管理運営	２０．３．１３
２０	機械工学科[redacted]	○	技術指導	２１．３．３１
〃	電気情報工学科[redacted]	○	JABEE	〃
〃	環境都市工学科[redacted]	△延期	クラブ運営	※→H23 年度表彰
〃	総務課[redacted]	○	事務貢献	〃
〃	技術室[redacted]	○	実習教育	〃
２１	学生課[redacted]	○	事務貢献	２２．３．３１
〃	技術室[redacted]	○	技術指導	〃
２２	機械工学科[redacted]	○	外部資金獲得推進	２３．３．１７
〃	電気情報工学科[redacted]	○	地域貢献	〃
２３	電子制御工学科[redacted]	○	特に顕著な功績(ﾛﾎﾞｺﾝ)	２４．３．８
〃	環境都市工学科[redacted]	○	クラブ運営	２４．３．８
２４	前校長[redacted]	○	学校運営	２５．３．１５
〃	一般科目（自然）[redacted]	○	クラブ運営	〃
	岐阜高専建設技術士有志会	○	教育支援	〃

年度	候　補　者	選考結果	該当項目	備考（表彰日）
２５	㈱TYK 会長 [redacted]	○	教育研究支援（50 周年）	２５．１１．１６
〃	教育後援会	○	〃	〃
〃	若鮎会	○	〃	〃
〃	岐阜信用金庫理事長 [redacted]	○	〃	〃
〃	電子制御工学科 [redacted]	○	学校運営	２６．３．１１
〃	総務課課長補佐 [redacted]	○	事務貢献	〃
〃	学生課（寮父） [redacted]	○	学生寮支援	〃
２６	一般科目（自然） [redacted]	○	クラブ指導	２７．３．１３
〃	電気情報工学科 [redacted]	○	〃	〃
〃	専攻科長 [redacted]	○	JABEE	〃
〃	電気情報工学科 [redacted]	○	特に顕著な功績（各種制度の創案等）	〃
〃	環境都市工学科 [redacted]	○	学校運営	〃
〃	コーディネーター [redacted]	○	社会貢献	〃
２７	校長 [redacted]	○	学校運営外	２８．５．２４
〃	一般科目（人文） [redacted]	○	学校運営	２８．３．２５
２８	一般科目（自然） [redacted]	○	特に顕著な功績(永年の学生指導への貢献)	２９．３．８
２９	電子制御工学科 [redacted]	○	学校運営	３０．３．１４
２９	建築学科 [redacted]	○	学校運営	〃
２９	学生寮指導員 [redacted]	○	学生寮支援	〃
３０	総務課長 [redacted]	○	事務貢献	３１．３．１２
３０	総務課長補佐 [redacted]	○	事務貢献	〃
R1	一般科目（人文） [redacted]	○	学校運営	
R1	技術長 [redacted]	○	学校及び学科発展	
R1	コーディネーター [redacted]	○	社会貢献	

平成30年度重点特別経費（プロジェクトB）配分

5万円/人

	名列	学籍	学生氏名	出身	学位	学科	主査	人数	配分額
1	2	2017Y02	[redacted]	M	機械	機械	[redacted]	4	200,000
2	12	2017Y12		D	機械	機械	[redacted]		
3	18	2017Y18		D	機械	機械	[redacted]		
4	31	2018Y31		M	機械	機械	[redacted]		
5	20	2018Y20		M	機械	機械	[redacted]	2	100,000
6	1	2017Y01		D	機械電気	機械	[redacted]		
7	6	2018Y06		M	機械	機械	[redacted]	5	250,000
8	13	2018Y13		M	機械	機械	[redacted]		
9	24	2018Y24		M	機械	機械	[redacted]		
10	21	2017Y20		M	機械	機械	[redacted]		
11	23	2017Y22		M	機械	機械	[redacted]		
12	2	2018Y02		M	機械	機械	[redacted]	3	150,000
13	4	2017Y04		M	機械	機械	[redacted]		
14	33	2017Y32		M	機械	機械	[redacted]		
15	26	2017Y25		M	機械	機械	[redacted]	1	50,000
16	22	2018Y22		EJ	情報	電気	[redacted]	3	150,000
17	32	2018Y32		EJ	情報	電気	[redacted]		
18	11	2017Y11		EJ	情報	電気	[redacted]		
19	17	2018Y17		EJ	電気	電気	[redacted]	3	150,000
20	3	2017Y03		EE	電気	電気	[redacted]		
21	39	2017Y36		EE	電気	電気	[redacted]		
22	18	2018Y18		EE	電気	電気	[redacted]	1	50,000
23	1	2018Y01		EE	電気情報	電気	[redacted]	6	300,000
24	7	2018Y07		E	電気	電気	[redacted]		
25	15	2018Y15		EJ	電気情報	電気	[redacted]		
26	23	2018Y23		EJ	電気情報	電気	[redacted]		
27	16	2017Y16		EJ	電気	電気	[redacted]		
28	27	2017Y26		EJ	電気情報	電気	[redacted]		
29	10	2017Y10		EE	電気	電気	[redacted]	1	50,000
30	28	2017Y27		EJ	情報	電気	[redacted]	2	100,000
31	31	2017Y30		EJ	情報	電気	[redacted]		
32	12	2018Y12		EE	電気	電気	[redacted]	1	50,000
33	28	2018Y28		EE	電気	電気	[redacted]	2	100,000
34	36	2017Y34		EE	電気	電気	[redacted]		
35	21	2018Y21		D	機械電気	電子	[redacted]	6	300,000
36	30	2018Y30		D	機械電気	電子	[redacted]		
37	17	2017Y17		D	機械電気	電子	[redacted]		
38	19	2017Y19		D	機械電気	電子	[redacted]		
39	24	2017Y23		D	機械電気	電子	[redacted]		
40	35	2017Y33		D	機械電気	電子	[redacted]		

41	9	2018Y09	[redacted]	D	機械	電子	[redacted]	2	100,000
42	33	2018Y33		D	機械	電子	[redacted]		
43	6	2017Y06		D	機械電気	電子	[redacted]	3	150,000
44	9	2017Y09		D	機械電気	電子	[redacted]		
45	34	2016Y26		D	機械電気	電子	[redacted]		
46	20	2016Y13		D	機械電気	電子	[redacted]	2	100,000
47	37	2016Y29		D	機械電気	電子	[redacted]		
48	8	2018Y08		D	機械電気	電子	[redacted]	1	50,000
49	11	2018Y11		D	電気	電子	[redacted]	1	50,000
50	5	2018Y05		C	土木	環境	[redacted]	2	100,000
51	10	2018Y10		C	土木	環境	[redacted]		
52	8	2017Y08		C	土木	環境	[redacted]	1	50,000
53	26	2018Y26		C	土木	環境	[redacted]	3	150,000
54	15	2017Y15		C	土木	環境	[redacted]		
55	38	2017Y35		C	土木	環境	[redacted]		
56	25	2018Y25		C	土木	環境	[redacted]	2	100,000
57	25	2017Y24		C	土木	環境	[redacted]		
58	19	2018Y19		A	建築	建築	[redacted]	2	100,000
59	29	2018Y29		A	建築	建築	[redacted]		
60	7	2017Y07		A	建築	建築	[redacted]	1	50,000
61	32	2017Y31		A	建築	建築	[redacted]	1	50,000
62	3	2018Y03		A	建築	建築	[redacted]	2	100,000
63	16	2018Y16		A	建築	建築	[redacted]		
64	30	2017Y29		A	建築	建築	[redacted]	1	50,000
65	5	2017Y05		A	建築	建築	[redacted]	4	200,000
66	14	2017Y14		A	建築	建築	[redacted]		
67	22	2017Y21		A	建築	建築	[redacted]		
68	29	2017Y28		A	建築	建築	[redacted]		
69	4	2018Y04		A	建築	建築	[redacted]	3	150,000
70	14	2018Y14		A	建築	建築	[redacted]		
71	27	2018Y27		A	建築	建築	[redacted]		
72	13	2017Y13		A	建築	建築	[redacted]	1	50,000
							合計	72	3,600,000

岐阜工業高等専門学校学習評価フォローアップワーキンググループ内規

制定　平成２０年３月６日

（設置）

第１条　岐阜工業高等専門学校点検評価・フォローアップ委員会規程（平成１６年学校規則第８号，以下「規程」という。）第７条第３号の規定に基づき，学習評価フォローアップワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）に関する必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　ワーキンググループは，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　学習評価フォローアップ点検に関すること。

二　学習評価フォローアップ実施要領に関すること。

三　教育プログラムの点検に関すること。

四　その他学習評価フォローアップに関すること。

（組織）

第３条　ワーキンググループは，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　点検評価・フォローアップ委員会委員長

二　教務会議及び専攻科会議で選出された者　各１名

三　規程第３条第４号に規定により選出された者　各１名

四　規程第３条第５号に規定により選出された者　各１名

五　学生課長

六　ワーキンググループ長が指名する者　若干名

（ワーキンググループ長）

第４条　ワーキンググループにワーキンググループ長を置き，点検評価・フォローアップ委員会委員長をもって充てる。

２　ワーキンググループ長は，ワーキンググループを招集し，その議長となる。

（庶務）

第５条　ワーキンググループの庶務は，総務課において処理する。

附　則

この内規は，平成２０年３月６日から施行する。

附　則

この内規は，平成２５年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成３１年４月１日から施行する。

令和元(2019)年度 授業参観実施要項

１．趣旨

事前に実施される「FD 講演会」との連携を図り、FD 活動の一環として教員相互の授業参観を行う。授業参観を通して、授業改善あるいは教科目連携改善の機会とする。また，本校学生の保護者や，広く一般の教育関係者に授業を公開し客観的な評価を受けることにより，授業運営能力及び教授能力の向上を図る機会とする。ただし、今年度の第 1 回 FD 講演会は在外研究報告とする。

２．参観者

前期授業参観週間：本校教職員（非常勤を含む），
外部公開（本校学生の保護者，中学生とその保護者，及び中学校等の教育関係者）
後期授業参観週間：本校教職員（非常勤を含む）のみ

３．実施期間

前期授業参観週間：5月17 日（金）～23 日（木）
後期授業参観週間：12 月10 日（火）～16 日（月）
尚、授業参観週間以外であっても常勤教員の授業については随時、参観可とする。

４．参観対象授業

① 本校教員にあっては，FD 講演会等で紹介された授業改善の方法を少しでも取り入れることを検討する。授業参観週間の参観対象科目は基本的には全授業科目であるが，前期は教育 AP 推進室長から推薦された「先端的メディアを活用した授業科目」の参観，後期は AP で実施した授業アンケートの結果をもとに学生から推奨されている授業科目などを別途，推奨する。
② 学外者等にも上記 1. の趣旨を伝え，実験実習を含む本科及び専攻科の全授業を参観対象とする。（ただし，特別な理由がある科目や卒業研究，特別研究を除く）

５．周知方法

① 学内者：教員は教務主事より伝え，事務職員・非常勤講師は教務係長から伝える。
② 保護者：保護者宛ての案内文書を送付（案内文書と授業時間割）
③ その他学外者：ホームページ（菅原教務委員担当）

６．授業評価の方法

① 学内者は，別紙１の報告書を電子ファイルで，教員は教務委員，事務職員は教務係長へ提出する。
（前期授業参観週間：5 月 31 日（金）〆切　後期授業参観週間：12 月 20 日（金）〆切）
② 保護者及び学外者には，別紙２のアンケート用紙を受付で配布し，教務係で回収する。（授業参観週間のみ）
③ 提出されたすべての報告書等を PDF 化して学内ホームページに公開し，参考資料とする。
④ 各学科では学科長と教務委員が連携のうえ，授業改善や科目連携の趣旨に基づく検討を行った記録を残す（学科会議等の議事録で可）。
⑤ 教務主事は，各学科の検討結果をとりまとめ，総括を行う。

７．保護者及び学外者への対応

① 受付：学生課窓口（保護者は名列表に人数を記載，保護者以外は所属と氏名を記載）
② 受付で，リボン，アンケート用紙，授業時間割表，敷地建物案内図，筆記用具を渡す。
③ アンケートの回収：学生課窓口に回収箱を設置

８．その他

① この期間に工場見学等の学外授業（特活を除く）を計画しないよう全教員に依頼にする。
② 学級担任に教室の後部に参観用空きスペースを設けるようお願いする。

平成31（2019）年度　**前期授業時間割表**

先端的メディアを活用した授業　授業変更　参観不可

M:機械工学科　E:電気情報工学科　D:電子制御工学科　C:環境都市工学科　A:建築学科

		月（MON）				火（TUE）				水（WED）				木（THU）				金（FRI）			
		Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10	Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10	Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10	Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10	Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10
第1学年	M	英語C 情1 亀山	国語B 堅田	体育 麻草	特活 久保田	地理 小早川	音楽＊ ビデオ ※林	数学B 岡田		保健 麻草	英語B ※松野	数学AⅠ＊ 岡崎		数学AⅠ＊ 岡崎	英語A 野々村	国語A 堅田	化学A ※池上	ものづくり入門 工場・MDL 宮藤・高橋		総合理科＊ ※池上	世界史 ※遠藤（嘉）
	E	体育 麻草	英語A 野々村	数学AⅠ＊ 北川（真）	特活 堅田	英語C 情1 亀山	電気電子設計製図 E科2F電気電子実験室 田島	数学B 北川（真）	世界史 ※遠藤（嘉）	英語B ※松野	地理 小早川	保健 麻草		国語B 堅田	化学A 渡邉（慎）	総合理科＊ ※池上	電気電子設計製図 熊崎	国語A 堅田	音楽＊ ビデオ ※林	数学AⅠ＊ 北川（真）	
	D	地理 小早川	体育 山本（浩）	英語A 野々村	特活 野々	音楽＊ ビデオ ※林	世界史 ※遠藤（嘉）	数学AⅠ＊ 八木		国語A 堅田	化学A 渡邉（慎）	英語B ※松野		数学AⅠ＊ 八木	総合理科＊ ※池上	英語C 情1 亀山	電子制御工学概論＊ 小木曽	保健 山本（浩）	国語B 中島（泰）	数学B 中島（泉）	
	C	音楽＊ ビデオ ※林	英語B ※澤田	数学AⅠ＊ 岡崎	特活 小早	化学A 上原	英語C 情1 亀山	世界史 ※遠藤（嘉）		英語A 野々村	数学B 岡崎	体育 久世		コンピュータリテラシ＊ 情3 鈴木（正）	国語B 中島（泰）	保健 久世	地理 小早川	総合理科＊ ※池上	数学AⅠ＊ 岡崎	国語A 堅田	シビルエンジニアリング入門 吉村
	A	英語B ※澤田	国語B 中島（泰）	数学AⅠ＊ 八木	特活 八木	英語A 野々村	化学A 上原	体育 久世		保健 久世	国語A 堅田	数学B 八木		地理 小早川	建築製図Ⅰ 3A 鶴田	数学AⅠ＊ 八木	英語C 情1 亀山	音楽＊ ビデオ ※林	総合理科＊ ※池上	世界史 ※遠藤（嘉）	建築構法Ⅰ＊ 清水（隆）
第2学年	M	英語A 佐竹	数学AⅠ＊ 岡崎	物理BⅠ＊ 渡邉（慎）	特活 渡邉（慎）	物理BⅠ＊ 渡邉（慎）	倫理 久保田	機械工学実習Ⅰ 工場 宮藤		化学B 上原	英語C 野々村	機械設計製図Ⅰ MDL 高橋		機械工作法Ⅰ＊ 宮藤	数学B 岡崎	情報リテラシー＊ 情2 島本		数学AⅠ＊ 岡崎	総合国語 宮口	体育 麻草	日本史 ※稲垣
	E	物理BⅠ＊ 菅	化学B 上原	倫理 小早川	特活 中島（泉）	総合国語 宮口	数学AⅠ＊ 中島（泉）	プログラミング 出口		英語A 佐竹	数学B ※真島	物理BⅠ＊ 菅		英語C 野々村	電気回路Ⅰ 飯田	日本史 ※稲垣		体育 麻草	数学AⅠ＊ 中島（泉）	電気情報工学実験 柴田（欣）・堀内	
	D	電子制御設計製図Ⅰ 情3 北川（輝）	物理BⅠ＊ 渡邉（慎）	数学AⅠ＊ 中島（泉）	特活 宮口	倫理 久保田	ディジタル回路 北川（輝）	英語C 野々村		総合国語 宮口	情報処理Ⅰ 情1 遠藤	数学AⅠ＊ 中島（泉）		英語A 佐竹	化学B 上原	物理BⅠ＊ 渡邉（慎）	日本史 ※稲垣	数学B ※真島	体育 山本（浩）	電子制御工学実習Ⅱ＊ 工場・計測制御実験室 栗山	
	C	総合国語 宮口	数学AⅠ＊ 岡田	化学B 上原	特活 佐竹	英語C 清水（晃）	物理BⅠ＊ 菅	基礎力学 水野（和）	基礎材料学 水野（和）	数学B ※真島	体育 ※井上	倫理 ※大塚		数学AⅠ＊ 岡田	物理BⅠ＊ 菅	英語A 佐竹		基礎製図 渡邉（尚）	日本史 ※稲垣	測量実習Ⅰ 廣瀬	測量学Ⅰ 廣瀬
	A	空間デザイン基礎＊ 2A 今田	建築構法Ⅱ＊ 犬飼	建築製図Ⅱ 3A 鶴田	特活 菅	数学AⅠ＊ 岡田	総合国語 宮口	物理BⅠ＊ 菅		体育 ※井上	倫理 ※大塚	化学B 上原		建築史Ⅰ 清水（隆）	数学AⅠ＊ 岡田	英語C 清水（晃）	物理BⅠ＊ 菅	英語A 佐竹	数学B ※真島	日本史 ※稲垣	
第3学年	M	数学AⅠ＊ 岡田	英語C＊ ※キャシディー	応用物理Ⅰ 河野	特活 河野	機構学 山田（実）	計測工学＊ 小栗	材料学Ⅰ＊ 島本		数学AⅠ＊ 岡田	政治経済 久保田	英語A 佐竹■	■	体育 山本（浩）・麻草	総合国語 ※後藤	機械工学実習Ⅱ 工場 宮藤		材料力学Ⅰ 小栗	工業力学 石丸	情報処理Ⅰ＊ MDL 山本（高）	機械設計製図Ⅱ MDL 高橋
	E	計算機アーキテクチャ 田島	プログラミング 山田（博）	英語A 佐竹	特活 柴田（欣）	電子回路 飯田	数学AⅠ＊ 北川（真）	応用物理Ⅰ 安田	電気回路Ⅰ 所	数学AⅠ＊ 北川（真）	電気磁気学Ⅰ 熊崎	政治経済 久保田		応用数学A＊ 柴田（欣）	体育 久世・山本（浩）・麻草	電気情報工学実験 白木・柴田（欣）		電気情報工学基礎演習 田島	英語C＊ ※キャシディー	総合国語 ※後藤	
	D	材料の力学Ⅰ 栗山	数学AⅠ＊ 北川（真）	英語C＊ ※キャシディー	特活 小林	応用物理Ⅰ 河野	電子回路 小木曽	電子制御工学実験Ⅰ D科計測制御実験室 黒山		機械運動学Ⅰ 小林	数学AⅠ＊ 北川（真）	情報処理Ⅱ 情2 遠藤		体育 山本（浩）・麻草	政治経済 久保田	電気磁気学Ⅰ 藤田		総合国語 ※後藤	英語A 佐竹	電子制御設計製図Ⅱ＊ 情2 黒山	電気回路Ⅰ 長南
	C	英語C＊ ※キャシディー	応用物理 応用物理実験教室 小川・渡邉（尚）	構造力学Ⅰ 水野（剛）	特活 菊	土質力学Ⅰ 吉村	数学AⅠ＊ 八木	測量実習Ⅱ 廣瀬	測量学Ⅱ 廣瀬	数学AⅠ＊ 八木	英語A 亀山	コンクリート工学Ⅰ 岩瀬		総合国語 ※後藤	体育 久世・山本（浩）・麻草	基礎実験Ⅰ 岩瀬・吉村・川端		数理計画学Ⅰ 川端	応用数学 久保田	環境工学Ⅰ 角野	水理学Ⅰ 菊
	A	構造力学Ⅰ 犬飼	数学AⅠ＊ 中島（泉）	英語A ビデオ 亀山	特活 小川	応用物理Ⅰ 応用物理実験教室 小川	建築計画Ⅰ 今田	情報処理＊ 情1 小川	数学AⅠ＊ 中島（泉）	インテリアデザイン論＊ 櫻木	環境工学基礎＊ 石川	建築環境実験＊ 情4 青木・石川		政治経済 久保田	体育 久世・山本（浩）・麻草	建築設計製図Ⅰ 情3 ※門脇・今田・櫻木		デジタルデザインⅠ＊ 情2 清水（隆）	総合国語 ※後藤	英語C＊ ※キャシディー	材料力学＊ 柴田（良）
第4学年	M	機械設計法Ⅱ＊ MDL 片峯	塑性加工学Ⅰ＊ 加藤	創生工学実習 MDL ～16:00 石丸・片峯・宮藤・高橋		法学 ※大矢	体育 久世・※揖斐・※上田	機械工学実験Ⅱ＊ 加藤・石丸・山田（実）		熱力学Ⅰ 石丸	伝熱工学Ⅰ＊ 山本（高）	総合国語＊ 宮口		流体力学Ⅰ 中谷	応用数学Ⅰ 加藤・山田（実）	塑性加工学Ⅰ＊ 加藤	応用物理Ⅱ＊ 河野	英語A 情5 菅原	工業英語＊ 加藤	応用数学Ⅱ＊ 森口	材料学Ⅱ＊ 島本
	E(E)	応用数学B 富田（勲）	情報伝送工学 情4 所	工学基礎研究 E科教員		体育 ※揖斐・※上田	信号処理＊ ※山田（功）	電気情報工学実験＊ 富田（勲）・堀内		電気磁気学Ⅰ＊ 羽渕	ディジタル回路Ⅱ＊ 山田（博）	応用数学D＊ 森口		法学 ※荻野	英語A 情5 菅原	応用物理Ⅰ 富田（勲）	計算機アーキテクチャ 田島	通信工学 白木	英語A 情5 菅原	総合国語＊ 宮口	電子工学 飯田
	E(J)	応用数学B 富田（勲）	データ構造とアルゴリズム＊ CCR2 出口	工学基礎研究 E科教員		体育 ※揖斐・※上田	信号処理＊ ※山田（功）	電気情報工学実験＊ 富田（勲）・堀内		電気磁気学Ⅰ＊ 羽渕	情報数学 CCR2 安田	応用数学D＊ 森口		法学 ※荻野	英語A 情5 菅原	応用物理Ⅰ 富田（勲）	計算機アーキテクチャ 田島	通信工学 白木	英語A 情5 菅原	総合国語＊ 宮口	電子工学 飯田
	D	制御工学 黒山	英語A 情2 菅原	電子制御総合実験＊ D科情報処理演習室 D科教員		体育 ※揖斐・※上田	法学 ※大矢	電気回路Ⅱ＊ 小木曽		応用物理Ⅰ 河野	応用数学D＊ 森口	機械運動学Ⅱ＊ 小林		制御工学 黒山	情報処理Ⅲ 情2 福永	電子制御工学実験Ⅱ D科計測制御実験室 小林		応用数学B 森口	計測工学 情2 黒山	電気磁気学Ⅱ 福永	電子制御回路＊ 情2 藤田
	C	構造力学Ⅱ 水野（剛）	総合国語＊ 宮口	基礎実験Ⅱ 岩瀬・水野（和）		設計製図 情2 岩瀬・水野（和）	体育 久世・※揖斐・※上田	水理学Ⅲ 和田	数値計算法 情1 鈴木（正）	コンクリート工学Ⅱ 岩瀬	英語A 情5 菅原	環境工学Ⅱ 角野		水理学Ⅱ/和田 構造力学Ⅱ/水野（剛）	土質力学Ⅱ 情1 水野（和）	法学 ※荻野	応用数学 渡邉（尚）	土質力学Ⅱ 情1 水野（和）	測量学Ⅲ 菊	都市工学＊ 川端	ドイツ語 ※中川
	A	建築設備Ⅰ 青木	インテリア設計Ⅱ＊ 情1 清水（隆）・青木		建築設計製図Ⅱ 情1 清水（隆）・青木	建築材料Ⅰ＊ 犬飼	体育 久世・※揖斐・※上田	環境工学Ⅱ 石川	応用数学Ⅱ 渡邉（尚）	構造力学Ⅱ 柴田（良）	建築技術者倫理＊ 櫻木	英語A 情5 菅原■	■	RC構造Ⅰ ※竹中	法学 ※荻野	情報処理Ⅱ＊ 情4 柴田（良）	地域都市計画＊ 鶴田	ドイツ語 ※中川	建築計画Ⅱ 櫻木	鉄骨構造Ⅰ 柴田（良）	応用物理Ⅱ＊ 応用物理実験教室 小川
第5学年	M	熱力学Ⅱ＊ 石丸	卒業研究	流体機械＊@ 中谷	弾性力学＊@ 小栗	流体力学Ⅱ＊ 中谷	伝熱工学Ⅱ＊@ 山本（高）	応用物理Ⅲ＊ 河野	工学解析＊ MDL 片峯	制御工学Ⅱ＊ 山田（実）	メカトロニクス＊@ ※奥川	ドイツ語 ※神谷		工学解析＊ MDL 片峯		材料力学Ⅲ＊ 小栗		エネルギー工学＊ 山本（高）	英語A 清水（晃）■	技術者倫理＊ ※比屋根	機械力学Ⅱ＊ 片峯
	E(E)	電子計測＊@ 熊崎	情報数学@ CCR1 安田	卒業研究		応用物理Ⅱ＊@ 1講 富田（勲）	英語A 清水（晃）	情報理論＊@ ※山田（功）	エネルギー変換工学＊@ 富田（睦）	プラズマ工学＊@ 柴田（欣）	ドイツ語 ※神谷	発変電工学＊@ 富田（睦）		光・量子エレクトロニクス＊@ 白木	データ構造とアルゴリズム＊@ CCR1 出口	光工学＊@ 羽渕	高電圧工学＊@ 所	電気材料Ⅱ＊@ 飯田	自動制御@ 富田（睦）	電気電子工学実験 E科教員	
	E(J)	電子計測＊@ 熊崎	情報伝送工学@ 情4 所	卒業研究		応用物理Ⅱ＊@ 1講 富田（勲）	英語A 清水（晃）	電気磁気学Ⅱ＊@ CCR1 羽渕	エネルギー変換工学＊@ 富田（睦）	プラズマ工学＊@ 柴田（欣）	ドイツ語 ※神谷	ディジタル回路Ⅱ＊@ CCR1 羽渕		光・量子エレクトロニクス＊@ 白木	ソフトウェア工学＊@ 田島	光工学＊@ 羽渕	コンパイラ＊@ CCR1 出口	電気材料Ⅱ＊@ 飯田	自動制御@ 富田（睦）	情報工学実験 E科教員	
	D	システム制御Ⅰ＊ 遠藤	電子計算機Ⅰ＊ 福永	電動力デバイスⅠ＊ 長南	電子応用機器＊@ ※鈴木（克）	応用物理Ⅱ＊@ 1講 富田（勲）	ロボット工学Ⅰ＊ 北川（秀）	情報伝送工学＊ 遠藤	卒業研究	ドイツ語 ※神谷	電子工学Ⅰ＊ ※吉田	卒業研究		電子デバイスⅠ＊ 藤田	電子制御工学実験Ⅱ D科教員	信頼性工学＊@ ※竹下・※三宅		英語A 清水（晃）	技術者倫理＊ ※比屋根	環境エネルギー工学＊ ※平田	電子制御工学実験Ⅲ D科教員
	C	総合実験＊ 吉村・廣瀬・川端		防災工学＊ 和田・吉村・廣瀬・渡邉（尚）	河川水文学＊@ 鈴木（正）	鋼構造 ＊@／※西澤 卒業研究		地盤工学＊@ 吉村		地域都市計画＊@ 川端	英語A 清水（晃）	交通工学＊@ ※非常勤・吉村		生物学的排水処理工学＊@ 角野	構造解析学＊@ 水野（剛）	応用土質力学＊@ 水野（和）	応用土質力学＊@ 水野（和）	循環型社会形成論＊ 吉村	ドイツ語 ※中川	耐震工学＊@ 渡邉（尚）	総合演習Ⅱ C科教員
	A	計画特論＊@ 情5 鶴田	環境社会学＊@ 石川	測量学＊ ※伊藤	測量学実習＊ ※伊藤	建築史Ⅲ＊@ 清水（隆）	建築生産 犬飼	建築設計製図Ⅲ＊@ 5A 今田		構造デザインⅠ＊@ ※長山	環境デザインⅠ＊ 情2 青木	卒業研究		英語A 清水（晃）	RC構造Ⅱ＊ ※竹中	防災工学＊ 犬飼	鉄骨構造Ⅱ＊ ※樋口	建築法規 櫻木	卒業研究	ドイツ語 ※中川	

［記号］　＊：前期のみ開講科目　@：選択科目　※：非常勤講師　　大講：大講義室，　ビデオ：ビデオルーム，　工場：実習工場，　情1・情2・情3・情4・情5：情報センター第1・第2・第3・第4（図書館棟），第5演習室（一般科棟3F），1講：第一講義室

シラバス(授業計画)　：http://www.gifu-nct.ac.jp/syllabus

■：同時限に留学生科目開講　MDL：機械デザインラボ，CCR1：コース別CR1(E科棟1F)，CCR2：コース別CR2(E科棟3F)，E強実：E科電気制御実験室(E科棟1F)，E1実：E科情報工学実験室(E科棟1F)，E2実：E科電気電子実験室(E科棟2F)，E3演：E科情報処理演習室（E科棟3F），C演：C科演習室(C科棟3F)，製図室：A科製図室(A科棟2F)，CAD室：A科CAD室(A科棟3F)

後期授業参観（12/10～12/16）

発信者 教務主事
宛先 [redacted]
写し(Cc) 教務係all
日付 2019/12/02 08:23

教員の皆様
（CC：教務係）
和田@教務主事です。

おはようございます。

後期授業参観（12/10～12/16）についてお知らせします。
お伝えしていますように、教育AP推進の観点から、
今回の後期授業参観は外部の方（事前申込み要）にも公開します。

教務掲示板に対象科目等をアップロードしました。
http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/kyoumu/H31/00indexes/index03.html
なお、報告書の〆切は、12/20（金）を設定していますので、
各学科の教務委員へ提出をお願いします。
なお、授業変更等が一部反映されていませんので、順次更新します。

よろしくお願いします。

--

[redacted]Kiyoshi WADA, Dr. Eng., P.E.)
(独)国立高専機構 岐阜工業高等専門学校
副校長（教務主事）
National Institute of Technology:
NIT, Gifu College
Vice-President for Academic Affairs
･Phone: +[redacted]
[redacted]

授業参観　アンケート

本日は、本校の授業参観にご参加いただきましてありがとうございます。
お手数ですが、以下のアンケートにお答えいただければ幸いに存じます。

回答者　１．保護者　　２．その他（　　）

ご覧になった授業は
□ 5 月 17 日（金）　□ 5 月 20 日（月）　□ 5 月 21 日（火）　□ 5 月 22 日（水）　□ 5 月 23 日（木）

ア＿＿＿＿学科　＿＿学年　　授業科目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

イ＿＿＿＿学科　＿＿学年　　授業科目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ウ＿＿＿＿学科　＿＿学年　　授業科目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下の①～⑤の各項目について、５段階で評価し、その数字を回答欄に記入して下さい。
（四つ以上の授業をご覧になった場合は、余白等に適宜記入して下さい）

５＝非常に良い　４＝良い　３＝普通　２＝悪い　１＝非常に悪い　（０＝わからない）

学生の様子について	ア	イ	ウ
①. 全体的に、授業に意欲的・積極的に取り組んでいた	（　）	（　）	（　）
②. 全体的に、授業内容を理解しているようだった	（　）	（　）	（　）

教員の教え方と教室の雰囲気について	ア	イ	ウ
③. 話し方、説明の仕方は、わかりやすいものだった	（　）	（　）	（　）
④. 板書・プロジェクターなどによる資料提示が適切だった。	（　）	（　）	（　）
⑤. 教室は、清掃・整頓等、学習しやすい環境になっていた	（　）	（　）	（　）

⑥. 自由記述欄

ア

イ

ウ

お手数ですが、この用紙は受付にお届けください。
ご協力いただきありがとうございました。

資料2-3-1-(4)-03

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名		参観者所属（科・課・係等）	
授業参観日	令和元年　5月　　日　曜日　　第　　限目		
授業科目名		参観クラス	学科　　学年
授業担当教員名		参観時間	約　　分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
①

【授業担当教員へのアドバイス】
①

【感想・その他】
①

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください.
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます.
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください.

岐阜高専での授業ご担当の先生へ授業評価アンケートのお願い

点検評価・フォローアップ委員長

本校の授業担当では大変お世話になり，感謝いたしております。

日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）による認定，大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価のために先生方には授業以外の作業を多くお願い致しております。本日は，授業評価アンケートのお願いを作業ごとにまとめてお知らせします。さらに詳細な内容については別紙「**令和元年度 学習評価・フォローアップ点検実施要領**」を参照いただければ幸いです。なお，昨年度より引き続き岐阜高専にて授業を担当されている先生におかれましては，昨年度と大きな変更はありません。

（１）授業評価アンケートの実施時期と実施回数

前期末（9 月末，専攻科は 8 月初め）及び後期末（2 月末）のフォローアップ期間に授業評価アンケートを実施して下さい。通年科目は 2 回，半期科目は 1 回実施となります。

（２）学生による授業評価アンケートの実施（３ページ目の学生向け記入要領をご参照下さい）

① アンケート用紙は，全学年とも学生個人が保管しています。
② アンケート用紙は全学年記名方式とし，学生氏名及び名列番号の記入欄を表面に設けています。アンケートの結果は成績評価には結びつかないことを説明して下さい。裏面は自由記述欄です。
③ 以下の No.1～No.5 までの点検項目について 5 段階評価で評価させて下さい。
④ No.6 については，前回のアンケート結果により今回，改善点を示した場合に実施して下さい。
・通年科目をご担当の先生：No.6 は後期末に実施して下さい。
・半期科目をご担当の先生：前年度もご担当され，改善点を示した場合は実施して下さい。
⑤ No.7 について，平成 30 年度は昨年同様に全学で統一した設問を採用します。

<table>
<tr><th>No.</th><th>学生</th><th>アンケート項目</th><th>教員</th></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="3">①学生自身の
自己点検・評価</td><td>熱心に授業を受けたか</td><td rowspan="3">学生に対する
平均的な点検・評価
および達成度評価</td></tr>
<tr><td>2</td><td>授業内容をよく理解できたか</td></tr>
<tr><td>3</td><td>総合的に授業の目標を達成したか</td></tr>
<tr><td>4</td><td>②授業に対する
点検・評価</td><td>総合的に良い授業であったか</td><td>授業に対する
自己点検・評価</td></tr>
<tr><td>5</td><td rowspan="2">③教員に対する
点検・評価</td><td>学生への対応･配慮は適切か</td><td rowspan="2">教員自身の
自己点検・評価</td></tr>
<tr><td>6</td><td>改善点が示された場合，それは改善されたと思うか</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3">能動的に学習したか（令和元年度も全学的に統一した設問を採用）</td></tr>
</table>

（３）教員による授業評価アンケートの実施

フォローアップ授業終了直後，先生方も（２）と同様のアンケート項目に対し，先生方のご判断により点検・評価して下さい。その結果を「**授業評価・達成度評価報告書及びフィードバック報告書**」の教員欄に 5 段階評価（5：最良，1：最悪）にて整数表記で記入して下さい。記入例を 4 ページ目に示します。また非常勤講師控室にも掲示しておきます。同報告書は，電子ファイル（Excel ファイル）への入力か，紙による記入でお願いします。電子ファイルは担当のサポート教員もしくは各学科フォローアップ委員から供与頂いて下さい。紙の場合は非常勤講師控室においてあります。入力（記入）後，サポート教員もしくはフォローアップ委員へお渡し下さい。

（４）授業の改善

授業アンケートの集計結果（集計作業は学校で実施します）が記載された授業評価・達成度評価報告書及びフィードバック報告書を，サポート教員もしくはフォローアップ委員を通じてお渡しします。No.2～No.5（場合によって No.7 も）で学生の評価平均値が低い項目（概ね 3.5 未満）については改善案をお考えいただき，下記の①もしくは②を実施して下さい。低い項目がなければ改善の必要はありません。アンケート用紙裏面の自由記述欄に何か記載されている場合は各科フォローアップ委員から連絡されます。改善案の参考にして下さい。

① 半期科目の場合：次年度も引き続きご担当される場合は，次年度第 1 回目の授業で，評価が低い項目について学生に改善内容をご説明ください。
② 通年科目の場合：後期第 1 回目もしくは 2 回目の授業で，評価が低い項目について学生に改善内容をご説明ください。

（５）成績評価資料のご提出

授業最終回（以後）に，下記①～③の成績評価資料を原則としてすべて，各学科のフォローアップ委員（もしくはサポート教員）にご提出ください。中間試験の答案についてはその都度ご提出いただいても結構です。また，④の学修単位の教室外学修の資料は一式で結構です。

① 全学生の定期試験の答案，必要であれば小テストやレポートなど
② 定期試験の模範解答
③ クラス全員分が記載されている成績一覧表（教員手帳のコピーでも可）
④ 学修単位の科目の場合は教室外学修の資料（全員ではなく，どの学生でもいいので一式）

（６）その他

令和元年度の学習評価フォローアップ点検実施要領をご参考までに別紙に添付いたします。
何か不明な点がございましたら下記の各学科のフォローアップ委員におたずねください。

学科名	氏名	メールアドレス	内線番号
一般科目（人文）	[redacted]	[redacted]	[redacted]
一般科目（自然）	[redacted]	[redacted]	[redacted]
機械工学科	[redacted]	[redacted]	[redacted]
電気情報工学科	[redacted]	[redacted]	[redacted]
電子制御工学科	[redacted]	[redacted]	[redacted]
環境都市工学科	[redacted]	[redacted]	[redacted]
建築学科	[redacted]	[redacted]	[redacted]
専攻科	[redacted]	[redacted]	[redacted]

外部から電話する場合は，内線電話番号の前に[redacted]入れてください。
例えば，[redacted]

学生諸君へ

点検評価・フォローアップ委員長

授業アンケートの趣旨について

本校では全ての授業科目を対象に，前期末と学年末試験終了後の 2 回にわたって，学生による授業評価アンケートを実施し，授業の改善に役立てています。この授業アンケートは主に

① 学生諸君が授業に対する態度や授業内容の理解を自分自身で点検・評価する項目
② 授業全般に対する点検・評価項目
③ 授業を担当されている教員に対する点検・評価項目

の３つがあります。自由記述欄は裏面です。授業担当教員はアンケート結果の各項目の平均値の悪い項目，あるいは裏面の自由記述欄に書かれた内容について授業の改善策等を検討し，改善した授業を実施します。また，クラスごとの平均値はホームページ上で外部公開しています。

教育改善のために大変重要なアンケート調査ですので，真摯に回答することを期待します。具体的な記入方法等については，下記の記入要領を参照して下さい。

授業アンケート記入要領（学生用）

授業アンケートは A4 用紙によるマークシートを利用して実施します。アンケート用紙はすべての科目について共通に使用しますので無くしたり，折り曲げたりしないこと。また，記名式ですが，アンケートは成績評価には全く無関係です。ただし，内容について本人による記述であるか確認することがあります。

① 氏名と名列番号を記入し，名列番号の該当箇所をマークすること。（裏面にも記入すること）
② 各科目において，項目 1.から 6.までのアンケート項目で該当するマークを５段階評価で黒く塗りつぶすこと。項目 6.は 2 回目あるいは後期のみ評価する。基準は下記とする。

　① まったくそう思わない
　② あまりそう思わない
　③ どちらでもない（普通）
　④ ややそう思う
　⑤ とてもそう思う

③ 自由記述欄は裏面にあります。最下欄の氏名等を記載の上，授業を受けて，良かったことや改善してほしいこと（特に評価で①あるいは②をマークした場合）があれば具体的に書いて下さい。なお，誹謗・中傷は書かないこと。

平成 30 年度　授業参観報告書（教職員用）　5 月 18 日（金）～24 日（木）

参観者氏名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	電気情報工学科
授業参観日	平成 30 年 5 月 18 日　金 曜日第　２限目		
授業科目名	英語 B	参観クラス	電気情報工学科　３学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約２０　分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①ツールの使い方を説明する文の作り方？を解説している授業であった。テーマは Function。学生はそれなりにお互いに話す練習をしていたが、ツール類が機械工具が中心で学生になじみがなく、話がはずんでいなかった。実験で使った機材を聞き出す、なんの能力があるのか聞き出すなどできると、よりアクティブになるのかもしれない。

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
① ネイティブの先生の授業であったが、注意点などは適切に日本語もしゃべることで日本語もある程度わかってるよというアピールにもなっていた。
② プリントを回すのではなく、あえて歩いて配ることで後ろの学生のほうの学習状況や、さぼり、スマホいじりなどを防いでいた。

【授業担当教員へのアドバイス】
①学生がしゃべる時間を事前に伝える（３０秒で練習してみようなど）を決めておくとメリハリがでるのではないでしょうか。

【感想・その他】
①使いにくい教室、大人数の学生に対して、後ろの方まで気を配っていてくれていたと思います。もう少し少人数で話す授業ができるとよいのですが…。

[redacted]にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください.
☆提出締切を平成 30 年 6 月 1 日（金）とさせて頂きます.
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください.

岐阜工業高等専門学校教員選考手続細則

制定　平成１８年２月８日
校　　長　　裁　　定

（趣旨）
第１条　この細則は，岐阜工業高等専門学校の教授，准教授，講師，助教及び助手（以下「教員」という。）の選考並びに専攻科の授業を担当する教員（以下「専攻科授業担当教員」という。）の認定に係る審査を適正，かつ，円滑に行うために必要な手続について定める。
（選考又は審査の時期）
第２条　教員の選考は，原則として，公募を基本とし，選考の時期は採用又は昇任させようとする日の２月前までに行うものとする。
２　専攻科授業担当教員の認定に係る審査は，その必要が生じたとき速やかに行うものとする。
（教員配置の要望等）
第３条　校長は，教員の選考及び専攻科授業担当教員の認定に係る審査（以下「教員の選考等」という。）に関し，学科長等から意見を聴取することができる。
２　学科長等は，教員の選考等に関し要望があるときは，別記様式の教員配置要望・募集計画書を校長に提出するものとする。
（選考開始）
第４条　校長は，前条第２項の提出があり，教員の選考等を開始する必要があると認めたときは，主管会議の議を経て決定するものとする。
（選考）
第５条　校長は，人事委員会において「岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等」に定める書類審査及び面接の上，教員候補者を決定する。
２　人事委員会は，必要に応じて，前項に規定する書類審査及び面接を当該学科長等に委任することができるものとする。
（選考制限）
第６条　人事委員会において，教員候補者として不適格と判定された者は，その日から１年を経過しなければ，同一職名による選考の対象とすることができない。
（その他）
第７条　この細則に定めるもののほか，教員選考手続に関し必要な事項は，人事委員会の議を経て校長が別に定める。

附　則

この細則は，平成１８年４月２日から施行する。

附　則

この細則は，平成２０年４月１日から施行する。

別記様式（第３条関係）

教員配置要望・募集計画書

平成　　年　　月　　日

岐阜工業高等専門学校長　殿

学科名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学科長氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

下記のとおり教員の配置について要望します。

記

学　科　等　名			
配　置　種　別　等		□採用　　□昇任（現職名：　　）	
配　置　後　の　職　名		□教授　　□准教授　　□講師　　□助教	
発　令　希　望　年　月　日		平成　　年　　月　　日	
担当予定の授業科目名	学　　科		
	専　攻　科		
専　門　分　野			
配　置　理　由			
配　置　方　法		□公募（公募条件） 応募資格： 締切日：平成　　年　　月　　日 提出書類： 書類提出先： 問い合わせ先： その他：	□その他（公募によらない理由）

（参考例）

配置理由
・平成●年●月●日付け定年退職予定の○○○○教授の関連異動により助教を配置する。
・平成●年●月●日付けで定年退職した○○○○教授の関連異動を実施することに伴い、　助教を配置する。
・平成●年●月●日付け辞職予定の○○○○准教授の後任として助教を配置する。
・平成●年●月●日付けで准教授に昇任予定の○○○○講師の後任として講師を配置する。
・平成●年●月●日付けで辞職した○○○○教授の関連異動のため、平成●年●月●日付　けで講師の教員公募を行ったが、●月●日の公募締切期日までに応募者がないため、再　度、講師又は助教の教員公募を行う。
・平成●年●月●日から●月●日まで○○○○講師が育児休業のため、その期間中の代替　教員として助教を配置する。

その他（公募によらない理由）
・平成●年●月●日付け定年退職予定の○○○○教授の関連異動により、本学科の助教が　講師に必要な教育面及び研究面に係る評価基準等の累計ポイント数が達することにより　昇任させる。
・平成●年●月●日付けで准教授の教員公募を行ったが、応募者の研究分野等が配置する　職種に適合しないため、内部の教員を昇任させる。

岐阜工業高等専門学校人事委員会規程

制定　平成 16 年 3 月 11 日
学 校 規 則 第 １３ 号

（設置）
第１条　岐阜工業高等専門学校における教職員（非常勤講師を含む。）の人事に係る事項等を審議するため，人事委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は，次に掲げる事項を審議する。
一　教員（教授，准教授，講師，助教及び助手をいう。）の採用及び昇任の選考に関すること。
二　教職員の人事管理に関すること。
三　非常勤講師等の選考に関すること。
（組織）
第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。
一　校長
二　教務主事
三　研究主事
四　学生主事
五　寮務主事
六　事務部長
七　その他校長が必要と認めた者
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員会が必要と認めたときは，委員会に委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴取することができる。
（提出書類）
第６条　校長は，当該学科長から，次の各号に掲げる書類を提出させるものとする。
一　第２条第１号の審議を行う場合
イ　推薦書（様式１）
ロ　履歴書（様式２）
ハ　著書・論文等一覧（様式３）
ニ　教育及び研究に関する抱負（様式４）
ホ　選考候補者評価点数表（「岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等」に定める別紙様式）
ヘ　その他校長が必要と認めた書類
二　第２条第３号の審議を行う場合
「岐阜工業高等専門学校非常勤講師の選考に関する規程」に定める書類
（庶務）
第７条　委員会の庶務は，総務課において処理する。
（その他）
第８条　この規程に定めるもののほか，教員の選考に関し必要な事項は，
別に定める。

附　則

１　この規程は，平成１６年４月１日から施行する。
２　岐阜工業高等専門学校教官選考委員会内規（昭和 54 年 10 月 1 日制定）及び岐阜工業高等専門学校事務職員採用選考内規（昭和 39 年 9 月 15 日制定）は，廃止する。

附　則（平成 19 年学校規則第 21 号）
この規程は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 20 年学校規則第 3 号）
この規程は，平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 28 年学校規則第 4 号）
この規程は，平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

様式１

推　薦　書

平成　　年　　月　　日

岐阜工業高等専門学校長　殿

学科名　　学科長氏名　　印

下記の者を本学科　　候補者として　　させていただきたく推薦いたします。

記

ふりがな 氏　名		生 年 月 日	昭和･平成　年　月　日生 （発令希望日現在：満　歳）
現　職		発令希望年月日	平成　年　月　日
推薦理由			
昇任・採用後の担当授業科目名			

※「推薦理由」欄には，原則として，①候補者の略歴，②教育・学生指導に対する評価，③校務分掌に対する評価，④研究等に対する評価，⑤選考経過等について，各項目ごとに200字程度で簡潔に記入すること。

様式２

履　　歴　　書

平成　　年　　月　　日　現在

ふりがな 氏　　名	昭和･平成　　年　　月　　日生 （　　歳）	現 住 所	〒 電　話： e- mail：
		性　別	男　　・　　女
学　　歴	（大学卒業以降を記入） 大学　　学部　　学科（昭和･平成　　年　　月卒業） 大学大学院　　研究科博士前期課程（昭和･平成　　年　　月修了） 大学大学院　　研究科博士後期課程（昭和･平成　　年　月単位修得・修了）		
学位称号	昭和･平成　　年　　月　　日 の学位授与 （　　大学）	資格免許	（担当授業科目に関連のあるもの）
研修歴及び内地研究等			
賞　　罰			

現在の担当授業科目名	
教育歴及び職歴の概要	
本校における主事，主事補佐歴	
上記以外の学級担任，ｸﾗﾌﾞ等の顧問，学科主任，教務・学生・寮務委員（主事補），各種委員会等の委員長及び委員歴の職名及び期間	
所属学会名	

※採用の場合，教員公募に提出された履歴書（写）で代用することができる。

様式３

著 書 ・ 論 文 等 一 覧

NO.

氏　名	

整理番号	①著書・学術論文等の表題, ②著者名, ③発行所，掲載誌等又は発表学会名, 　刊号・ページ，発行又は発表年	使用の有無	概　　要
	【著書】		
	【学術論文】		
	【国際学会】		
	【国内学会】		
	【解説論文】		
	【その他】		

（様式３　著書・論文等一覧の記入上の注意）

１ ①著書，②学術論文，③国際学会，④国内学会，⑤解説論文，⑥その他の各項目毎に記入すること。

２　著書・学術論文等は，発表年月の古い順にすべて記入すること。ただし，特にその数が多い場合は適宜選択，記入し，学術論文等の総数を末尾に記載すること。
　なお，出版（掲載）予定のものについては，出版者又は学会等の発行する原稿受理証明書又は掲載証明書等の写を添付すること。

３　記入した学術論文等については，別刷をファイルし提出すること。その際，別刷の右端にインデックスを貼付し整理番号を記すこと。
　なお，別刷は教員選考終了後，申請者に返却する。

４ 「概要」欄は，２００字以内で記入（国内学会については省略しても差し支えない。）し，共著の場合は，本人の担当部分を明記すること。
　なお，「申請者は研究の立案，〇〇〇〇の一部，〇〇解析と論文執筆を行った。」等を併せて記入すること。

５ 「使用の有無」欄には，過去に本校の教員選考又は資格認定申請において審査対象とされたものについて，〇印を付すこと。

様式４

教育及び研究に関する抱負

氏名

※　採用の場合は，岐阜工業高等専門学校における教育及び研究に携わる抱負について，　2,000 字程度で記入すること。
※　昇任の場合は，将来の教育及び研究に関する抱負について，1,000 字程度で記入する　こと。

岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等

平 成 18 年 4 月 4 日
校　　長　　裁　　定

Ⅰ　採用及び昇任の選考の基本的考え

１　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の採用及び昇任の選考は，高等専門学校設置基準（昭和３６年文部省令第２３号）に定める当該教員の資格を有する者について，行うものとする。

２　候補者の採用又は昇任の選考は，原則として一般公募によるものとする。

３　教員の採用及び昇任の選考は、本校の人事委員会規程に定める提出書類（推薦書、履歴書、著書・論文等一覧表、教育及び研究面に関する抱負、その他校長が必要と認めた書類）及びⅡの評価項目に定める「①教育面、管理・運営面における評価項目」及び「②研究面における評価項目」を点数化した選考候補者評価点数表（別紙様式）に基づく審査、並びに「③面接における評価項目」による面接を実施し、候補者の資質を多面的な観点から総合的に判断するものとする。
　教員の採用及び昇任の選考に必要な書類一式は、当該学科長（専門５学科又は一般科目の各学科の長をいう。）が事前に準備し、人事委員会の開催日一週間前までに提出するものとする。

４　本評価基準等において，採用には独立行政法人国立高等専門学校機構内の他の高等専門学校から選考候補者がある場合を含むものとし，昇任とは本校内部において昇任することをいう。

５　教員の採用及び昇任の選考に応募する候補者は，下記Ⅲに示す当該学科が指定した教育面，管理・運営面における評価項目の教育面累計ポイント及び研究面における評価項目の研究面累計ポイントのいずれをも充足することを必要条件とする。なお，ポイントは自己申告制とし，ポイントの確認，評価・査定等は人事委員会が行う。

６　各学科長等は，採用又は昇任に必要な評価ポイント及び条件等を定め，あらかじめ人事委員会に提案の上,校長の承認を受けなければならない。

Ⅱ　評価項目

教員の採用及び昇任の選考において候補者の充足条件を審査するため，①教育面，管理・運営面における評価項目，②研究面における評価項目，及び③面接における評価項目は，次のとおりとする。

①教育面，管理・運営面における評価項目

a. 採用又は昇任に至る経験年数
b. 教務主事，研究主事，学生主事及び寮務主事等の主事経験
c. 学科長、専攻科長、室長、センター長、館長、各種会議・委員会（専門委員会・ワーキンググループを含む。以下同じ。）における委員長、主事補佐、専攻科主任、学年主任の経験
d. 学級担任及び各種会議・委員会等における委員の経験
e. 本校の授業担当単位数
f. クラブ活動での指導実績
g. クラブ活動の成績（県代表，高専大会優勝等）
h. 公開授業・出前授業・公開講座・オープンカレッジ等の実績
i. 採用前の前職場における教育，管理・運営面及び社会に対する貢献の実績
j. その他特記事項

②研究面における評価項目

a. 論文（ただし、昇任については、修士論文、博士論文は含まない。）件数、学会等発表件数
b. 科学研究費補助金の応募及び獲得実績
c. 共同研究実績
d. 外部資金の応募及び獲得実績（研究助成金，寄附金等）
e. 学会活動役員歴（役員，座長，幹事等）
f. 特別な研究業績（賞受賞，在外研究等）
g. 特許出願
h. 大学・他高専・地域での依頼講演（所属長から，又は所属長へ依頼があったもの）
i. 本科卒業研究学生指導歴
j. 専攻科特別研究学生指導歴
k. その他特記事項（博士，Ｐh. Ｄ.，技術士等の資格取得等）

③面接における評価項目

a. 提出された資料に関する質疑
b. 責任感，指導力，社会性，協調性，倫理観，マネージメント力
c. 採用又は昇任に当たっての抱負
d. 人格識見，健康状態
e. その他（模擬授業実施など）

Ⅲ　採用及び昇任の選考基準

１　評価項目の点数化

（１）教育面，管理・運営面における評価項目及びその点数化（各学科共通）

① 本校の教育を担う者は実社会での多様な経験が必要不可欠であることに鑑み，大学卒業から採用又は昇任予定時期までの期間を教育面，管理・運営面における貢献度項目として評価する。	:1.0点/年
② 中学校・高等学校における教員経験年数	:1.0点/年
③ 研究所等における教員経験年数	:1.0点/年
④ 高専・大学における教員経験年数	:1.0点/年
⑤ 企業・官公庁等における教育経験年数	:1.0点/年
⑥ 本校の主事経験年数	:8.0点/年
⑦ 本校の学科長，専攻科長の経験年数	:5.0点/年
⑧ 本校の委員会の委員長、室長、センター長、館長、主事補佐、専攻科主任の経験年数	:3.0点/年
⑨ 本校の学級担任，教務・学生・寮務・専攻科会議の委員の経験年数	:2.0点/年
⑩ 本校の委員会，部門委員会の委員，学年主任の経験年数	:1.0点/年
⑪ 本校の授業担当単位数	:1.0点/（単位・年）
⑫ 本校のクラブ活動での指導実績	
a. 平日の校外でのクラブ指導の日数	:0.1点/日
b. 休日のクラブ指導（校内・外を問わない。）の日数	:0.1点/日
c. クラブ合宿（校内・外を問わない。）の宿泊日数	:0.2点/日
⑬ 本校のクラブ活動の顕著な成績（県代表，高専大会全国大会優勝）	:4.0点/年
⑭ 本校のクラブ活動の良好な成績（高専大会地区大会優勝）	:2.0点/年
⑮ 本校の公開授業･出前授業･公開講座･オープンカレッジ等の実績	:0.2点/件
⑯ 本校における高専間教員交流制度による派遣の実績 ※　高専間教員交流制度により他の高専に派遣され，当該高専において上記⑥～⑮と同じ実績がある場合には，それぞれの点数を加算するものとする。	:4.0点/年
⑰ 本校以外の前職場における教育面	:0.2点/件
⑱ 本校以外の前職場における管理・運営面	:1.0点/件
⑲ 本校以外の前職場における社会に対する貢献事項	:0.2点/件
⑳ その他特記事項（※貢献した事項等について具体的に記載する。）	:0.5点/件

（２）研究面における評価項目及びその点数化（各学科共通）

① 研究論文・総説・解説・著書等	
a. 審査有り，主体的なもので和文 （主体的でないものは，1.0点/（著者数・件）を基準とする。）	:1.0点/件
b. 審査有り，主体的なもので外国語 （主体的でないものは，1.2点/（著者数・件）を基準とする。）	:1.2点/件
c. 審査無し	:0.4点/件
d. 著書等	
個人	:2.0点/件
共著	:0.5点/件
② 学会等発表	
a. 国内発表	
本人または指導された学生が発表	:0.2点/件
学会主催の研究会で本人または指導された学生が発表	:0.2点/件
連名発表（研究会等での発表を含む）	:0.1点/件
b.国外発表（国内で開催される国際学会を含む。）	

本人または指導された学生が発表（外国語）	: 0.4点/件
連名発表（研究会等での発表を含む）	: 0.1点/件
③ 科学研究費補助金応募及び獲得実績	
a. 応募	
主研究者	: 1.0点/（年・件）
共同研究者	: 0.2点/（年・件）
b. 獲得	
主研究者	: 2.0点/（年・件）
共同研究者	: 1.0点/（年・件）
④ 共同研究実績	: 1.0点/（年・件）
⑤ 外部資金への応募及び獲得実績（研究助成金，委任経理金等）	
a. 応募	
主研究者	: 0.5点/（年・件）
共同研究者	: 0.1点/（年・件）
b. 獲得	
主研究者	: 1.0点/（年・件）
共同研究者	: 0.5点/（年・件）
⑥ 学会活動役員歴（座長，幹事を含む）	: 1.0点/年
⑦ 特別な研究業績（賞受賞，在外研究等）	: 1.0点/件
⑧ 特許出願	
a. 出願特許（大学等）	: 1.0点/件
b. 登録特許（企業）	: 1.0点/件
⑨ 大学・他高専・地域での依頼講演（学外活動など）	: 1.0点/件
⑩ 卒業研究生指導歴	: 0.6点/（年・人）
⑪ 専攻科特別研究学生指導歴	: 1.0点/（年・人）
⑫ その他特記事項（博士，Ｐh. Ｄ.，技術士等資格等）	: 8.0点/件

２　教授の選考基準

（１）基本的な基準

教授候補者は下記の条件①又は②を満たし，かつ，③及び④を満たす者でなければならない。

① 博士の学位を有する者。ただし，特別な業績があり，校長が認めた者を候補者とすることができる。

② 企業及び公的研究機関からの候補者は，課長以上で部長に準ずる職の者

③ 専攻科の教育・研究を指導できる者

④ 教育に熱心で課外活動等，本校の教育に積極的な者及び研究に熱心で本校の研究活動の推進に積極的な者（人事委員会が，書類審査及び面接により判断する。）

（２）教育面，管理・運営面における評価項目の点数

① 採用又は昇任前の各職名時における教育面，管理・運営面における評価項目①から⑳までの点数を加算した合計点数（以下「教育面合計点数」という。）が，各学科ごとに指定した評価ポイント表（別表）の教育面の累計ポイント（以下「教育面累計ポイント」という。）以上であること。

ただし，昇任の場合で，企業から採用された者については，採用までのポイントと採用後におけるポイントを区分して，各々の年数に応じて調整を行うものとする。

（３）研究面における評価項目の点数

① 採用又は昇任前の各職名時における研究面における評価項目①から⑫までの点数を加算した合計点数（以下「研究面合計点数」という。）が，各学科ごとに指定した評価ポイント表の累計ポイント（以下「研究面累計ポイント」という。）以上であること。

ただし，昇任の場合で，企業から採用された者については，採用までのポイントと採用後におけるポイントを区分して，各々の年数に応じて調整を行うものとする。

３　准教授の選考基準

（１）基本的な基準

准教授候補者は下記の条件①又は②を満たし，かつ，③及び④を満たす者でなければならない。

① 修士以上の学位を有する者。ただし，特別な業績があり，校長が認めた者を候補者とすることができる。
② 企業及び公的研究機関からの候補者は，係長以上で課長に準ずる職の者
③ 専攻科の教育・研究を指導できる者
④ 教育に熱心で課外活動等，本校の教育に積極的な者及び研究に熱心で本校の研究活動の推進に積極的な者（人事委員会が，書類審査及び面接により判断する。）

（２）教育面，管理・運営面における評価項目の点数

① 教育面合計点数が，各学科ごとに指定した教育面累計ポイント以上であること。
ただし，昇任の場合で，企業から採用された者については，採用までのポイントと採用後におけるポイントを区分して，各々の年数に応じて調整を行うものとする。

（３）研究面における評価項目の点数

① 研究面合計点数が，各学科ごとに指定した研究面累計ポイント以上であること。
ただし，昇任の場合で，企業から採用された者については，採用までのポイントと採用後におけるポイントを区分して，各々の年数に応じて調整を行うものとする。

４　講師の選考基準

（１）基本的な基準

講師候補者は下記の条件①又は②を満たし，かつ，③及び④を満たす者でなければならない。

① 修士以上の学位を有する者。ただし，特別な業績があり，校長が認めた者を候補者とすることができる。
② 企業及び公的研究機関からの候補者は，主任以上で係長に準ずる職の者
③ 専攻科の教育・研究を指導できる者
④ 教育に熱心で課外活動等，本校の教育に積極的な者及び研究に熱心で本校の研究活動の推進に積極的な者（人事委員会が，書類審査及び面接により判断する。）

（２）教育面，管理・運営面における評価項目の点数

① 教育面合計点数が，各学科ごとに指定した教育面累計ポイント以上であること。
ただし，昇任の場合で，企業から採用された者については，採用までのポイントと採用後におけるポイントを区分して，各々の年数に応じて調整を行うものとする。

（３）研究面における評価項目の点数

① 研究面合計点数が，各学科ごとに指定した研究面累計ポイント以上であること。
ただし，昇任の場合で，企業から採用された者については，採用までのポイントと採用後におけるポイントを区分して，各々の年数に応じて調整を行うものとする。

５　助教の選考基準

（１）基本的な基準

助教候補者は下記の条件①又は②を満たし，かつ，③及び④を満たす者でなければならない。

① 修士以上の資格を有する者。ただし，特別な業績があり，校長が認めた者を候補者とすることができる。
② 企業及び公的研究機関からの候補者は，係員以上で係長に準ずる職の者
③ 専攻科の教育・研究を指導できる者
④ 教育に熱心で課外活動等，本校の教育に積極的な者及び研究に熱心で本校の研究活動の推進に積極的な者（人事委員会が，書類審査及び面接により判断する。）

（２）教育面，管理・運営面における評価項目の点数

① 教育面合計点数が，各学科ごとに指定した教育面累計ポイント以上であること。

（３）研究面おける評価項目の点数

① 研究面合計点数が，各学科ごとに指定した研究面累計ポイント以上であること。

６　助手の選考基準

（１）基本的な基準

助手候補者は下記の条件①又は②を満たし，かつ，③を満たす者でなければならない。

① 学士，短期大学士又は準学士以上の資格を有する者。ただし，特別な業績があり，校長が認めた者を候補者とすることができる。
② 企業及び公的研究機関からの候補者は，係員以上で係長に準ずる職の者
③ 教育に熱心で課外活動等，本校の教育に積極的な者及び研究に熱心で本校の研究活動の推進に積極的な者（人事委員会が，書類審査及び面接により判断する。）

（２）教育面，管理・運営面における評価項目の点数

① 教育面合計点数が，各学科ごとに指定した教育面累計ポイント以上であること。

（３）研究面おける評価項目の点数

① 研究面合計点数が，各学科ごとに指定した研究面累計ポイント以上であること。

Ⅳ　評価ポイントの加算又は改訂の手続等

①学科長は，選考候補者の教育面合計点数又は研究面合計点数について特に加算する必要がある旨の審査を人事委員会に申し出ることができる。

②学科長は，当該学科に係る評価ポイント表（別表）の見直しを行う必要があると認めるときは，その改訂案を人事委員会に提案の上，校長の承認を受けなければならない。

Ⅴ　配置換に係る選考基準

配置換に係る選考基準は，採用及び昇任の選考基準に準じるものとする。

Ⅵ　岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等の公開

岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等は，公開する。

この評価基準等は，平成１８年４月１日から施行し，平成１９年４月１日以後に採用又は昇任させる教員の選考について適用する。

付　記

この評価基準等は，平成１８年９月６日から施行し，平成１９年４月１日以後に採用又は昇任させる教員の選考について適用する。

付　記

この評価基準等は，平成１９年９月１１日から施行し，平成２０年４月１日以後に採用又は昇任させる教員の選考について適用する。

付　記

この評価基準等は，平成１９年１２月３日から施行し，平成２０年４月１日以後に採用又は昇任させる教員の選考について適用する。

付　記

この評価基準等は，平成２０年４月１日から実施する。

付　記

この基準等は，平成２２年９月６日から実施し，平成２３年４月１日以後に採用又は昇任させる教員の選考について適用する。

付　記

この基準等は，平成２２年１１月１日から実施し，平成２３年４月１日以後に採用又は昇任させる教員の選考について適用する。

付　記

この評価基準等は，平成２３年４月１日から実施する。

付　記

この評価基準等は，平成２３年４月１日から実施する。

付　記

この評価基準等は，平成２８年４月１日から実施する。

付　記

この評価基準等は，平成２８年９月２６日から実施する。

別表

評　価　ポ　イ　ン　ト　表

種別	出身	職名	項目番号	各職名に採用，昇任,又は配置換する場合に基準となる累計ポイント													
				一般科目（人文）		一般科目（自然）		機械工学科		電気情報工学科		電子制御工学科		環境都市工学科		建築学科	
				教育面	研究面	教育面	研究面	教育面	研究面	教育面	研究面	教育面	研究面	教育面	研究面	教育面	研究面
採用等	企業	教　授	①	56	15	56	20	23	34	60	60	80	60	30	40	30	40
		准教授	②	36	10	36	10	12	14	20	30	30	23	20	30	15	30
		講　師	③	5	2	5	2	8	7	10	10	15	10	10	20	10	15
		助　教		2	0	1	1	2	0	2	6	2	3	5	10	5	3
		助　手						0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
	大学等	教　授		56	15	56	20	300	80	240	120	80	140	200	120	100	120
		准教授		36	10	36	10	80	40	100	60	38	55	90	60	50	60
		講　師		5	2	5	2	5	2	50	20	14	20	30	30	15	20
		助　教		2	0	1	1	2	0	2	6	2	5	2	1	2	0
		助　手						0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
昇任・配置換	岐阜高専	教　授	④	300	15	300	15	300	55	300	80	300	80	300	80	300	80
		准教授	⑤	100	10	100	10	80	25	150	40	130	40	130	40	130	40
		講　師	⑥	5	2	10	2	40	15	75	20	75	20	40	20	40	20
		助　教		2	0	1	1	2	0	8	6	8	6	2	1	3	3
		助　手						0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
企業等から採用後一回目の昇任について候補者の獲得評価ポイント		教　授	⑦	（獲得評価ポイント）＝{（採用時のポイント）×④÷①}＋（採用後のポイント）：⑦≧④なら可													
		准教授	⑧	（獲得評価ポイント）＝{（採用時のポイント）×⑤÷②}＋（採用後のポイント）：⑧≧⑤なら可													
		講　師	⑨	（獲得評価ポイント）＝{（採用時のポイント）×⑥÷③}＋（採用後のポイント）：⑨≧⑥なら可													

注　出身欄の「大学等」とは、大学、高専、官公庁及び公的研究機関等からの採用のほかに、大学院、大学及び高専に在学する者及び大学院在学期間満了後の研究生等の採用を含む。

岐阜工業高等専門学校非常勤講師の選考に関する規程

制定　平成15年11月12日
学 校 規 則 第 １９ 号

（趣旨）
第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の選考は，他の法令等に規定するもののほか，この規程の定めるところによる。
（選考基準）
第２条　非常勤講師候補者は，講師以上の資格を有し，本校の教育方針に沿った教育指導ができる者で，次の各号に該当する者とする。
一　採用予定年度の４月１日現在で，年齢が満７０歳未満の者
二　通勤距離が，原則として片道１００㎞以内の者
（雇用計画の策定）
第３条　学科長は，当該学科に非常勤講師の雇用を希望するときは，非常勤講師雇用計画書（別紙様式１）（以下「雇用計画書」という。）を雇用予定年度の前年度の１０月末日までに教務主事を経て校長に提出するものとする。
２　校長は，各学科から提出された雇用計画書について，各学科長から意見を聴取の上，主管会議の議を経て，非常勤講師雇用計画（以下「雇用計画」という。）を策定する。
３　校長は，前項において策定した雇用計画を，雇用予定年度の前年度の１１月末日までに各学科長に通知するものとする。
（雇用手続）
第４条　学科長は，雇用計画に基づき，非常勤講師採用候補者調書（別紙様式２）及び履歴書（別紙様式３）を雇用予定年度の前年度の１月１０日までに教務主事を経て校長に提出するものとする。
２　前年度に引き続き雇用を希望する非常勤講師候補者については，前項に規定する履歴書の提出を省略することができる。
３　第２条各号の規定にかかわらず，次の各号に掲げる者を雇用しようとする場合には，理由書（別紙様式４）を添付しなければならない。
一　週あたりの授業時間数が１０時間を超える者
二　通勤距離が片道１００㎞を超える者
４　雇用計画に基づく非常勤講師が交代する場合は，速やかに非常勤講師採用候補者変更調書（別紙様式５），履歴書（前年度に引き続き雇用する場合を除く。）及び理由書（前項に該当する場合）を教務主事を経て校長に提出するものとする。
（雇用計画の変更及び雇用手続）
第５条　学科長は，雇用計画が決定された後に，雇用計画の変更又はやむを得ない理由により新たに非常勤講師の雇用の必要が生じた場合には、速やかに雇用計画書を教務主事を経て校長に提出しなければならない。

２　校長は，学科長から提出された雇用計画書について，主管会議の議を経て，新たに雇用計画を策定し，当該学科長に通知するものとする。

３　当該学科長は，雇用計画に基づき，速やかに非常勤講師採用候補者調書，履歴書（前

年度に引き続き雇用する場合を除く。）及び理由書（前条第３項に該当する場合）を教務主事を経て校長に提出するものとする。

（選考等）

第６条　非常勤講師の選考については，人事委員会の議を経て，校長が決定する。

（事務）

第７条　非常勤講師の雇用に関する事務は，総務課及び学生課において処理する。

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか，必要な事項は，別に定めるものとする。

附　則

１　この規程は，平成15年11月12日から施行する。

２　平成16年度の非常勤講師の雇用については，第３条，第４条，第５条及び第６条中「学科長」は「学科主任」と，「１０月末日」は「１１月末日」と，「主管会議」は「運営会議」と，「１１月末日」は「１２月１０日」と，「人事委員会」は「運営会議」とそれぞれ読み替えてこれらの規定を適用する。

附　則（平成19年学校規則第46号）

この規程は，平成19年4月1日から施行する。

附　則（平成20年学校規則第4号）

この規程は，平成20年4月1日から施行する。

附　則（平成21年学校規則第12号）

この規程は，平成21年12月7日から施行する。

附　則（平成28年学校規則第10号）

１　この規程は，平成 28 年 9 月 26 日から施行する。

２　この規程の施行日の前日において在職する者については，平成 28 年度に限り第２条第１項の規定は適用しない。

別紙様式1

平成　年度非常勤講師雇用計画書

提出年月日:　平成　　年　　月　　日

学 科 名:

学科長氏名:

(1) 授業科目名	(2) 学科	(3) 学年	(4) 担当時間数	(5) 開講時期及び1週の授業時間数			(6) 実施形態			(7) 必修・選択の別		(8) 新規・継続の別		(9) 必要理由	(10) 備考
				通年	前期のみ	後期のみ	毎週	隔週	その他	必修	選択	新規	継続		

記入上の注意

1　年度内の非常勤講師手当所要額はこの調書に基づき行います。従って、調書に記載がなく、年度途中に調書が提出されても、予算措置ができない場合がありますのでご承知おきください。
2　他の学科と共通で実施する授業の場合は、(10)欄に他の学科名を記入してください。
3　(4)欄：年度内の総担当授業時間数を記入してください。
　　①通年の場合は、毎週の「授業時間数」×35週
　　②前期又は後期のみの場合は、毎週の「授業時間数」×1/2×35週
　　③隔週で実施する場合は、「①又は②の授業時間数」×1/2
4　(5)欄：該当時期の1週間の授業時間数を記入してください。(90分は「2」と記入)
5　(6)欄～(8)欄：該当する箇所に〇印を記入してください。
6　学科経費による雇用の場合は、(10)欄にその旨を記入してください。

別紙様式2

平成　年度非常勤講師採用候補者調書

提出年月日：　平成　　年　　月　　日

岐阜工業高等専門学校長　殿

学 科 名：

学科長氏名：　　印

(1) ふりがな 氏　名	(2) 年齢	(3) 勤 務 先 名	(4) 職　名	(5) 授業科目名	(6) 学科	(7) 学年	(8) 担当時間数	(9) 開講時期及び1週の授業時間数			(10) 実施形態			(11) 必修・選択の別		(12) 新規・継続の別		(13) 備 考	(14) 依頼文書の送付先（住所，勤務先名，宛名）	電話番号
								通年	前期のみ	後期のみ	毎週	隔週	その他	必修	選択	新規	継続			FAX番号
																			（〒　－　） e-mail：	
																			（〒　－　） e-mail：	
																			（〒　－　） e-mail：	
																			（〒　－　） e-mail：	
																			（〒　－　） e-mail：	

記入上の注意

1　年度内の非常勤講師手当所要額はこの調書に基づき行います。従って、調書に記載がなく、年度途中に調書が提出されても、予算措置ができない場合がありますのでご承知おきください。

2　(1)欄：非常勤講師が決定していない場合は「未定」と記入し、(6)欄から(12)欄までは必ず記入してください。

3　(2)欄：当該年度の4月1日現在で記入してください。

4　他の学科と共通で実施する授業の場合：(13)欄に他の学科名を記入してください。

5　(8)欄：年度内の総担当授業時間数を記入してください。
　①通年の場合は、毎週の「授業時間数」×35週、②前期又は後期のみの場合は、毎週の「授業時間数」×1/2×35週、③隔週で実施する場合は、「①又は②の授業時間数」×1/2

6　(9)欄：該当時期の1週間の授業時間数を記入してください。(90分は「2」と記入)

7　(10)欄～(12)欄：該当する箇所に○印を記入してください。
　「新規」：次の採用理由のいずれかの番号を記入し、別紙様式3履歴書を添付してください。
　①カリキュラムの新規増、②授業科目の分担変更、③非常勤講師の交代（理由を⑬へ記入）、④在外研究員派遣中の代替、⑤内地研究員派遣中の代替、⑥その他(理由を(13)欄に記入)
　「継続」：前年度に引き続き雇用する場合をいいます。

8　手当又は旅費を支給しない等の特殊事情がある場合：
　(13)欄に「手当不支給」、「旅費不支給」、「手当及び旅費不支給」のいずれかを記入してください。

別紙様式３

履　　歴　　書

平成　　年　　月　　日　現在

ふりがな 氏　　名	印 昭和・平成　　年　　月　　日生（　歳）	現住所	〒 電話 e-mail
		性　別	男　・　女
学　　歴	（高等学校・高等専門学校卒業以降を記入） 高等学校　　科（昭和・平成　　年　　月卒業） 高等専門学校　　学科（昭和・平成　　年　　月卒業） 大学　　学部　　学科（昭和・平成　　年　　月卒業） 大学大学院　　研究科博士前期課程（昭和・平成　　年　　月修了） 大学大学院　　研究科博士後期課程（昭和・平成　　年　　月単位修得・修了）		
学位称号	昭和・平成　　年　　月　　日 の学位授与 （　　大学）	資格免許	（担当授業科目に関連のあるもの）

勤務先	企業名					
	職　名					
	所在地	〒				
	電　話		FAX		e-mail	

	年　　月　　日	事　　項
職歴	昭和・平成　　年　　月　　日	
	昭和・平成　　年　　月　　日	
	昭和・平成　　年　　月　　日	
	昭和・平成　　年　　月　　日	
	昭和・平成　　年　　月　　日	
	昭和・平成　　年　　月　　日	
	昭和・平成　　年　　月　　日	
	昭和・平成　　年　　月　　日	
	昭和・平成　　年　　月　　日	

別紙様式４

理　　由　　書

平成　　年　　月　　日

岐阜工業高等専門学校長　殿

学科名　　学科長氏名　　印

非常勤講師　氏　名：
担当予定授業科目名：

上記の者を下記の理由により、本学科非常勤講師として採用させていただきたく推薦いたします。

記

別紙様式５

平成　　年度非常勤講師採用候補者変更調書

岐阜工業高等専門学校長　殿

提出年月日：　平成　　年　　月　　日

学 科 名：

学科長氏名：　　印

	(1) ふりがな 氏　名	(2) 年齢	(3) 勤務先名	(4) 職　名	(5) 授業科目名	(6) 学科	(7) 学年	(8) 担当時間数	(9) 開講時期及び1週の授業時間数			(10) 実施形態			(11) 必修・選択の別		(12) 新規・継続の別		(13) 備　考	(14) 依頼文書の送付先（住所，勤務先名，宛名）	電話番号
									通年	前期のみ	後期のみ	毎週	隔週	その他	必修	選択	新規	継続			FAX番号
変更前																				（〒　－　　）※記入不要 e-mail：	※記入不要 ※記入不要
変更後																				（〒　－　　） e-mail：	
変更前																				（〒　－　　）※記入不要 e-mail：	※記入不要 ※記入不要
変更後																				（〒　－　　） e-mail：	

記入上の注意

１　年度内の非常勤講師手当所要額はこの調書に基づき行います。従って、調書に記載がなく、年度途中に調書が提出されても、予算措置ができない場合がありますのでご承知おきください。

２　(1)欄：非常勤講師が決定していない場合は「未定」と記入し、（6）欄から（12）欄までは必ず記入してください。

３　(2)欄：当該年度の４月１日現在で記入してください。

４　他の学科と共通で実施する授業の場合：(13)欄に他の学科名を記入してください。

５　(8)欄：年度内の総担当授業時間数を記入してください。
　①通年の場合は、毎週の「授業時間数」×３５週、②前期又は後期のみの場合は、毎週の「授業時間数」×1/2×３５週、③隔週で実施する場合は、「①又は②の授業時間数」×1/2

６　（9）欄：該当時期の１週間の授業時間数を記入してください。（90分は「2」と記入）

７　(10)欄～(12)欄：該当する箇所に〇印を記入してください。
　「新規」：次の採用理由のいずれかの番号を記入し、別紙様式3履歴書を添付してください。
　①カリキュラムの新規増、②授業科目の分担変更、③非常勤講師の交代（理由を⑬へ記入）、④在外研究員派遣中の代替、⑤内地研究員派遣中の代替、⑥その他(理由を(13)欄に記入)
　「継続」：前年度に引き続き雇用する場合をいいます。

８　手当又は旅費を支給しない等の特殊事情がある場合：
　（13）欄に「手当不支給」、「旅費不支給」、「手当及び旅費不支給」のいずれかを記入してください。

岐阜工業高等専門学校における教育改善活動実施規程

制定　平成１７年１０月５日
学 校 規 則 第 ３ ４ 号

（趣旨）

第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（教育内容及び教育方法を改善し，向上させるための組織的かつ継続的な取組。（以下「ＦＤ」という。））の推進に関する事項については，この規程の定めるところによる。

（ＦＤ活動）

第２条　本校におけるＦＤ活動は，次のとおりとする。

一　授業参観（全学的に計画し，年１回以上実施）

ニ　学生による授業評価（前期末及び後期末に実施）

三　教職員の資質向上のための研修会等の実施及び派遣

四　その他のＦＤ活動

（ＦＤ推進組織）

第３条　本校におけるＦＤを推進する組織は，次のとおりとする。

一　学習評価フォローアップワーキンググループ

二　ＦＤ活動推進会議

２　学習評価フォローアップワーキンググループは，点検評価フォローアップ委員会の下に設置し，同委員会委員長及び委員長が指名する委員９名で構成する。

３　ＦＤ活動推進会議は，教務会議の下に設置し，教務主事，教務主事補佐及び教務主事が指名する教員３名で構成する。

（ＦＤ活動の点検，評価及び改善）

第４条　学習評価フォローアップワーキンググループは，学生による授業アンケートを実施し，それに基づく授業の評価及び改善を行う。

２　ＦＤ活動推進会議は，保護者及び教職員等による授業評価として，授業参観等の企画及び実施を行い，授業の改善を推進する。

３　前２項に規定するＦＤ活動の具体的な活動内容及び点検・評価の方法は，年度ごとに定める実施要項によるものとする。

４　ＦＤ推進組織は，第１項及び第２項に規定する点検，評価又は改善の実施状況について，スパイラルアップ会議へ報告しなければならない。

（その他）

第５条　この規程に定めるもののほか，ＦＤ活動に関する必要な事項は，別に定める。

附　則

この規程は，平成 17 年 10 月 5 日から施行し，平成 16 年 4 月 1 日から適用する。

附　則（平成 22 年学校規則第 11 号）

この規則は，平成 22 年 5 月 24 日から施行し，平成 22 年 4 月 1 日から適用する。

附　則（平成 23 年学校規則第 19 号）

この規則は，平成 23 年 5 月 23 日から施行し，平成 22 年 4 月 1 日から適用する。

FD活動の位置づけが明示された資料

大学教育再生加速プログラム

平成26年度文部科学省
「大学教育再生加速プログラム」採択事業

令和元年度
岐阜高専公開報告会

日時 令和元年 11月27日(水) 15:00～17:00

場所 岐阜工業高等専門学校（岐阜県本巣市上真桑2236-2）
大会議室（1号館3F,正面玄関の右手階段を上がる）

PROGRAM

15:00 開会の辞（教務主事）

15:00 開会挨拶
岐阜工業高等専門学校校長　伊藤 義人

15:05 招待講演 **FD講演会（外部講師）**
「明石高専におけるアクティブラーニングと授業改善への継続的な取組み」
明石工業高等専門学校 電気情報工学科 教授／アクティブラーニングセンター長　梶村 好宏

16:05 質疑応答

FD講演会（学内講師）

16:20 全国高専フォーラム報告PartⅠ
「高専生のための新しい英語教科書 “Fundamental Science in English” シリーズを使ったアクティブラーニング授業」
岐阜工業高等専門学校教授　亀山 太一

16:30 全国高専フォーラム報告PartⅡ
「岐阜高専が文部科学省AP事業で進める ICT活用高専教育改革の可視化」
岐阜工業高等専門学校教授／教育AP推進室長　所 哲郎

16:40 閉会の挨拶（教育AP推進室長）

16:45 閉会の辞（教務主事）

（授業参観）

◆後期授業参観
外部公開の前期授業参観（5月）と同様に,後期授業参観週間においても,全教員が相互参観を実施します。参観を希望される場合は下記にて参加申込して下さい。

（学生の効果測定）

◆PROGテスト（プログテスト）の実施案内
AP事業とグローバルエンジニア育成事業等と連携した学生キャリア支援です。今年は,第1・第3・第4学年で実施し,後日,学生向けと教職員向けの解説会を予定しています。

「PROGは,河合塾とリアセックが共同共同開発したジェネリックスキルの成長を支援するアセスメントプログラムです。社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルを測定・育成します。テストでは,リテラシーとコンピテンシーの2つの観点から測定し,自身の現状を客観的に把握することができます。」（河合塾,リアセックHPより抜粋）

日　程　12月10日(火)～12月16日(月)

参加申込　本校関係者は学生課教務係に,外部希望者はAP事業事務室に下記公開報告会の申し込み方法を参考に,授業参観についての事前の申込を行って下さい。

申　込　方法等

■会場アクセス
岐阜高専HP
交通アクセス

■公開報告会の申込
WEB申込

or

AP事業事務室宛
メール　soum5@gifu-nct.ac.jp

FAX用公開報告会の申込書

公開報告会申込書（FAX用）　送信先FAX:058-320-1220	
氏名（ふりがな）	所属機関
連絡先（電話またはメールアドレス）	

＊ご記入いただいた個人情報は,当機構の個人情報管理規則に基づき,適切に取り扱わせていただきます。＊お申し込み後,当日会場受付まで直接お越しください。

NIT, Gifu College
独立行政法人国立高等専門学校機構　岐阜工業高等専門学校
〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236－2
TEL:058-320-1211（代）　FAX:058-320-1220（代）　URL:http://www.gifu-nct.ac.jp/

FD活動の実施状況がわかる資料

資料2-4-1-(2)-01

令和元(2019)年度　FD 活動:「FD 講演会と授業参観」の実施要項

教務会議

1. 趣旨と目的

FD は，狭義では授業改善のための優れた教授法の普及活動と考えられ，実際に多くの大学や高専で FD 活動が展開されている。一方，高専は高等教育機関であり，教育と研究の両面を求める本校では，教員を取り巻く教育と研究全体を改善する広い活動を FD と定義して，以下を研修目的に活動を行う。

（目的）

・FD に取り組むことの必要性を明確にし，教員の FD への認識度を高める。
・ワークショップでは教職員がお互いに考え方を意見交換し，個々の教員が行っている FD への取り組みに対し手掛かりを提供する。
・組織として FD 環境を形成し，組織としての教育目標と個々の教職員が担当する部分の教育，研究の目標との連関を検討材料を提供する。

これらの目的のために「FD 講演会」と「授業参観」を行う。この際、できるだけ 2 つの FD 関連行事の連携を図り、その相乗効果により両行事の活性化を促進する。

1) 在外研究を利用した海外における教育・研究活動（事例紹介）・・・・・①
2)先端的メディアを取り入れた授業を参観し、授業改善を図る。・・・・・・②③④
3) 学修成果の可視化を図る（MCC 分野別工学実験・実習能力、分野横断能力を含む）。・・・③④

2. 日程

	日時	行事
①	5 月 08 日（水）15:00～	第 1 回 FD 講演会（在外研究報告）
②	5 月 17 日（金）～5 月 23 日（木）	前期授業参観週間
③	11 月 27 日（水）15:00～	第 2 回 FD 講演会
④	12 月 10 日（火）～12 月 16 日（月）	後期授業参観週間

3. FD 活動のテーマ

テーマ１．「先端的メディアを利用した授業」
テーマ２．「学修成果の可視化，新たな教育方法と授業改善への継続的な取り組み」

4. FD 講演会の概要

4.1　第１回（在外研究報告）
① 実施概要：実施場所　多目的ホール　15時開始
② 在外研究に関する本校教員の報告会
③ 在外研究報告を兼ねて、海外における教育・研究活動の事例報告を行う。

4.2　第２回（新たな教育方法、授業改善等に関する講演）
① 実施概要：実施場所　多目的ホールあるいは大会議室　15時開始
② テーマに関連する外部講師による講演と討論
③ 授業改善に役立つ具体的な方法を紹介し、授業参観との連携も図る。

5. 授業参観の概要

5.1　**前期授業参観週間**(5/17-23)
① 参観対象は基本的には全授業科目とするが、教育 AP 推進室長から推薦された教員の授業（先端的メディアを活用した授業）を明記し、それらの教員が担当する授業科目の参観推進を図る。
② 参観者は従来どおり、本校教職員（非常勤を含む）及び外部への公開（保護者、中学生及びその保護者、中学校の先生及び教育関係者）とする。

5.2　**後期授業参観週間**(12/10-16)
① 「第２回 FD 講演会」で講演、議論されたポイントも意識しながら実施する。参観対象は基本的には全授業科目とするが、教育 AP で実施した授業アンケートの結果をもとに学生から推奨されている授業科目、学科からの推薦授業科目などがあれば明記し、参観の推進を図る。
② 参観者は本校教職員（非常勤を含む）とする。

第1回 FD 講演会　実施要項

１．実施日時：令和元（2019）年5月8 日（水）15時～16 時 20 分
２．実施場所：多目的ホール
３．司会：教務主事
４．テーマ:「在外研究を利用した米国での研究滞在記」
　講師：本校　電気情報工学科　准教授　柴田欣秀先生
　内容：在外研究を利用して 1 年間米国サンディエゴにおいて研究活動を実施された。その米国における研究生活を通じて得た生活の知識や常識、研究生活について話題提供。
５．概要
　第 1 回（在外研究報告）
　① 在外研究に関する本校教員の報告会
　② 在外研究報告を兼ねて、海外における教育・研究活動の事例報告を行う。

６．スケジュール

15:00	開会の辞	教務主事
15:00-15:05	挨拶	校長
15:05-16:05	本校教員による講演 題目：「在外研究を利用した米国での研究滞在記」 概要： 在外研究を利用して 1 年間米国サンディエゴにおいて研究活動が実施された。その米国における研究生活を通じて得た生活の知識や常識、研究生活について話題提供する。 在外研究のメリット（グローバルな視点，英語力アップ，自信がつく，海外での人脈づくり，海外研究生活で first author(or corresponding author)の論文が執筆できるなど）を具体的に話題提供してもらい，特に，本校の若手・中堅研究者の実力アップには研究環境を変えることでキャリアパスを考え，研究分野やラボ運営形態 などについて、広い視野を持つことが大いに期待できる。また，海外大学や研究所に滞在することにより，研究室の資金繰りの管理，研究者へのトレーニング，コンプライアンスの遵守，研究成果の投稿などの業務が多岐にわたる研究責任者・研究論文責任者 PI（Principal Investigator）になるための大切なポイントを学ぶ契機でもある。	電気情報工学科 [redacted]先生
16:05-16:20	質疑応答	
16:20	閉会の辞	教務主事

第２回 FD 講演会実施要項

１．実施日時：平成31 年11 月27 日（水）15時～16 時 20 分
２．実施場所：多目的ホール
３．司会：　教務主事
４．テーマ:「（仮題）明石高専におけるアクティブラーニングと授業改善への継続的な取組み」
　　講師：明石工業高等専門学校　電気情報工学科　教授
　　アクティブラーニングセンター長
　　[redacted]先生
５．概要
(1)　外部講師による講演を実施し，最後に全体討議を行う。
(2)　講演者には，行事の趣旨と目的に基づき，授業改善の観点を主体とした講演を行っていただく。

６．スケジュール

15:00	開会の辞	教務主事
15:00-15:05	挨拶	校長
15:05-16:05	講演会 題目（仮題） 「明石高専におけるアクティブラーニングと 授業改善への継続的な取組み」 概要 　明石高専では教育 AP 事業のテーマⅠ：アクティブラーニングに採択され、1 年生の必修科目「AL 入門」の開講、それに続く全 4 学科 2、3、 4 年生の学生約 500 名と全ての専任教員 63 名による、自立、協働、創造の力を養うことを目的とした学科学年横断型 PBL 科目「Co+work(コープラスワーク)」(必修科目)が開講されている. 　Co+work では、全教員が担当し、テーマ相互検討会の導入、教員 8 人組による意見交換会など、教員相互の授業運営に対する学び合いが促されている。また、この科目の導入を契機に、すべての学科で PBL 型科目をさらに増加させるための FD が実施されている。本事業の特色としている学生の感情把握については、オリジナルの振り返りシートを用いて実践し、学生の Competency の変化を PROG 試験を用いて実施した。分析の結果、これまで学年進行に伴い変化の無かった Competency が明らかに伸びており、特 に 4 年生の成長が大きく、同年齢の大学生の Competency を上回る成果を挙げた。 　本講演では、教員スキル強化の目的や手法、取組みの効果（学生の Competency の増加等）について、実践例を交えながらご紹介いたします。	明石高専 電気情報工学科 [redacted]先生
16:05-16:20	質疑応答と全体討議	
16:20	閉会の辞	教務主事

令和元(2019)年度 授業参観実施要項

１．趣旨

事前に実施される「FD 講演会」との連携を図り、FD 活動の一環として教員相互の授業参観を行う。授業参観を通して、授業改善あるいは教科目連携改善の機会とする。また，本校学生の保護者や，広く一般の教育関係者に授業を公開し客観的な評価を受けることにより，授業運営能力及び教授能力の向上を図る機会とする。ただし、今年度の第 1 回 FD 講演会は在外研究報告とする。

２．参観者

前期授業参観週間：本校教職員（非常勤を含む），
外部公開（本校学生の保護者，中学生とその保護者，及び中学校等の教育関係者）
後期授業参観週間：本校教職員（非常勤を含む）のみ

３．実施期間

前期授業参観週間：5月17 日（金）～23 日（木）
後期授業参観週間：12 月10 日（火）～16 日（月）
尚、授業参観週間以外であっても常勤教員の授業については随時、参観可とする。

４．参観対象授業

① 本校教員にあっては，FD 講演会等で紹介された授業改善の方法を少しでも取り入れることを検討する。授業参観週間の参観対象科目は基本的には全授業科目であるが，前期は教育 AP 推進室長から推薦された「先端的メディアを活用した授業科目」の参観，後期は AP で実施した授業アンケートの結果をもとに学生から推奨されている授業科目などを別途，推奨する。
② 学外者等にも上記 1. の趣旨を伝え，実験実習を含む本科及び専攻科の全授業を参観対象とする。（ただし，特別な理由がある科目や卒業研究，特別研究を除く）

５．周知方法

① 学内者：教員は教務主事より伝え，事務職員・非常勤講師は教務係長から伝える。
② 保護者：保護者宛ての案内文書を送付（案内文書と授業時間割）
③ その他学外者：ホームページ（菅原教務委員担当）

６．授業評価の方法

① 学内者は，別紙１の報告書を電子ファイルで，教員は教務委員，事務職員は教務係長へ提出する。（前期授業参観週間：5 月 31 日（金）〆切　後期授業参観週間：12 月 20 日（金）〆切）
② 保護者及び学外者には，別紙２のアンケート用紙を受付で配布し，教務係で回収する。（授業参観週間のみ）
③ 提出されたすべての報告書等を PDF 化して学内ホームページに公開し，参考資料とする。
④ 各学科では学科長と教務委員が連携のうえ，授業改善や科目連携の趣旨に基づく検討を行った記録を残す（学科会議等の議事録で可）。
⑤ 教務主事は，各学科の検討結果をとりまとめ，総括を行う。

７．保護者及び学外者への対応

① 受付：学生課窓口（保護者は名列表に人数を記載，保護者以外は所属と氏名を記載）
② 受付で，リボン，アンケート用紙，授業時間割表，敷地建物案内図，筆記用具を渡す。
③ アンケートの回収：学生課窓口に回収箱を設置

８．その他

① この期間に工場見学等の学外授業（特活を除く）を計画しないよう全教員に依頼にする。
② 学級担任に教室の後部に参観用空きスペースを設けるようお願いする。

年間を通したFD活動の状況がわかる資料

資料2-4-1-(2)-02

平成 31 年 4 月 24 日
スパイラルアップ会議資料

平成 30 年度の活動報告

FD 活動推進会議

平成 30 年度 FD 活動一覧

番号	実施項目	概要
1	新任教員研修（校内）	3 月 1 日（木），4 月 2 日（月）　本校教務主事室，学生主事室，寮務主事室など
	一般（人文）[redacted]生，D 科 [redacted]先生，A 科 石[redacted]先生の新任教員 3 名が参加した．	
2	新任教員研修（派遣）	6 月 6 日（水）～7 日（木）　学術総合センター
	一般（人文）[redacted]先生，[redacted]先生，D 科 [redacted]先生，A 科 [redacted]先生の 4 名が参加した．	
3	第 1 回 FD 講演会（校内）	5 月 9 日（水）　本校多目的ホール
	「MCC における実験・実習能力および分野別横断能力の評価方法について」をテーマに，C 科学科教員（[redacted]生、[redacted]生）による講演を実施し，最後に全体討議を行った．教職員 66 名の参加があり，学生自身による実験・実習能力評価の実施に結びつけること等を主なポイントとした．	
4	授業参観週間（校内）	5 月 18 日（金）～24 日（木）　本校教室等
	教職員から　件の報告書提出、　名の保護者参加があり，教務掲示板にて学内公開された．また，各科の学科会議において講義方法についての意見交換がなされた．学生が魅力的な内容と感じる授業内容や課題設定，また，有効なアクティブラーニングの形態等について，継続して授業への活用，展開が期待される．	
5	機構本部主催中堅教員研修（派遣）	8 月 6 日（月）～8 日（水）学術総合センター
	中堅教員を対象とし，学生指導力（青年期の行動・心理、面談法、クラス運営），授業力（授業設計，学習意欲，アクティブラーニング等），マネジメント力／連携協働力（組織のあり方，リスク管理，情報共有等），研究力（研究ネットワーク，外部資金等），教員倫理（倫理，コンプライアンス等）の能力向上を目的とした研修に，一般（自然）[redacted]生、M科　[redacted]先生の 2 名が参加した．	
6	機構本部主催管理職研修（派遣）	9 月 5 日（水）～6 日（木）東京都大田区産業プラザ PIO
	学校管理能力，教育課題等に関する高度・専門的な知識を修得させ，各校の中核となる管理職の経営能力の育成･向上を図るとともにリーダーの育成を図ることを目的とした研修に D 科 [redacted]先生が参加した．具体的なテーマは以下の通り。マネジメント力／連携協働力（学校運営，組織のあり方，目標管理，人材育成，リスク管理，情報共有等），教員倫理（倫理，コンプライアンス等），	
7	機構本部主催学生支援担当教職員研修（派遣）	9 月 13 日（木）～14 日（金）国立オリンピック記念青少年総合センター
	学生の支援にあたる教職員の個々の資質・スキル向上の推進と組織として学生支援に対応するための意識啓発を目的として，学生主事，学生主事補，学生相談室担当教職員，看護師等を対象にした研修である．学生の事件・事故防止や学生支援等についての講演や分科会が行われ，学生相談室長の[redacted]先生が参加した．	
8	第 2 回 FD 講演会（校内）	11 月 28 日（水）　本校大会議室
	主体的・対話的で深い学びを実践するために，授業を進めるうえで必要となる「教員の心構え・スキル」について，有志教職員が自発的かつ継続的に FD を開催してブラッシュアップを図っている仙台高専の取り組みが講演された。教員スキル強化の目的や手法、取り組みの効果について実践例を交えながら紹介があり，教職員 56 名が参加した．	
9	後期授業参観（校内）	12 月 11 日（火）～17 日（月）本校教室等
	教職員から　件の報告書提出があり，教務掲示板にて学内公開された．また，各科の学科会議においてアクティブラーニングを取り入れた授業に対する意見交換がなされた。アクティブラーニングによって得られる効果を明らかにすべきだとする意見も多く，授業アンケート結果等から評価していくことが今後の課題である．	
10	機構本部主催教育改革推進本部プロジェクトワークショップ（派遣）	12 月 7 日（金）　鈴鹿高専

	「分野別工学実験・実習能力及び実質化に関する評価指標の開発」におけるモデルコアカリキュラムに沿った『実験の評価』について共有を図ることを目的としたワークショップが第 3 ブロックの高専教員を対象に行われた。D 科の福永哲也先生が参加した.	
11	機構本部主催教学 IR 勉強会（派遣）	12 月 25 日（火）～26 日（水）　学術総合センター
	各校IR担当者の育成を進めると共に「IRとは何か」という観点から他の教育機関の事例を基に教学IRを認知するとともに，その活用の可能性に関して知る機会を設け，各校においてIRの重要性を展開することを目的とした勉強会である．教務主事と専攻科長の[redacted]生が参加した.	
12	機構本部主催高専教育シンポジウム（派遣）	1月28日（月）　学術総合センター
	高専教育は産業構造の変化，地域社会の在り方，急激なグローバル化などの社会変化に応じた進化が求められている。高専教育における教育改革を推進することを目的としたシンポジウムが開催され，研究主事（次期教務主事）の和田清先生，AP推進室長の所哲郎先生が参加した.	
13	教育 AP 関連 ・AP 採択 6 高専合同フォーラム In 小山（派遣） ・AP テーマⅠ・Ⅱ複合型採択校成果報告会（派遣：所先生） ・平成 30 年度岐阜高専 AP 事業公開成果報告会（学内）	1 月 26 日（土）　小山高専 3 月 14 日（木）　山口大学 3 月 8 日（金）　本校多目的ホール
	様々な AL 教授技法と授業設計，学習活動と評価，AL 研修のデザインを学び，各校において AL の普及を軸とした教育の高度化を推進することを目的とした教育 AP 関連の報告会であり, E 科　所哲郎先生が参加した．本校開催の成果報告会の参加者は 77 名（外部 26 名（OB 10, 他高専 8, 企業 2, その他 6）教員 32， 職員 19）であり, 報告会後には活発な意見交換なども行われた.	

＊詳細は「H30 年度教務掲示板」内，「3.教務主催行事関係」（下記 URL）を参照ください.
【参照 URL】[redacted]

4 月

日	曜	学校行事・会議等	本科関連行事等	専攻科関連行事等
1	月	新任教員研修(校内)9:00, 第1回学級担任会議13:00, 健康診断実施説明会		
2	火	第1回主管会議9:30, 第1回運営会議13:00, 第1回入試運営委員会(運営会議終了後), 前期TA審査会, 第1回教員会議15:00	春季休業終, 開寮13:00, 寮生会役員研修	春季休業終, 開寮13:00
3	水	教育後援会の説明会11:15	第57回入学式9:20, 新入生歓迎会, 入寮式, 新入寮生歓迎会, 学級懇談会13:30(5年)	第25回入学式9:20, 履修ガイダンス(1年)10:30
4	木	第1回クラブ顧問連絡会議16:20	学級指導,始業式,クラス写真撮影(1年), 健康診断, 大学編入学・専攻科進学説明会16:00	履修ガイダンス(2年)10:00, 始業式, 交通安全教育(1・2年)11:10, 健康診断
5	金		開講, 尿検査(1回目)	開講, 尿検査(1回目)
6	㊏			
7	㊐			
8	月		1年校内研修	
9	火	ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ運営委員会16:20	交通安全教育(5年：Ⅳ限終了後), 締切:仮進級者及び1～3年原級留置者単位修得申請	
10	水	AP会議, 専攻科・専門学科合同会議15:00, ﾒﾃﾞｨｱ委員会16:00	日本学生支援機構奨学生募集説明会15:00	日本学生支援機構奨学生募集説明会15:00
11	木		岐阜県選奨生募集説明会16:20, 尿検査(2回目), 全寮総会	尿検査(2回目)
12	金		TOEIC試験(5年:Ⅳ限目から実施・ 要授業変更)	締切：単位修得申請, 締切：単位追認申請
13	㊏		新入寮生歓迎球技大会	
14	㊐			
15	月	教育後援会役員打合せ18:00	クラブ登録	
16	火		交通安全教育(4年：Ⅳ限終了後)	
17	水	第1回専攻科会議15:00, 教職員健康診断	健康診断(予備日), 尿検査 (再検査のみ)	特別研究１審査会 (2年発表,1年聴講), 健康診断(予備日), 尿検査 (再検査のみ)
18	木	中核人材育成塾		
19	金	第1回点検評価・FU委員会16:20		
20	㊏			
21	㊐	教育後援会役員会10:30		
22	月	開校記念日		
23	火	締切：1～4年前期中間試験申請, 第1回安全衛生委員会16:20		
24	水	4年学級担任会議15:00, スパイラルアップ会議16:00	インターンシップガイダンス(4年), 学生会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動(MSﾘｰﾀﾞｰｽﾞ), 学生会評議会(ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動後)	インターンシップガイダンス(1年)
25	木	中核人材育成塾		
26	金		締切:選択科目受講取消願提出	
27	㊏		閉寮11:00	閉寮11:00
28	㊐			
29	㊊	昭和の日		
30	㊋	休日		
摘　要		名誉教授称号授与式, 第1回校長・事務部長会議(機構)	寮生会前期役員認証式, 各寮総会(4/3～4/10), 寮生避難訓練, 学業成績優秀者表彰式	

資料2-4-1-(2)-02

5 月

日	曜	学校行事・会議等	本科関連行事等	専攻科関連行事等
1	㊌	即位の日		
2	㊍	休日		
3	㊎	憲法記念日		
4	㊏	みどりの日		
5	㊐	こどもの日		
6	㊊	振替休日	開寮13:00	開寮13:00
7	火			
8	水	AP会議，第1回ＦＤ講演会15:00	第1回環境活動の日	
9	木	中核人材育成塾， 東海地区国立高専体育大会運営委員会		
10	金			
11	㊏			
12	㊐			
13	月			
14	火		学生会行事（体育2h）	2020年度専攻科入学願書 受付（推薦）
15	水	第1回将来計画委員会15:00， ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ運営委員会16:00	サークル活動リーダー研修会 （Ⅲ限終了後）	
16	木	中核人材育成塾		
17	金		寮祭	寮祭
18	㊏			
19	㊐			
20	月		献血	献血
21	火	第2回安全衛生委員会16:20	第1回授業参観週間	
22	水		学生会評議会15:00	2020年度専攻科選抜検査(推薦)
23	木	中核人材育成塾	発表：前期中間試験（1～4年）	
24	金			
25	㊏	寮生保護者懇談会(午前)， 教育後援会総会13:30		
26	㊐			
27	月			
28	火	第2回専攻科会議16:20		
29	水	第2回主管会議(専攻科推薦審議･判定)10:40， 第2回運営会議(専攻科推薦協議)15:00		
30	木			2020年度専攻科合格者発表（推薦）
31	金		前期中間試験（1～4年）	
摘　要		参与会	岐阜県高校総合体育大会	

11 月

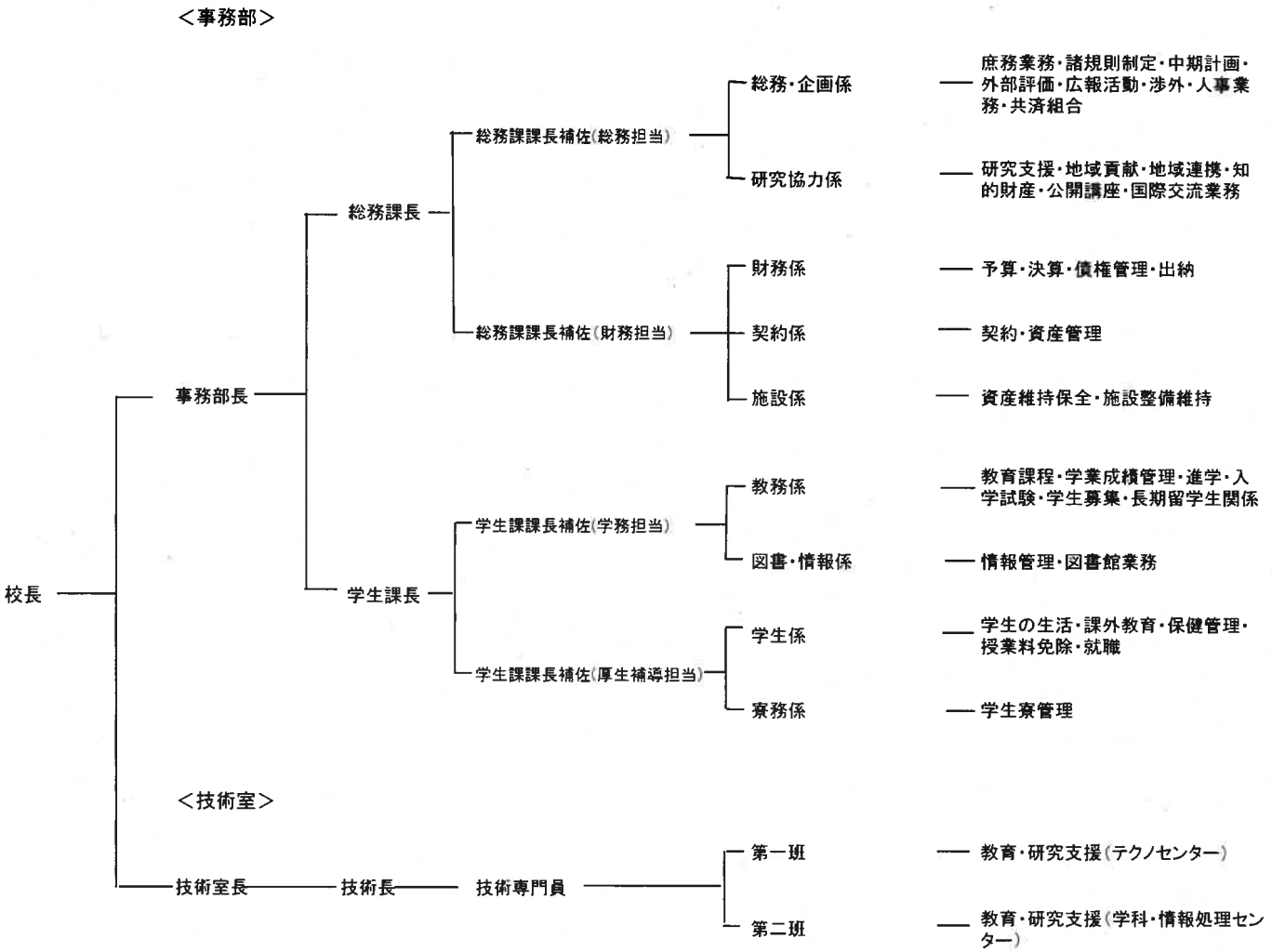
日	曜	学校行事・会議等	本科関連行事等	専攻科関連行事等
1	金		学生会役員選挙公示	特別実習報告会
2	㊏	地区保護者懇談会(飛騨)13:00		
3	㊐	文化の日 地区保護者懇談会(愛知)13:00		
4	㊊	振替休日		
5	火	締切：情報処理教育・研究報告応募申込	4年研修旅行	交通安全教育(1･2年:Ⅳ限終了後)
6	水	AP会議	3年研修旅行，1・2年補講･補習	補講・補習
7	木		1～3年補講･補習	
8	金		1～3年補講･補習	
9	㊏		東海北陸地区高専英語ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ ｺﾝﾃｽﾄ(鳥羽)	
10	㊐			
11	月			
12	火		交通安全教育（4年：Ⅳ限終了後）	
13	水		学生会評議会15：00	2020年度専攻科選抜検査(後期,学力)
14	木	2020年度専攻科選抜検査(後期,学力)採点		
15	金			
16	㊏	地区保護者懇談会(滋賀,岐阜)13:00	実用数学技能検定「数検」試験	
17	㊐	地区保護者懇談会(東濃)13:00		
18	月		学生会役員選挙	
19	火	第8回専攻科会議16:20	発表：後期中間試験(1～4年), 交通安全教育（5年：Ⅳ限終了後）	
20	水	第8回主管会議(専攻科学力審議･判定)10:40, 第8回運営会議(専攻科学力協議)13:00, 第4回教員会議15:00		
21	木			2020年度専攻科合格者発表 （後期，学力）
22	金	永年勤続者表彰		
23	㊏	勤労感謝の日, 地区保護者懇談会(美濃･可茂,西濃)13:00		
24	㊐		高専ロボコン2019全国大会(国技館)	
25	月			
26	火	第8回安全衛生委員会16:20		
27	水	第2回ＦＤ講演会15:00	後期中間試験（1～4年）	
28	木			
29	金			
30	土		締切:2020年度選択科目受講者申請	
摘　要			日本学生支援機構奨学金返還説明会, ぎふサイエンスフェスティバル (岐阜市文化センター)	日本学生支援機構奨学金返還説明会, 大学院進学説明会

12 月

日	曜	学校行事・会議等	本科関連行事等	専攻科関連行事等
1	(日)	入試説明会(本校)13:30		
2	月		後期中間試験（1～4年）	
3	火			
4	水	第9回主管会議9:30，第9回運営会議15:00， 第5回入試運営委員会，第2回人権委員会		
5	木			
6	金	テクノシンポジウム2019， 第13回地域連携協力会総会		
7	(土)			
8	(日)		第16回全国高専ﾃﾞｻﾞｲﾝｺﾝﾍﾟﾃｨｼｮﾝ2019 （産技　品川）	
9	月			締切：入学意志確認書(後期，学力)
10	火			
11	水	成績締切:1～4年後期中間･仮進追認(第2回)， AP会議，第9回専攻科会議15:00	専攻科･大学編入学･大学院進学希望者ガイダンス(3･4年)15:00	専攻科･大学編入学･大学院進学希望者ガイダンス15:00
12	木			
13	金		第2回授業参観週間	
14	(土)			
15	(日)		環境社会検定（ＥＣＯ検定）	
16	月	締切:情報処理教育･研究報告原稿提出		
17	火	第9回安全衛生委員会16:20		
18	水	ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ運営委員会15:00， ﾒﾃﾞｨｱ委員会16:00	専攻科入学予定者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ(5年)15:00， 寮生クリスマス会，全寮総会	
19	木			
20	金			
21	(土)			
22	(日)			
23	月			
24	火		(授業終了後)大掃除，学級指導，閉講	(授業終了後）閉講
25	水		冬季休業始，寮生大掃除，閉寮11:00	冬季休業始，寮生大掃除， 閉寮11:00
26	木			
27	金			
28	(土)			
29	(日)			
30	月			
31	火	大晦日		
摘　要		東海地区国立高専体育大会運営委員会， 東海・北陸地区国立高専教務主事会議 （石川）	就職講演会（4年）， 学級指導者賞表彰式， 東海地区高専留学生交流会 （主管：沼津）	

教育支援者の配置状況がわかる資料

事務部・技術室の組織図



教育支援者等の資質向上の取組がわかる資料

研修参加状況一覧【教員用】

研修先	研修名	平成27年度	平成27年度の開催日	平成28年度	平成28年度開催日	平成29年度	平成29年度開催日	平成30年度	平成30年度開催日	令和元年度	令和元年度開催日
高専機構	教員研修【管理職研修】	（専攻科長）	H27.7.2～7.3	（寮務主事）	H28.7.11～7.12	（電子制御工学科長）	H29.9.14～9.15	（電子制御工学科長）	H30.9.5～9.6	（寮務主事）	R1.9.2～R1.9.3
	教員研修【ｸﾗｽ経営・生活指導研修会】 H27～中堅教員研修	淳 宏	H27.8.24～8/26	彦	H28.8.29～8.31	治	H29.8.28～8.30	也 美	H30.8.6～8.8	孝	R1.8.7～R1.8.9
	新任教員研修会	秀	H27.4.27～4.28	喜 駿 史	H28.5.16～5.17	彬 慎	H29.5.15～5.16	子 樹	H30.6.6～6.7	子	H31.5.9～H31.5.10
	英語授業講義強化プログラム教育評価研修			岳 史							
	「英語教授力の現状把握」		H28.1.18～,19 H28.3.7～.8								
	英語担当教員研修				H28.9.20～21 H28.12.12～13						
	アクティブラーニングトレーナー教員研修会		H27.12.2～12.3		H28.12.21～12.22						
	学習管理ｼｽﾃﾑBlackboard										
	情報系教員対象情報セキュリティ講習会	吾			h28.12.7～12.9						
	英語教育高度化推進のための「英語教授力の現状把握」	喜	H28.3.1								
	CTT+ﾎﾙﾀﾞ研修	治	H28.3.3～4	】			H29.12.25～12.26				
	ｲﾝｽﾄﾗｸｼｮﾅﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ研修	太	H28.3.14～15		H28.12.5～12.6						
	学生指導支援実施責任者研修						H29.925～9.26				
	学生支援担当教職員研修						H29.10.10～10.11	之	H30.9.13-9.14		R1.9.9～R1.9.10
	東海・北陸・近畿地区国立高等専門学校学生指導力向上研修										R1.12.25～R1.12.26
日本学生支援機構	障害学生支援研修会「理解・実践プログラム」「基礎プログラム」 H30～障害学生支援理解・啓発セミナー		27.8.20～8.21	基礎】	H28.8.25～8.26			之	H30.10.23		
日本学生相談学会	全国学生相談研修会		H27.11.15～11.17				H29.12.17-12.19				
	全国学生相談セミナー		H27.8.8-8.9								

研修参加状況一覧【職員用】

研修先	研修名	平成27年度	平成27年度の開催日	平成28年度	平成28年度の開催日	平成29年度	平成29年度の開催日	平成30年度	平成30年度の開催日	令和元年度	令和元年度の開催日
高専機構	新任部課長研修			[redacted]課長】	H28.6.13～6.14			[redacted]部長】	H30.4.23		
	新任課長補佐・係長研修	[redacted]係長】	H27.7.27～7.29								
	技術職員特別研修	[redacted]【情報】	H27.8.19～8.21					[redacted]機械】	H30.8.27～30.8.29		
	技術職員研修（東海・北陸地区）	[redacted]	H27.9.2～9.4	[redacted]	H28.8.22～8.24	[redacted]	H29.8.30～9.1	[redacted]巳 [redacted]	H30.8.20～30.8.22	[redacted]充	R1.8.28～R1.8.30
	東海・北陸地区国立高等専門学校係長級事務研修会	[redacted]子 [redacted] [redacted]	H27.9.7～9.9	[redacted]香 [redacted] [redacted]子	H28.9.12～9.14	[redacted]宏 [redacted] [redacted]智	H29.9.6～9.8	[redacted]宏 [redacted] [redacted]	H30.9.12～9.13		
	初任職員研修会	[redacted]史 [redacted]恵 [redacted] [redacted]雄	H27.4.15～4.17			[redacted]い [redacted] [redacted] [redacted]	H29.4.17～4.19	[redacted]明	H30.5.30～6.1	[redacted]滉	H31.5.20～H31.5.22
	若手職員研修会	[redacted]文	H27.10.26～10.28	[redacted]津	H28.11.14～11.16	[redacted]恵	H29.11.29～12.1	[redacted]史	H30.9.25～9.27	[redacted]大	R1.10.23～R1.10.25
	施設担当職員研修会					[redacted]司	H29.10.18				
	IT担当研修会	[redacted]裕	H27.9.10～9.11	[redacted]裕	H28.8.3～8.5	[redacted]裕	H29.9.6～9.8			[redacted]裕	R1.9.3～6
	研究・知的財産契約業務研修	[redacted]香	H27.5.25～5.26								
	職員海外研修	[redacted]紀	H28.1.19～1.29			[redacted]大	H29.7.4～8.20				
	H24～人事担当者説明会 H25～人事担当者説明会及び本給決定担当者説明会 R1～人事担当者説明会									[redacted]一	R1.9.17～R1.9.19
	情報系教員対象情報セキュリティ講習会									[redacted]江	H31.9.25
	独法簿記研修	[redacted]恵 [redacted] [redacted]	H27.9.9/9.14/9/16								
	会計入門研修	[redacted]史	H27.8.3～9.18	[redacted] [redacted]代	H28.4.20～7.22 H28.8.10～11.11	[redacted]司 [redacted]	H29.9.29～12.22				
	情報担当者研修会	[redacted]之 [redacted]裕 [redacted]史	H27.11.16～11.17 H27.11.16～11.18 H27.11.17～11.18	[redacted]文 [redacted]裕 [redacted]史	H28.12.5 H28.12.5～12.7 〃	[redacted]文 [redacted]裕		[redacted]文 [redacted]裕		[redacted]文 [redacted]裕 [redacted]史 [redacted]大	R1.11.5～7 R1.11.5～7 R1.11.5～7 H31.11.6
	法人文書管理研修							[redacted]二 [redacted]夫 [redacted]代 [redacted]い	H31.3.22	[redacted]弘 [redacted]佳子 [redacted] [redacted] [redacted]	R1.12.23
人事院	ｾｸｼｭｱﾙﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止研修リーダー養成コース					[redacted]					
	中部地区係長研修	[redacted]	H28.2.3～2.5								
	中部地区パーソネル・マネジメントセミナー	[redacted]	h27.11.12.～h27.11.13	[redacted]							
	中部地区中堅係員研修	[redacted]】 [redacted]】 [redacted]】		[redacted]】 [redacted]】 [redacted]】 [redacted]		[redacted]巳 [redacted]】 [redacted]	H29.5.17～5.19	[redacted]】 [redacted]）		[redacted]雄 [redacted]	H31.5.8～H31.5.10
	中部地区女性職員ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ研修	[redacted]	①H27.5.12～5.14 ②H27.9.11	[redacted]	①H28.6.1～6.3 ②H28.10.21	なし					
	中部地区管理監督者研修					[redacted]】		[redacted]代	H31.1.10～1.11	[redacted]	R1.11.13～R1.11.14

研修参加状況一覧【職員用】

研修先	研修名	平成27年度	平成27年度の開催日	平成28年度	平成28年度の開催日	平成29年度	平成29年度の開催日	平成30年度	平成30年度の開催日	令和元年度	令和元年度の開催日
総務省	情報ｼｽﾃﾑ統一研修	【CD-ROM受講】 【CD-ROM受講】		【CD-ROM受講】 【CD-ROM受講】 【CD-ROM受講】		【CD-ROM受講】					
	情報公開・個人情報保護・公文書管理制度の運用に関する研修会							巳	H30.6.8	代	R1.6.7
	政策評価に関する統一研修									弘	R1.12.12
日本学生支援機構	全国障害学生支援セミナー「体制整備支援セミナー」 平成30年度からは「障害学生支援理解・啓発セミナー」	光	H27.10.14	光	H28.10.4		H29.8.18				
		二	H27.10.5	也	〃	紀	H29.9.26			紀	H31.10.1
文部科学省大臣官房文教施設企画部	省エネルギー対策に関する研修会					城	H29.8.29				
学生支援機構→(H22～)東海北陸地区	東海・北陸地区学生指導研修会		7.10.15～10.16					雄	H30.10.18-19	大	R1.9.26-9.27
										也	R1.9.26-9.27
国立大学法人等	東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会	世	h27.9.2～9.4	恵	H28.9.7～9.9	大	H29.9.13		H30.9.12-14	史	R1.10.23～R1.10.25
	東海地区国立大学法人等新任課長補佐研修					代	H29.7.20～7.21				
	東海地区国立大学法人等係長研修	城	H27.7.30～7.31	籍）		紀	H29.7.27～7.28			史	R1.7.18～7.19
	東海地区国立大学法人等中堅職員研修	紀 絵	H27.8.27～8.28			奈	H29.9.7～9.8	大	H30.9.13～9.14		
	東海地区国立大学法人等職員基礎研修	成 花	H27.5.20～5.21	史 み	H28.5.19～5.20	高橋　慎司	H29.6.27～6.28	い	H30.5.17～5.18		
	東海地区国立大学法人等目的別研修	子	H27.9.10～9.11	宏	H28.9.8～9.9	彩	H29.9.19～9.20			香	R1.9.5
	東海地区国立大学法人等ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ研修			子	H28.9.29～9.30	也	H29.9.28～9.29				
	東海・北陸地区学生指導研修会										R1.9.26～9.27
	岐阜大学「税務実務に関する研修会」			大	H28.10.20						
	岐阜大学事務系新任職員研修	史 恵 み 雄	H27.4.8			い	H29.4.10～4.11				
	岐阜大学補佐研修	行	H27.11.27								
	新任衛生管理者実務研修会										
県教育委員会	著作権セミナー										
県大学図書館協議会	岐阜県大学図書館協議会研修会									史	R1.11.21～22
岐阜公共職業安定所	企業トップ等を対象とする「公正採用選出に係る人権啓発研修会」	子	H27.8.31	子	H28.8.22	子	H29.9.4			弘	R1.7.16
文部科学省大臣官房文教施設企画部	公共工事入札契約適正化法等に関する講習会	城	H27.7.3	行	H28.7.8		H29.7.7				
	公共工事入札契約適正化法等に関する講習会	城	H28.1.29	城	〃						
	公共工事入札契約適正化法等に関する講習会			司	H29.2.6						
	文教施設応急危険度判定講習会					城	H29.10.3				

研修参加状況一覧【職員用】

研修先	研修名	平成27年度	平成27年度の開催日	平成28年度	平成28年度の開催日	平成29年度	平成29年度の開催日	平成30年度	平成30年度の開催日	令和元年度	令和元年度の開催日
文化庁	図書館等職員著作権実務講習会	[redacted]	H27.9.9～9.11	[redacted]	H28.9.29～9.30	[redacted]貴	H29.9.28～9.29			[redacted]代	R1.9
国立情報学研究所	ILLシステム講習会					[redacted]					
	目録システム講習会					[redacted]					
日本学術振興会	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	[redacted]史 [redacted]恵	H27.7.15	[redacted]史 [redacted]恵	H28.7.12 〃						
財務省	法人会計事務職員研修生	[redacted]世	H27.10.1～11.18								
国立公文書館	公文書管理研修Ⅰ		H27.10.1～11.19			[redacted]い	H29.11.22				